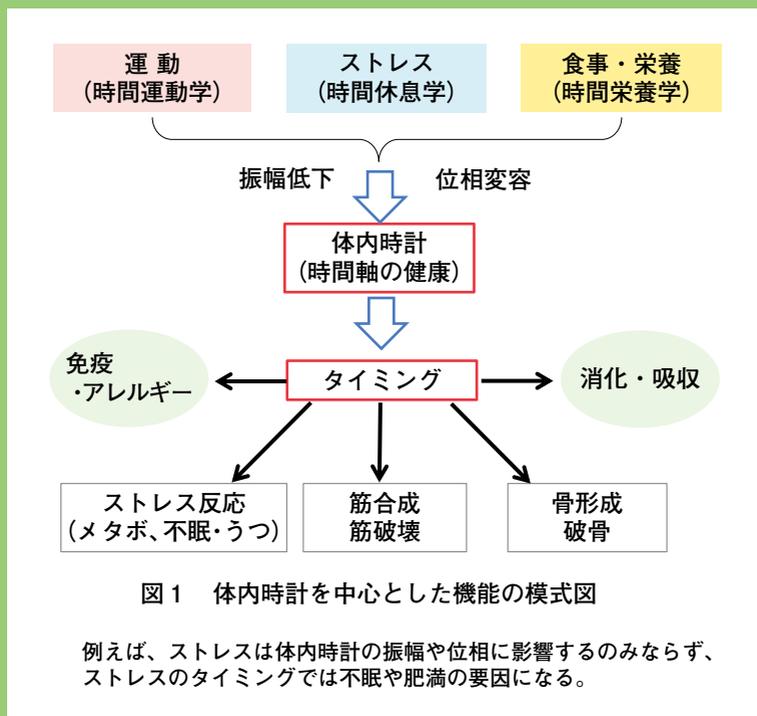


早稲田 EWE 57

電気工学会会報



2016-Mar.

<http://www.ewe.or.jp/>

2016年度通常総会開催通知

早稲田電気工学会

会長 松本 隆

拝啓、時下益々ご清栄の段お慶び申し上げます。

さて、標記通常総会を下記の通り開催致しますので、万障お繰り合わせの上、会員お誘い合わせてご出席いただき、EWEの運営・活動などについてご意見を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日 時 2016年5月20日(金) 18時～19時
2. 場 所 早大西早稲田キャンパス55号館2階 第3会議室
3. 議 題 (1) 2015年度事業経過報告および決算
(2) 2016年度事業計画および予算
(3) その他
4. 懇親会 早大西早稲田キャンパス55号館2階 第4会議室
5. 懇親会会費 3,000円

出席される方は、事務局までご連絡くださるようお願いいたします。

以上

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1

早稲田大学西早稲田キャンパス内

早稲田電気工学会 事務局

電話/FAX：03-3232-9768（直通）

E-mail：jimukyoku@ewe.or.jp

URL：http://www.ewe.or.jp/

もくじ

○巻頭言「不易流行」	3
○講演「ストレスと時間軸の健康科学」	7
EWE会長 松本 隆	
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻教授 柴田 重信	
○退任に際して	11
情報理工学科／情報理工・情報通信専攻教授 笥 捷彦	
情報通信学科／情報理工・情報通信専攻教授 朴 谷震	
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻教授 井上 宏子	
○追悼「平山 博先生を偲んで」	17
早稲田大学名誉教授 富永 英義	
○教員の横顔「電子物理システム学科」	19
○特別研究期間報告「海外滞在は、定量目標をもって若いうちに長く楽しみなさい ～モンテリオール在外研究の体験より～」	22
情報理工学科／情報理工・情報通信専攻准教授 鷺崎 弘宜	
○若手OBの活躍「[志]と[周りの人々]」	24
経済産業省、現在米国留学中 立石 拓也	
○寄稿「塚田啓一氏を送る会」	26
○修士課程修了にあたって	27
電気・情報生命専攻 山嵜 朋秀 (若尾研究室)	
情報理工・情報通信専攻 川端 萌美 (嶋本研究室)	
電子物理システム学専攻 嶋田 裕介 (宇高研究室)	
○地方本部だより	30
九州地方本部／北海道地方本部／東海地方本部／中国地方本部／関西地方本部	
○クラス会だより	36
電気通信学科1947 (昭22) 年卒、電気通信学科1948 (昭23) 年卒	
電気通信学科1951 (昭26) 年卒、電気工学科1953 (昭28) 年卒	
電気工学科1955 (昭30) 年卒、電気科1959 (昭34) 年卒	
電気工学科1962 (昭37) 年卒、電気通信学科1971 (昭46) 年卒	
電気工学科1971 (昭46) 年卒	
○学生支援基金報告	
「ものづくりサークルWITSの活動内報告」	45
「E Tロボットコンテスト デベロッパー部門 東京地区大会報告書」	46
「セキュリティコンテストSECCON2015に出場して」	47
○先輩訪問「NHK放送技術研究所訪問」	49
「富士通を訪ねて」	51
○EWE活性化委員会2015年度活動報告	53
○見学会報告「NTT横須賀研究開発センタ」	54
○EWE三月会2015年度活動報告	55
○学生会報告「研究室対抗ソフトボール大会に寄せて」	56
○2015年度修士論文一覧	57
○2015年度学部卒業生一覧	68
○2015年度博士号取得者一覧	73
○受賞・褒章	74
○2015年度就職状況	78
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻教授 牧本 俊樹	
情報理工学科／情報理工・情報通信専攻教授 中島 達夫、石川 博、田中 良明	
電子物理システム学科／電子物理システム学専攻教授 柳澤 政生	
○2015年度就職先一覧	84
○2015年度評議員委嘱状況	88
○2015年度終身会費納入者、寄付者一覧	91
○逝去者一覧	92
○編集後記	94

巻頭言

不易流行

早稲田電気工学会会長 松本 隆



「不易流行」という考え方がある。^{ものごと}物事には時間に変化する相と、時間と共に変化する相の両方があり、両者は切り離せない事を述べたものである。大学での「流行」が大学改革などに伴う学部・学科などの組織変更に対応すると考えると、「不易」は学部・学科などの研究・教育の基本的な考え方に対応すると考えられる。大学の不易流行について考えてみたい。

「流行」：大学が巻き込まれた3つの嵐

皆さんの母校早稲田大学も含め、日本の大学には戦後3つの嵐が吹き荒れ、多くの組織変更が行われた。

◆第1波1949年5月

敗戦とともにすべての大学は新制大学に移行した。一般教養教育、専門教育、学部・大学院の目的とその年限・内容等に大幅な変更が加えられた。もともと日本の大学は明治政府がドイツのベルリン大学の理念・組織・運営方式を輸入したものだだったが、この時の嵐によりドイツとは大きく異なる米国の大学のそれらとの折衷が行われ、いくつかの問題も発生したまま今日に至っている。

◆第2波1968年5月

フランスのパリで大規模なデモがあり、一部暴徒化したことに端を発した。原因はいくつかあったが、その一つにフランスの大学運営に対する学生の不満があり、たちまち大西洋を越えて米国に飛び火した。ここでの火種はベトナム戦争で、自分たちは一生懸命勉強しているのに、特に動機のない東南アジアの国まで出かけて行って人殺しをする、あるいは自分が殺されるのは耐え難いことだったと言えよう。米国全体にあつという間に広がったのみならず日本にも飛び火し、皆さんの母校早稲田大学も大隈講堂占拠、研究室封鎖、期末試験施行不能等いくつかの異常事態が発生した。その後混乱そのものは収束したが、各大学共、いくつかの傷跡を残すことになった。

◆第3波1991年12月

旧ソ連が崩壊し、社会のあらゆる部分が「市場化」の嵐に見舞われた。大学も社会の一部なのでこの嵐に巻き込まれ、世界中の大学が大幅な舵の切り直しを余儀なくされた。早稲田大学も例外ではない。2016年現在、第3波に対応する改革もほぼ収束し、日本の大学も大半は現在組織変更ではなく、研究・教育の本質を見極めてその質の向上に注力していると言ってよいであろう。

こうして振り返ると、大学が巻き込まれた嵐の発生源は頗る政治的なものであって大学人のみで取り除くこと等できない性質のものであった。20世紀に3回嵐があったので、平均的には30数年に一度位はやってくる可能性がある。前回の1991年から25年が経過しており、すでに次の嵐の予兆は十分に見て取れる。

「不易」：故帆足教授の業績顕彰

時間軸を更に遡ると、私たちの社会は約150年前、ある別の文明と邂逅した。この文明は、幸か不幸か幾つかの側面で強大であったため、私たちの社会は多くの辛い、また微妙な事件に巻き込まれた。上記3つの嵐も、もとはといえば、そのような諸事件の帰趨であるばかりでなく、状況は2016年の今日でも続いている。大学改革の嵐は、政治的な事件がその発生源であったが、学術研究は政治的ではないものの、大きな歴史のうねりに巻き込まれたものがいくつかある。今回EWE先輩の研究で若干微妙な経緯を辿った研究業績が顕彰されたのでそれをご報告したい。

EWE先輩、故帆足竹治教授の、助教授時代の業績〔1〕が「でんきの礎」（電気学会）として顕彰された：

【「でんきの礎」は、近代日本における歴史的に記念されるべき研究業績、製品等を顕彰し、それを科学技術の未来の糧としようとするものである】〔2〕。

〔1〕は次の様に要約される：回路素子としての抵抗、インダクタ、キャパシタ各々の研究はOhm、Faraday、Henryらにより開始された。また、これらの素子を複数接続した時の接続構造が満たす法則の研究はKirchhoffをもって嚆矢とする。回路網はこれら2種類の法則を同時に満たすため興味深い性質を持つものの実現が可能であって21世紀においても社会を支える技術の一端を担っている。一方、複数の法則を同時に満たす必要があるため扱いが煩雑になる事がままあり、一般的かつ見通しのよい基本原理が望まれた。Thevenin、Nortonなどの名前付きで呼ばれる原理がそれにあたり、〔1〕もその様なものの一つである。これらの基本原理は三つの共通する特徴を備えている：

- (i) 複数の素子が任意に接続された一般的線形回路網に対して成立する
- (ii) 計算量の削減
- (iii) 導出された式の見通しの良さ

一般に、回路網内の節点電位を求めるには、上述のように複数の素子特性と複数のKirchhoff則からなる多元連立方程式を解く必要があるが、〔1〕によれば任意の節点における電位が一つの式で表されてしまう：

$$\text{任意の節点電位} = \frac{\text{(当該節点に接続するアドミタンス} \times \text{接続する電圧源) の和}}{\text{当該節点に接続するアドミタンスの和}}$$

例えば「複数電圧の重みつき平均値瞬時計算」、「3相非平衡回路の中性点電位計算」などは上述の単一式より直ちに従う。この原理は〔3〕－〔9〕を含め今日に至るまで当該分野の書籍・辞典・論文等で明示的に引用されているばかりでなく、21世紀に入ってもA/D変換回路、平均温度計測回路などの国内外特許の重要部分を通じて現実の場面でも社会に貢献してきている。〔1〕が「不易」たる所以である。1868年以後、私たちの社会は比較的短時間のうちに科学技術で世界レベルに到達していったが、〔1〕はそのような突出の予兆の一つであろう。そして、その様な予兆が発生可能であった理由は、おそらく江戸時代の学問・教育の充実^{ものごと}に帰されるのであろう。

物事は「時間・空間」両方のパースペクティブで捉える必要がある。例えば米国東海岸から日本を見た場合、米大陸4千キロを横断し、それから更にまた8千キロ超にある北東アジアにある小さな島国が私たちの社会である。そして〔1〕が発表された1927年といえ、少し遡れば人々が丁髷をゆっていた時代だったので、そういうところで先鋭的学術研究が行われているとは思われていなかったとしてもそれほど不思議はないであろう。〔1〕から13年後の1940年、後に米国Columbia大学教授となったMillmanが〔10〕で全く同じ原理を発表し、その原理は米国では彼の名前で呼ばれていた。故川上正光東工大教授は両方の論文を読んでおり、自らの著書〔3〕の執筆に際して、今後は「帆足-Millman」と呼ぶことを提唱し、はじめてこの呼称を用いたと思われる。〔1〕の業績に関して最近〔11〕、〔12〕でも報告されている。

このところ盛んに研究されている太陽光発電では、多くのソーラーセルが直・並列に接続された構造になっており、例えばシリコンのPN junctionをphotonに打たせることで光電変換を行う場合、非線形な電源を複数もつ直・並列回路網となり、〔1〕の一般化も可能かもしれない。



図1 〔1〕執筆のころの帆足助教授
(早稲田大学大学史資料センター所蔵)

むすび

〔1〕と〔10〕は、科学技術研究の中で微妙な経緯を辿ったものの一つといえるが、今回の顕彰は、個人ではなく学会が組織として近代日本の学術研究の一つとして称えるものであり、私たちの来し方行く末を考える際にも意義がある。約150年前、私たちの社会が邂逅した強大な文明は2016年現在、世界の人々を巻き込みながら衰退軌道を疾駆している。世界規模の嵐が発生しつつあり、結果として世界の大学も、そしてそれ以外の組織も再び巻き込まれる。そのような嵐の中で生き残る大学、より一般的には、生き残る組織、そして生き残る個人が備えておくべき必要条件是、常日頃から「流行」のみではなく「不易」の部分も考えている事である。

謝辞

〔3〕で初めて用いられたと思われる“帆足-Millman”の呼称に関する経緯につきご説明いただいた示村悦二郎名誉教授に感謝します。

参考文献

- 〔1〕 帆足、回路網結合の法則と其應用、電気学会雑誌、第467号pp. 595-610、1927
- 〔2〕 でんきの礎、「帆足竹治の発見した回路網結合の法則「帆足-Millmanの定理」、電気学会、2015
- 〔3〕 川上、基礎電気回路Ⅰ、コロナ社、初版、1960
- 〔4〕 電気工学ハンドブック、電気学会、1978
- 〔5〕 大野、西、大学課程 電気回路、オーム社、3版1刷、1999
- 〔6〕 ソリッドステート回路ハンドブック、丸善、1971
- 〔7〕 小澤、電気回路Ⅰ 基礎・交流編、初版6刷、昭晃堂、1984
- 〔8〕 尾崎、黒田、回路網理論、第1巻、共立、初版7刷、1970
- 〔9〕 法則の辞典、山崎、朝倉書店、2006
- 〔10〕 J. Millman, A Useful Network Theorem, Proc. IRE, vol. 28, No. 9, September, pp. 413-417, 1940
- 〔11〕 Y. Ohki, News from Japan, IEEE Electrical Insulation Magazine, pp. 64-65, 2015
- 〔12〕 松本、帆足竹治の発見した回路網結合の法則「帆足-Millmanの定理」、電気学会電気技術史研究会、2016

講演

「ストレスと時間軸の健康科学」

電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 柴田 重信

はじめに

近年、体内時計や時計遺伝子に関する研究が急速に進み、細胞、実験動物、ヒトに至るまでの生体リズムや概日リズムを評価する学問として時間生物学が発展した。規則正しい生活リズムは健康長寿の秘訣であるが、生活リズムの基本となるものが時間管理となる。一方、現代社会はストレスが充満しており、ストレスによる不眠やうつ病の発症が増加の一途をたどっている。最近、心の健康管理の



ため職場のストレスチェック制度が始まっており、ストレス解消法の重要性が指摘されている。メンタルストレスは不眠・うつ症状を引き起こし体内時計にも悪影響を及ぼし、体内時計の不調がストレス反応を助長する。本稿ではストレスが体内時計に影響し生活リズムが乱れる可能性について考える。また、体内時計が乱れるとそのことがストレスの要因になる可能性を考える。すなわち、ストレスと体内時計の相互作用について理解することが心身の健康に寄与する可能性を考察する。また、生活リズムの維持には食や運動が深くかかわるので、体内時計と食・運動の相互作用としての時間栄養学や時間運動学の重要性についても述べる。図1にはこれらの関係を図示している。

体内時計とは

体内時計とは、生体に周期変動をもたらす仕組みであり、周期の短いもの（約90分周期）から長い周期（1年周期）もある。最も代表的な周期として、約1日を1周期とするサーカディアンリズム（概日リズム）があり、活動量、体温、睡眠・

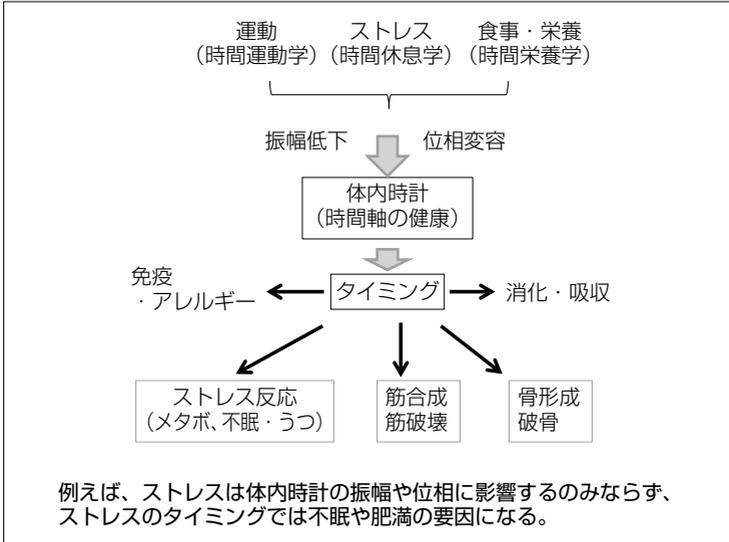


図1 体内時計を中心とした機能の模式図

覚醒、摂食など多くの生理機能に関与している。特に哺乳類においては、代謝、消化・吸収、エネルギー消費を含む多くの生理機能が体内時計によって制御されている。概日リズムは、細胞内の時計遺伝子 (Clock, Bmal1, Cry, Per) の転写・翻訳のフィードバックループにより、mRNAやタンパク質の転写や発現量に日内変動を作り出すと考えられている。また、体内時計を制御する時計遺伝子 (Per1, Clockなど) の発現リズムは、視交叉上核 (SCN) に強力に発現し、大脳皮質、海馬、線条体などの脳部位、さらには末梢組織の肝臓、膵臓、脂肪、骨格筋などにも強く発現することがわかっている。動物種にもよるがヒトの体内時計は24時間より0.2時間程度長い概日リズムであり、この概日リズムを24時間周期に合わせる機構を「同調」という。SCNの時計は光による明暗シグナルで強力に同調されているが、脳や末梢の時計は、毎日の食事・栄養あるいは運動により同調されている。

ストレスの体内時計に及ぼす影響

ストレスという外部の刺激に対して生体は防御反応を示すが、ストレス反応が強かつ長期に渡ると、生体は疲弊し疾病をもたらすことになる。ストレスが体

体内時計の振幅・位相・周期にどのような影響を及ぼすかについては知られていなかった。まず、拘束ストレスをマウスに与え、末梢の肝臓・腎臓・顎下腺の各臓器の体内時計を生きのまま測定した。その結果、非活動期の始めにストレスを負荷すると、末梢臓器の時計遺伝子発現の日内リズムが消失したり、大きく変動したりした。また、非活動期の真ん中にストレスを負荷すると末梢臓器の体内時計の位相は大きく前進したが、活動期の真ん中のストレスでは位相は大きく変動しなかった。また、物理的ストレスの代わりに、大きいマウスと一時的に同居させ、心理的な負荷をかける社会的ストレスを行っても、体内時計の位相は変化した。さらに、ストレス耐性を調べるために、ストレスを2-3週間続けると、体内時計に対する作用にも耐性が生じることが分かった。これらの結果をまとめ、ヒトの社会に還元すると、入眠前のストレスは、体内時計に対する負荷が強いので避けるべきであることが分かった。拘束ストレスが生じているときに、副腎皮質ステロイドホルモンとノルアドレナリンの分泌を調べると、いずれも大きく増大することが分かった。実際、これらの物質を投与すると、ストレスと類似した影響を時計にも及ぼすことがわかり、ストレスはこのような内分泌系を介する反応であることが示唆された。

ストレス以外にも運動も副腎皮質ステロイドホルモンとノルアドレナリンの分泌を促進させることが知られているので、運動の体内時計に対する作用を調べた。その結果、マウスの自発的な輪回し運動は体内時計にあまり強い影響を及ぼさなかったが、同じ運動強度と長さの強制走行運動をマウスに施すと、これは体内時計の位相を大きく変えた。またこの時に副腎皮質ステロイドホルモンとノルアドレナリンの分泌量を測定すると、自発的輪回し運動は僅かに分泌させるのに対して、強制運動は大きく分泌させた。これらのことは自発的運動は体内時計に負荷がかかりにくく、逆に強制運動は体内時計に大きな負荷がかかりやすいことを意味している。以上をまとめ、ヒトの社会に還元すると、夜遅く強制的にジョギングなどを行っている時、体内時計が夜型化する可能性が示唆された。

体内時計がストレス反応に及ぼす影響

ヒトでもマウスでも、活動期の始まりに副腎皮質ステロイドホルモンが分泌され、その後減弱するというリズムが見られる。またノルアドレナリンの分泌が盛

んなのは昼間の活動期で、就寝時間の頃には低下するリズムがある。したがって朝から昼にかけてのストレスは、これらの物質が分泌される時期と一致しているので、負荷が小さいと考えられる。一方、ストレスが夜に起こると、これらの物質の分泌リズムと逆位相になるので、生体に対する負荷が強く出て、不眠症などになりやすいことが想像できる。ストレスは種々の疾病の原因にもなっているので、ストレスによるうつ病・認知症や肥満・腫瘍促進などの視点で、ストレスの時間帯による違いが見いだせる可能性がある。

先にも述べたが、運動もある種のストレス反応を引き起こす。運動を負荷する時間を変え、マウスを用いて骨密度や骨格筋の量に及ぼす影響を調べた。朝運動は夕運動に比較して骨密度が増大することが分かった。また、給餌後の運動と、運動後の給餌の2群で比較したところ、給餌後の運動の方が骨密度が増大していた。マウスの後肢を懸垂させると、ヒトの寝たきり、また宇宙空間での生活と同じように、いわゆる廃用筋委縮が認められる。ところで、マウスの懸垂を朝、昼、夕に1-2時間中断させると、マウスの後肢に重力がかかり、筋肉委縮が防がれる。この中断は朝が一番効果的であることが分かった。すなわちこれらの結果をヒトの社会に還元すると、朝の運動は、骨密度増加にまた筋肉の衰え防止にも有効で、高齢者に見られるロコモティブシンドロームの防止に役立つ時間帯の運動であろうということが示唆される。

最後に

近年、体内時計と食事・栄養の関係を研究する時間栄養学の考えが重要視されている。時間栄養学は食事や食品成分の摂取時刻の違いが身体の生理的反応に及ぼす影響を考える。実際に、2015年の「日本人の食事摂取基準」においても習慣的なエネルギー・栄養摂取量だけでなく、むしろ、摂取のタイミングや速度などが身体に与える生理学的な影響について着目されている。したがって、ストレスのタイミングで摂取すると有効な食事・食成分が見つかる可能性、あるいは、運動と食・栄養の組み合わせで、より有効なロコモティブシンドロームの防止策が見いだせるかもしれない。

退任に際して

情報科学とEWE—学科の変遷

情報理工学科／情報理工・情報通信専攻 教授 笥 捷彦



早稲田大学に着任したのは1986年4月のことです。早稲田大学にはちょうど30年勤めたこととなります。月日の経つのは早いものだと感じています。その間に私の学科所属には何度かの変遷がありました。それを振り返ってみたいと思います。

1986年に着任した時の所属は数学科でした。折しも、早稲田大学の情報インフラの整備が大々的に推し進められているところでした。情報科学研究教育センター（広瀬健所長）、図書館情報センター（成田誠之助所長）、事務処理センター（白井克彦所長）が置かれていましたし、そして、富永英義教授の主導下に、本部キャンパス、文学部キャンパス、理工キャンパスをつなぐ光ケーブルによるコンピュータネットワークWINDが設けられていました。

それでもまだ、情報科学・情報工学を直接に扱う学科は早稲田大学にはありませんでした。私が早稲田大学に着任することになったのは、そうした学科を新設するためであったのです。早稲田大学の前には立教大学理学部の数学科で教鞭をとっていたので、数学科所属になりました。同様の位置付けで、1年前には村岡洋一先生が電子通信学科に着任しておられましたし、1年後には深澤良彰先生が電気工学科に着任されました。この3人で、情報科学研究教育センターの研究員も兼任しながら、新学科設立の準備に当たりました。

1991年に情報学科が設立されます。私も含めて3人はこの新学科に移籍しました。この学科には、数学科から広瀬先生を含めた6名、電気工学科から白井先生・成田先生を含めた3名、そして電子通信学科から2名が、それぞれ移籍してこられました。情報学科は、工学士・理学士の2コース構成でした。情報科学・情報工学の専門内容とともに数学の基礎力（当時の数学科で3年生までに学ぶもの）

を身につけさせるというのが基本コンセプトでした。1995年には、大学院に情報科学専攻を設立して情報科学の博士号を出すようになります。この間に、情報科学設立の牽引役を果たされた広瀬先生が1993年に急逝されたのが惜しまれます。

さて、情報学科ができると、EWEの学科が名前を変えていきます。電子通信学科が電子情報通信学科となり、電気工学科が電気電子情報工学科となりました。そうです。この時期、情報分野が急激に変化発展を遂げていったことを受けてのことです。私が着任した頃は、まだIBMのユーザ大学間でのBitnetによる電子メールが使えるだけでした。同じ頃にUnixシステム同士を主として電話回線網を介して接続するuunetが広がり始めます。といっても一部の大学・企業にとどまっていました。ところが、インターネットが始まり、WWWの仕組みが発明されると、あっという間に社会全体がインターネット抜きでは成り立たない世界に切り替わって行ったのです。

こうした背景の中、奥島総長は、就任と同時に情報化推進を掲げ、全学部インターネットにアクセスできるコンピュータルームを設け、全ての学生・教員・職員に電子メールが使えるようにしました。情報科学研究教育センターは、メディアネットワークセンターへと発展し、広く教育支援、研究支援を行うようになりました。この動きは白井総長にも引き継がれ、発展して今日に至っています。

さて、こうした中、情報学科も正式にEWEに加わります。さらに、世の中の新しい流れに呼応してEWEの学科を統合していこうという動きが生じます。2003年には、3学科が融合して、コンピュータ・ネットワーク工学科と電気・情報生命工学科の2学科になります。2007年には、理工学部が3学部に分かれたことに合わせて、コンピュータ・ネットワーク工学科は情報理工学科と改称して基幹理工学部に入り、電気・情報生命工学科は先進理工学部に入りました。さらに2014年には、情報理工学科が情報理工学科と情報通信工学科に分かれて現在に至っています。

これからも、EWEの学科群が、科学技術の進展に応じて変化を続けながらも、理工学の中核に位置して発展していくことを祈念しています。

日韓での大学で40年

情報通信学科／情報理工・情報通信専攻 教授 朴 容震



私は、早大に2010年から5年間の任期付き教授、残りの1年を特任教授として勤めさせていただきました。

早稲田中・高から、電子通信学科に昭和40年に入学しました。入学当時は学生運動が盛んで、早大では学費値上げ反対闘争の真っ盛りでした。私は、在日韓国人2世として、同胞学生に会いたいという思いがあり、同好会である韓国文化研究会に入りました。当時、韓国は朴正熙政権下にあり、日韓条約、ベトナム派兵が我々の論点でした。韓国文化研究会より一層政治運動に傾斜した組織に属したこともあり、学業の方は疎かになりました。学部卒業を迎え、社会に出る気が起こらず、修士課程に進みました。卒論から田中末男先生の研究室に属しました。学部での先生の電気計測の講義を受け、丁寧な講義に感銘したためでした。田中研は電子計測関連の回路が中心でしたが、何を研究しても許されました。当時の博士課程の方は、ハードからソフトまで幅広い研究課題を持っていました。私は修士先輩のグラフ理論の研究に加わりました。修士修了で就職しようと思い、就職担当の先生に相談に行きましたが、韓国人の大企業への就職は難しいことを知りました。当時はソフトウェア開発関連の会社が設立された初期の時代でしたので、その中の日本EDP（株）という会社に就職しました。研修後、広島支店に転勤となり、そこで交通制御シミュレーションプログラムの開発を担当しました。しかし、あまり仕事に興味を持ってなく、田中先生にお願いして、博士課程に入学しました。将来についてははっきりとした目的もないまま、ただ執行猶予のような感じで博士課程に進んだ訳です。博士課程のかたわら、通産省の外郭機関の（財）情報処理研修センターで非常勤として働くようになりました。社会人および公務員向けの情報処理研修を行っており、私にとっては教えながら学ぶというよい機会でした。報酬もよく、ぬるま湯につかっているうちに6年の月日が経ち、何とか論文

ができ電子通信学会論文誌に採択され、1977年に博士号を授与されました。幸いにも、その結果を拡張した論文がIEEE論文誌にも採録されました。

その後も情報処理研修センターで非常勤として働いていたのですが、私が修士の時にお会いした平山研で博士号を取られた韓国の漢陽大学の林寅七教授から、熱心な勧誘を受け、1979年春に漢陽大に赴任しました。当時、日本と韓国の文化・生活水準には大きな格差がありました。大学から3LDKのマンションが提供され、最初の一学期は韓国語ができないために、講義の担当はありませんでした。韓国の文化・事情を何も知らない私を林先生は公私ともによく面倒を見てくれました。

韓国のインターネット立ち上げに加わり、ISO/OSI標準の普及のための組織の創立、アジア太平洋の研究開発ネットワークの連合体（APAN）での事務総長、韓国情報科学会会長などの機会を得て、充実した大学生活を送ることができました。また、IEEE Region 10（アジア太平洋地域）会長に立候補することになり、幸いにも香港とインドの候補者を破り当選でき、IEEE本部理事として理事会に参加したことは視野を大きくするよい経験になりました。

幸運にも、漢陽大の定年が近くなった64歳で早大に来ました。何か少しでも、早大に貢献することがないかと考え、将来インターネット技術の情報指向ネットワーク（ICN）の勉強会を計画したところ、4人の先生に賛同いただき、毎週セミナーを2012年春から始め、現在に至っております。その間、タイミングよく、ICN関連の日欧プロジェクト、日米プロジェクトの公募があり、日欧プロジェクトを早大を含むチームが獲得できました。また、ICN関連の政府プロジェクトおよび民間プロジェクトも早大が獲得し、今では8人の先生方が参画されています。早大での6年間に3人の客員教授・研究員を受け入れ、共同研究を行い、10件の英文学術論文誌採録、10件の国際会議発表、26件の国内外の招待講演を行うことができました。

退任に当たり、これまでの約40年の日韓の大学生活を通して、多くの人に助けられて、非常によい機会が得られたこと、また早大での6年間は同僚の先生方からも暖かく接してもらい、快適に過ごさせていただきましたことに深く感謝いたします。

研究生生活を終えるにあたり

電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 井上 宏子



私が早稲田大学の人間科学部から電気・情報生命工学科に参りましたのは10年余り前でした。その時はまだあまり見られなかった工学系と生命系との連携で、多くの先生方とかなり分野が離れていましたが、一緒に仕事をする機会をいただき、深く感謝しております。それまで知らなかった領域の研究を知ることができたことは、文字通り有り難い事でした。また、TWInsのような恵まれた環境で自由に研究することもできましたし、それを学生と共有できた事も楽しい思い出になっております。

私の研究生生活の中で最も思い出に残っているのは、念のため行った実験で、全く思いがけない結果が出た事です。電気・情報生命工学科に来る前で、その頃はショウジョウバエの突然変異を用いて無脊椎動物の視覚の研究をしておりました。予想もしていなかった結果から新たな分子の関与が示唆され、それが後になって光受容機構の重要な分子であることが判明しました。予想した実験結果が出るのは、それはそれで面白いことではありますが、全く考えても見なかった結果が問題の解決に結びついたという経験は何物にも代えがたいものでした。これが、その後の研究の原動力になったのではないかと考えております。

そのため、学生に対しても、結果が予想できる場合でも、とにかく実験してみようことを勧めました。その結果、新たな発見もありましたし、それまであまり注目していなかった分野に目を向けるようになり、いろいろな分野の事を学ぶこともできました。多くの学生の方にそうした経験をさせていただきたいと思っております。

また、私の研究に関連して感慨深いのは、現在では教科書に載っている事ですが、「カルシウムイオン、セカンドメッセンジャー説」が確立したことです。それまで、この分野の研究者達は何とかこの仮説を証明しようと躍起になっていま

した。中には30年近く研究しておられた方もいらっしゃいました。それが、一つの論文が発表されると次々に実験が行われ、この説が認められました。そうした機会に立ち会うことができたのは幸運なことだったと思います。

電気・情報生命工学科に移って来てからは、哺乳動物の培養細胞を用いて、様々な刺激に対して細胞がどのようなシグナル伝達系を介して応答するかということの研究に参りました。シグナル伝達系は数が多く、研究が進めば進むほど複雑さが増して来るため、とてもすべてを把握するのは難しいのですが、その中でも細胞死に関わる系に興味を持っておりました。この分野は、病気と関連していることもあり、ここ10年ほどで急速に進展し、新しい知見が数多く得られています。そうした時期に同時進行で研究できたことはうれしい事でした。今後の展開を楽しみに、見守って行きたいと思っております。また、結局、自分では解決できなかった問題が残ってしまった事は残念ではありますが、いずれ解明されることと期待しております。

研究生生活を終えるにあたり、これまで多くの先生方、職員の方、そして学生の方々に支えていただいたことを改めて痛感いたしました。皆様方に深く御礼申し上げますと共に、これからの研究の発展をお祈り申し上げます。

追悼

平山 博先生を偲んで

早稲田大学名誉教授 富永 英義



平山博早稲田大学名誉教授は平成27年6月29日、93歳で逝去された。

平山博先生は、大正11年1月29日、播州赤穂に生まれ、昭和14年4月早稲田第一高等学院に入学。昭和17年3月に創設された早稲田大学理工学部電気通信学科に入学された。

EWEの歴史の一端を振り返ると、大正13年に設置された電気工学科第二分科は、当時の電気通信學會（現、電子情報通信学会）に対応する教科目を設置していたが、これを昭和17年に電気工学科から分離して学科を創設したのであった。国立大学として昭和16年には大阪と東北に電気通信学科が設立されていた。当時の学会と大学の関係を黒川兼三郎教授が電気通信學會誌第百七十六号（昭和12年11月号）に論説として記載されている。早稲田大学電気通信学科の1期生は通信分野の機関やその関連する企業の技師として指導的地位が約束されていた。我が国の電気通信分野での見識を育み平山先生と刎頸の交わりを持った川原田安夫氏、中久保卓治氏が同級生であった。

昭和18年大学2年生の時に、恩師黒川先生と連名の論文『一般の指数線路』が電気通信學會誌に採録されている。戦時中のため半年短縮して昭和19年9月に大学を卒業し、文部省特別研究生に採用され、早稲田大学教員として終戦を迎えた。

昭和23年黒川先生の講義科目『過渡現象論』を引き継ぎ、昭和25年4月早稲田大学助教授となり、電気学会の大学講座『電気回路論』を執筆された。我が国の電気系学部卒業生の過半数は、この2冊の教科書を熟読したといわれている。昭和32年電気通信学会誌掲載の論文『負性インピーダンス変換器』に対し論文賞を受賞。

昭和33年、平山先生は喜安善一氏の紹介を受け、富士フィルム(株)が開発し、日本で初めて実用に使われた電子管式デジタルコンピュータFUJICを、早稲田大学が譲り受け、他の大学にさきがけて早稲田大学にコンピュータセンタを設立する礎を築いた。筆者は学部2年生であったがハードウェアの運用（OS）にかかわる作業の手伝いをし、強烈な印象を受け先生の警咳に接した。

昭和35年『線形活性回路網理論の研究』で工学博士、昭和36年4月に教授に昇格し、文部省をはじめ、関係機関に対し意欲的な提言を行っている。特に、東京オリンピックの誘致に際し、電電公社における技術審議会において事業としてのデータ通信部の設立および電子交換開発の意義に助言をしている。筆者は昭和35年の3月、8月、36年の3月に電気通信研究所でパラメトロン論の論理設計やエサキ・ダイオードの発振現象の測定

の実習をする機会をいただき、平山先生の卒論指導を受ける幸運を得た。平山先生は昭和37年度の1年間は国内留学制度（サバティカル）を利用して電気通信研究所の電子応用研究室に平山研究室の拠点をおき、塚田啓一先輩（岩片研究室博士1年）、筆者（広田研究室修士1年）と、NECの研究所で研究実習をしていた大附辰夫君（平山研学士4年）もスタッフとしてお供した。

昭和38年4月に大学院『回路工学』専攻研究室が発足した。当時の研究課題は、CADの基礎となる回路解析とネットワーク理論、デジタルパルス回路の実験的研究、トランジスタ回路を設計し実装した8ビットデジタルコンピュータの試作などであった。アナログコンピュータを用いた回路シミュレーションが盛んであった。当時、平山先生が提唱した大学の施設として計算室の組織が出来上がっていた。平山先生は電子計算室にかかわる大学行政の輪に加わることなく、研究の視点を大学の外側に向けておられた。

昭和39年、大学本部は大学の所有する歴史的な庭園である甘泉園と国有地との交換により、理工学部移転のための敷地を取得し、大久保キャンパスの建設が始まった。昭和41年春、平山先生は理工学部教務主任となられ、昭和42年春大久保キャンパスの18階立ての建物の完成の直後、学部長代理として大久保校舎への理工学部移転の指揮の激務をこなされた。昭和43年に選出された新学部長と交代し、平山先生は学校行政から離れられたが、20年後の66歳になられて、若手教員達の懇請を受けて理工学部長に選出され、大学院研究環境の充実に采配を振るわれた。研究大学院の拠点となる55号館の建設費の募金に尽力された。

それまで学校行政と距離を置くようになった先生は、学生の個性を生かす教育と研究に専念され、薫陶を受けた多くの人材が巣立っていった。

研究・教育の傍ら、電電公社の技術委員会、郵政省電波技術審議会、同電気通信審議会、NHK放送技術審議会、等の委員、座長、会長等を務め、数々の学会の研究委員会の委員長、理事、会長等を歴任し、国際電子交換会議（ISS '76）、回路とシステム国際シンポジウム（ICCST '76、ISCAS '79、および '86）などの開催・運営の世話役として国際交流にも貢献された。また12期から14期まで日本学術会議の会員として情報・通信研連を担当され、学界と産業界との連携に関して国際社会における我が国の位置付けに対する課題に取り組まれた。その一つとして、工学アカデミーの設立に奔走された。諸外国の例にならい、アカデミーが政府組織から独立した意思決定ができる見識を持つ任意団体としての組織を目指し、初代の会長である小林宏治さんを支える立場で総務担当理事を引き受けられましたが、一期で顧問の立場に退かれた。

先生の数々の業績は、電子情報通信学会功績賞、世界コミュニケーション年総理大臣表彰、NHK放送文化賞、テレコム旬間郵政大臣表彰、高柳記念賞、通信協会前島賞、に繋がった。平成8年には、勲二等瑞宝章を受章された。

尚、平山先生を偲ぶ会を6月11日に計画しております。平山先生とゆかりのあるかたは<http://www.dolab.jp/>⇒偲ぶ会の情報はこちらへアクセスしてください。



写真 勲二等瑞宝章

電子物理システム学科教員の横顔 (五十音順)



宇高 勝之

1976年早稲田大学理工学部電子通信学科卒。1981年東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了、工学博士。1981年国際電信電話株式会社研究所。1995年早稲田大学理工学部電子・情報通信学科教授。学内組織改編を経て現職に至る。その間1985-86年カリフォルニア工科大学客員研究員、2012年サンタアナ高等大学、アイントホーヘン工科大学客員教授。現在、次世代フォトニックネットワーク用超高速光スイッチングデバイスや光電子融合光集積回路、高機能光センサなどの研究に従事。



川西 哲也

1992年京都大学工学部電子工学科卒。1994年同大学院工学研究科電子通信工学専攻修士課程修了、1994～1995年松下電器生産技術研究所勤務、1997年京都大学大学院工学研究科電子通信工学専攻博士後期課程修了後、同大学ベンチャービジネスラボラトリー研究員を経て、1998年郵政省通信総合研究所（現国立研究開発法人情報通信研究機構）入所後、2004年カリフォルニア大学サンディエゴ校客員研究員を兼務。2015年から現職。2000年文部科学省第60回注目発明、2006年文部科学大臣表彰若手科学者賞、2007年光産業技術振興協会櫻井健二郎氏記念賞、2013年IEEE Fellow、IEICEエレクトロニクスソサイエティ賞等を受賞。高速光伝送技術、光・無線融合システムの研究開発、国際標準化に従事。



川原田 洋

1985年早稲田大学理工学研究科博士課程修了、1986年大阪大学工学部助手、1990年早稲田大学理工学部助教授、1995年同教授、ドイツ・フンボルト財団研究員（1995-1996）JST・CREST研究代表者（1998-2003）応用物理学会理事（2005-2007）日本学術会議連携会員（2012-）ダイヤモンドやカーボンナノチューブによるハイパワー・高周波・スピン・バイオでのエレクトロニクスの研究教育を行っています。パワー系では、ダイヤモンドの高い絶縁破壊電界による高出力高周波トランジスタ、バイオ系では、液体電解質中で安定な炭素系表面で、DNAおよびプロテイン高感度検出検査チップ、スピン系では、ダイヤモンド電子スピンの長いコヒーレンス時間を利用したナノデバイス、等の研究を実施。



木村 晋二

1982年京都大学工学部情報工学科卒、1984年同工学研究科情報工学専攻修士課程修了、工学博士（京都大学）、神戸大学助手、奈良先端科学技術大学院大学助教授を経て、2002年より早稲田大学大学院情報生産システム研究科教授、大規模集積回路の高位設計、電力最適化、形式的設計検証技術の研究に従事、電子情報通信学会フェロー。



小山 泰正

1976年東京工業大学工学部卒。1981年同大学院博士課程修了（工博）1981年同工学部助手（1985～1987年米パデュー大学博士研究員）1989年早稲田大学理工学部助教授1990年同材料技術研究所兼任研究員1994年同理工学部教授。1999～2000年文部科学省学術審議会専門委員 2008～2012年文部科学省科学官 2009～2010年、2013～2015年、2015年～ 文部科学省科学技術・学術審議会専門委員。固体の示す幾何学的な対称性に興味を持ち研究を行っている。



庄子 習一

1979年 東北大学工学部電子工学科卒、1981年 同大学院工学研究科修士課程修了。1984年 同大学院博士課程修了、工学博士。1984年東北大学工学部助手、1992年助教授。1994年 早稲田大学理工学部助教授、1997年同教授、2007年同基幹理工学部教授、現在に至る。多種材料の微視加工技術、Micro Electromechanical Systems:MEMS および Micro Total Analysis Systems (MicroTAS) 等の研究に従事。



谷井 孝至

1994年早稲田大学電子通信学科卒、1996年同修士課程卒、日本電信電話(株)勤務の後、1999年より本学博士後期課程にて博士（工学）取得（2002年）。2001年より、本学理工学部助手、本学大学院理工学研究科（ナノ理工学専攻）講師、同助教授、本学理工学術院准教授を経て、現職に至る。ナノ構造作製とその構造体が発現する機能を活用した、トランジスタの量子伝導、1分子・1細胞バイオチップ、単一光子源の作製と評価に関する研究に従事。



柳澤 政生

1981年早稲田大学電子通信学科卒。1986年大学院理工学研究科博士後期課程修了。工学博士。1984年情報科学研究教育センター助手。1986年 カリフォルニア大学バークレー校研究員。1987年拓殖大学情報工学科助教授。1991年 早大理工助教授、1998年教授。1994年 ドイツ・パッサウ大学客員教授。2006～2010年理工学術院長補佐。丹羽記念賞、海洋調査技術学会技術賞等を受賞。電子情報通信学会フェロー。次世代の情報通信システムの設計、その設計を支援するコンピュータ環境（CAD: Computer-Aided Design）の開発、バイオインフォマティクスなどの研究に従事。



山中 由也

1976年早稲田大学理工学部物理学科卒。1986年同大学院理工学研究科物理学及応用物理学専攻博士後期修了、理学博士。学習院大学理学部助手、日本学術振興会奨励研究員を経て、1986年～1992年カナダ・アルバータ大学物理教室で研究員。1992年～2003年早稲田大学高等学院教諭、早稲田大学大学院非常勤講師。2003年早稲田大学理工学部物質開発工学科教授、2007年4月より現職。素粒子・原子核・宇宙物理から物性物理にわたって最も基礎的物理法則である場の量子論を研究対象としている。現在の具体的研究は、非平衡状況下での場の量子論系に対する熱場の量子論の構築や冷却中性原子系のボース-アインシュタイン凝縮現象の理論解析。



山本 知之

1993年早稲田大学理工学部卒業、1995年同大学院理工学研究科修士課程修了、1998年同博士後期課程修了。1997-1999年早稲田大学材料技術研究所助手、1999-2002年理化学研究所研究員、2002-2005年京都大学工学研究科研究員、2005-2007年早稲田大学理工学術院助教授、2007-2010年同准教授を経て、2010年より同教授。現在に至る。量子論を用いた固体の諸物性、特に、原子レベルでの欠陥や添加元素が固体の諸物性に与える影響に関する基礎的研究を進めており、シンクロトロン放射光などを用いた分光学的研究にも従事。



吉増 敏彦

1981年神戸大学工学部電気工学科卒。1999年神戸大学自然科学研究科博士（学術）。1981年シャープ株式会社入社。2003年早稲田大学大学院 情報生産システム研究科教授、2015年度より基幹理工学部 電子物理システム学科兼担。Si CMOS, SiGe BiCMOS, GaAs HBTなどのデバイス技術を用いて、車載用衝突防止レーダ、LTEや無線LANなどの無線通信用高周波アナログLSIの設計技術、評価技術、デバイスモデリングの研究に従事。



渡邊 孝信

1995年早稲田大学電子通信学科卒。1997年大学院理工学研究科修士課程修了、1999年博士課程修了、博士（工学）。1997年～2003年学振特別研究員、2003年早大客員講師、2003～2007年JSTさきがけ研究員（兼任）、2005年客員助教授、2008年専任准教授、2012年教授。2000年 井上研究奨励賞。シリコンナノデバイス、半導体界面物理、分子動力学計算などの研究に従事。

特別研究期間報告

海外滞在は、定量目標をもって若いうちに長く楽しみなさい ～モントリオール在外研究の体験より～

情報理工学科／情報理工・情報通信専攻 准教授 鷲崎 弘宣

大学の特別研究期間制度を利用して、若手ながらソフトウェア解析等に世界トップクラスの実績を持つYann-Gaël Guéhéneuc教授（モントリオール理工科大学École Polytechnique de Montréal）のもとに2015年10月から12週間滞在し、解析メタモデルの体系や要求追跡に成果を挙げた。在外研究先の選択戦略には、大御所を訪れてパイプを作るものと、若手のホープを訪れて一緒に「上がっていく」ことを目指すものの2種類がある。筆者は、後者を選んだ。

標題は、海外留学等を検討する読者に対して、本滞在中に基づき贈る三つの助言である。

第一に、成果目標を定量化して公言すべきである。定量目標なくして、個人や組織の成長はない。特に海外滞在中となると、留学にせよ研究にせよ、まずは現地への順応が必要となり、そこから多くの刺激と人的ネットワークを得て、一定の達成感を得る。それは貴重であるが、成果目標を見失いかねない。本滞在中に公言した成果目標は共著論文2編である。対する実績は、共著論文2編（ただし、うち1編は投稿手前の段階まで進めて帰国）、加えて国際会議共同提案1件、滞在先研究者を海外連携者とした公的資金申請1件、3大学における講演3件である。概ね目標達成と自己評価するが、工夫すればさらに質・量を高められたという想いはある。

第二に、若い時期の長い滞在中が望ましい。筆者は現在3件の公的資金プロジェクト、7社以上との共同・委託研究、学外も含めて年10以上の講義コース、30名弱の研究指導、カリキュラム編成や就職支援等の様々な大学業務、さらにISO/IEC WG国際議長やIEEE Computer Society Japan Chapter代表、IPSJ国際AIプログラミングコンテストSamurai Coding代表、国際会議委員長をはじめ多数のプロフェッショナル貢献に務めている。滞在中はこれらのうち、大学業務や講義負担について配慮をいただいた（御礼申し上げます）。他方、共同研究や研究指導は当然ながら責任をもって継続させる活動であり、それらへの影響を考慮して在外研究としては異例の短さとし、さらに安易な気持ちで学外貢献もそのままとした。結果、ほぼ毎晩ビデオ会議が2～4時間、加えてメールのやり取りの量は滞在中とほとんど変わらない日々となった。そこで目標達成のため、日本からの割り込みの少ない現地の金曜日から日曜日夕方まで集中して個別の研究作業を進め、月曜日以降に現地研究者との議論に持ち込むことを心掛けた。より若く責任や役職の少ない立場で長く滞在中できると、心や体の余裕をもち、現地の生活もより

楽しめたであろうと振り返る。

第三に、日々直面する困難さや理不尽さを楽しむというポジティブな姿勢が肝要である。特に海外滞在中は、自身の「常識」との相違により困難さを感じる機会が多い。裏を返せば、新たな視点や考え方に触れる機会である。現地研究者は筆者や指導学生によくEnjoy! と声をかけていた。モンリオールの人々の motto が「人生楽しく」ということもあるのかもしれないが、筆者は、日常のみならず研究上の困難へのチャレンジを楽しむ姿勢とも解釈することとした。例えば意見の相違から調査範囲が膨大となり、途方に暮れたことがあった。ゼミ等の時間・場所の設定が、良く言えば柔軟、悪く言えばルーズであった。現地の建物は築50年などざらにあり、筆者の宿泊先アパートはあちこちにガタがきていてトイレに閉じ込められた時は本当に困った（が扉を打ち破って事なきを得た）。すべてEnjoy! である。

関連して大学の様子を紹介する。滞在先ラボは教授1名、助教2名、学生10名程度で構成される。週一回1時間、学生1名が自身の研究を紹介し、皆で丁寧に議論する（図1）。筆者も議論に加わり、新たな着想を得ることもあった。加えて個別の会合を頻繁に持つ。ラボ内外で垣根が低く、約束なく訪れたり、あるいは廊下や食堂で自由闊達に教員・研究者・学生間で議論する空気があった（講義も同様）（図2）。結果として分野を超えた活発かつ独創的な研究に繋がっている。文化や研究スペーススレイアウト等の違いはあるにしても、見習いたい。モンリオールには著名なマギル大など10程度の大学があり、研究者レベルで大学を超えた研究連携も見られた。

滞在先ラボの学生は、留学生が過半数であり国際色豊かであった。フランス語圏の国々に加えて中東・アジアからも増加傾向にある。在学中に研究を含めて学業成果に好評価を得て、良好な就職あるいはアカデミックキャリアを目指す意識が見られた。日本人留学生は、大学全体7000名中でようやく若干名である。同大学は世界的には必ずしも有名ではなく、フランス語圏に立地し学部教育がフランス語実施である点も影響しているかもしれない。しかし教育に定評があり、情報系等で世界的に優れた研究成果を挙げており、今後の留学生増加や活発な交流に期待したい。

以上、つらつらと体験を述べた。読者がもし海外留学等に行くべきか検討しているとしたら、迷わずにとっと若いうちに行って長く滞在を楽しんでほしい。定量目標を忘れずに。



図1 滞在先ラボのゼミ風景



図2 懇親風景（中央筆者、右 Yann 教授）

若手OBの活躍

「志」と「周りの人々」

経済産業省、現在米国留学中

立石 拓也 (2007年電気・情報生命工学科卒)



私は、早稲田大学本庄高等学院から大学院までの計9年間、早稲田で過ごしました。改めて思い返すと、学問では苦しかった思い出が多々浮かびます。高校では、物理の難しさに面喰ったのを覚えています。大学では、入学してすぐに電磁気学の難しさに挫けそうになりました。研究室は若尾先生のところでお世話になりましたが、プログラミングにてこずり、パソコンとにらみ合った日々でした。このような状況でしたが、若尾先生や諸先輩方の御指導のおかげで、大学院では、ギリシャでの学会発表や企業

の方との共同研究等、様々な経験をさせていただきました。

一方、サークルや研究室の仲間とは楽しかった思い出ばかりが浮かびます。サークルではクラシックギターに取り組み、合宿と称して仲間と山にこもり、昼間は真剣に練習し、夜は連日飲み明かしました。また、私の家は学生会館から近かったこともあり、友達がよく泊まりに来たものです。研究室では、ソフトボール大会に出場し、優勝することができました。室内の団結力の強さと、研究そっちのけ?で練習した成果だと思えます。また、研究に行き詰まった夜にふと思立ち、夜通し運転して京都に行ったりもしました。サークルや研究室の仲間たちとは今でも付き合いがあり、たまに早稲田で集まっては昔話を花を咲かせています。

さて、この度は「若手OBの活躍」という大変貴重な機会をいただきました。力不足とは思いつつ、せっかくですので大学院を修了後の経歴を紹介させていただきます。

私は2009年に電気・情報生命専攻を修了し、経済産業省に入省しました。大学で学んだことを活かして、人々の生活や経済活動にとって無くてはならない電気を安価で安定的に活用できる環境を未来に残すことで、日本の更なる経済成長につなげたい、子供や孫たちの世代に豊かな日本を残したいと考えたからです。経

経済産業省は、「国富の拡大」と「エネルギーの安定供給」というミッションを掲げ、日本が中長期的に発展できるよう、経済産業、通商・貿易、環境・エネルギーなど、幅広い分野で活動しています。私は入省後、自動車産業振興、原発事故対応、インフラ海外展開や省エネシステムの国内普及などの政策に携わりました。現在は、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校の国際政策・戦略研究大学院で国際関係論を学んでいます。大学時代、英語をきちんと勉強しておけばよかったと後悔していますが、覆水盆に返らず。日々、自分の英語能力の低さを痛感し、苦しみながらも、冬でも20℃弱という温暖な気候の下、今後の業務に活かすべく学問に励んでいます。

せっかくの機会ですので、おせっかいかとは思いますが、大学OB、そして社会人の先輩として2つ、お伝えできたらと思います。

まず、自分の「志」が何かを決して見失わず、自信を持って突き進んでいってください。本稿をご覧の方の中には、大学院に進学される方もいらっしゃると思いますが、ほとんどの方が、いずれは社会に出て働くことになると思います。働く期間、つまり、定年するまでの約40年で世界における日本を取り巻く環境は大きく変わるでしょう。今から40年前といえば、オイルショックが発生し高度経済成長が終わったころです。その後、バブル景気やその崩壊、痛みを伴う構造改革、リーマンショックや東日本大震災といろいろなことが起きました。その間、世界では、冷戦が終了し、BRICs等の新興国が台頭する中で、米国一極主義から、多極主義へと変化しつつあります。おそらく、同じ企業に定年まで過ごす方や、日本で生活し続ける方はほとんどいないのではないのでしょうか。こうした生活環境の変化への対応というのは、時には大変苦しいこともあるかもしれません。そんな時は、今、皆様が打ち立てている「志」を思いだし、限界的（今日、明日のこと）ではなく、大局的にとらえ、信じる方向にまい進していただけたらと思います。

また、家族や学生時代の友人など、今、皆さんの周りにいる人々を大切にしてください。今後、いろいろな変化が起こり、時には困難におつかることもあると思います。そんな時、心をゆるし支えになるのは、今、皆様の周りの方々だと思います。もちろん、仕事を始めても友人はたくさんできますが、仕事に追われる日々の中で、密度の濃い共通の思い出を共有するのはなかなか難しいと思います。つらいときは、連絡を取り合ったり、時には飲みに行ったりすることで、きつとりフレッシュできると思います。

最後に、大学院に進学される方も、社会に飛び込まれる方も、皆様の輝かしい未来と益々の御健勝・御活躍を祈念して、終わりの言葉と代えさせていただきます。

寄稿

塚田啓一氏を送る会

工学博士・塚田啓一氏が昨年12月31日に逝去されました。この訃報を私が受けたのが1月5日奥様の素子さんからでした。とっさには理解出来ず聞き直しました。

普段通り31日朝食を済ませトイレに立った。その後ちょっと長いので見に行くと便器に座ったまま事切れていたらしい。すぐに救急車で病院にこの間15分程度。警察医の診断は『大動脈乖離』でしょうとの事。1月4日に家族葬を済ませ生前からの御夫婦の打合せの通り葬式は行わず香典やお花も受理しないとの事でした。とっさに「我々にも彼を送らせて下さい」とお願いした。

電磁応用研の富永先生とお宅にお伺いし我々の考えを伝え奥様の出席も快諾戴いた。2月4日15時より「塚田啓一氏を送る会」を大隈会館2Fにて行う事となった。発起人で手分けをして塚田君ゆかりの人に連絡し71名の参加者があった。式では同級生・NTTでお世話になった者・パナソニックでお世話になった者等、数名の彼を偲ぶお話があり最後に奥様のご挨拶で閉会した。厳かにも彼の人柄に合った送る会が行えたと思っています。

塚田君 ゆっくりとお休み下さい。

「塚田啓一氏を送る会」発起人代表 岡田吉郎／富永英義

塚田啓一氏経歴

S35年電気通信学科学部卒；37年修士（岩片研）、40年工学博士授与（平山研）
電電公社 初代ヒューマン・インターフェイス研究所所長、松下電器東京通信研究所所長、電子情報通信学会理事、同研究会会長、早稲田大学国際情報研究センター設立諮問委員、独立大学院国際情報通信研究科客員教授、公益財団法人電磁応用研究所評議員会座長 等歴任



送る言葉を述べている石川宏氏と塚田素子夫人、その兄下村尚久氏

修士課程修了にあたって

電気・情報生命専攻 山崎 朋秀
(若尾研究室)



「T字型の研究者を目指せ！」研究室配属直後、修士2年の先輩にこのような言葉を掛けていただきました。T字の縦線のような深い知識を身につけ、かつ横線のような幅広い知識も身につける、という意味がこの言葉には込められています。私が修士課程で取り組んだ研究はまさに深い知識・幅広い知識の両方が必要とされる内容でした。

私は気象予測情報に基づき、太陽光発電の翌日の発電量を統計的に予測することをテーマに研究に取り組みました。この研究において、私が研究のツールとして深めるべき縦の知識は統計学でした。一方、発電量の予測情報は電力システムの制御などに応用されるため、これらの知識についても幅広く学ぶ必要がありました。その目標を達成すべく、文献調査のみならず様々な分野の学会に参加し、研究発表を行いました。中でも印象的だったのは修士1年の時に参加した電力システムの研究会です。研究会に参加するまでは、単純に予測の精度を上げることだけに尽力していましたが、発表への質疑などを通して、実際に予測値を用いる電力システムの運用者や電機メーカーの方々からどのような情報が求められているのか意識し、研究に取り組むことが重要であると学びました。この経験を通し、幅広い知識を身に付けることの重要性を改めて感じました。在学中にはこの発表を含めて国際会議3回、国内会議2回で研究発表を行い、いずれの学会でも多くの知見を得ることができました。まだまだ小さな「T」ですが、入研の時に先輩の言っていた「T字型の研究者」に少しは近づけたかな、と感じています。

最後に、これまで親身に研究指導にあたって下さった若尾先生、共同研究でお世話になった皆様、論文締切間近のディスカッションや飲み会など苦楽を共にした研究室の先輩・同期・後輩、多くの学びの機会を与えてくれた両親、そしてソフトボール大会や就職活動など学生生活を支援して下さいましたEWEの皆様に感謝を申し上げます。

情報理工・情報通信専攻 川端 萌美
(嶋本研究室)



研究室に配属されてからの3年間は、今までの人生で最も充実し、成長できた3年間でした。

修士1年時には、災害用無線通信に関する委託研究を行う機会を頂きました。実際に、東日本大震災の被災地である仙台にて複数のユーザー企業の方々にヒアリングを行い、災害時の通信状況や苦勞に関するリアルな声を聞くことができました。その経験から、通信は人の命を救う重要なインフラであること、研究はユーザー目線で行われねばならないことを改めて学びました。また、私たちの研究結果を企業の方々が使用するというプレッシャーを感じながら研究を行っていたことで、いま何をすべきか、何が求められているのか、など目的意識を常に持つ習慣がつけられたと思います。

修士2年時には、中国深センで行われたファーウェイ本社でのインターンシップに参加する機会を頂きました。まず中国に初めて訪れた私が驚いたのは中国企業の活気です。ファーウェイの本社はヨーロッパの一つの街のような外観で大変豪華な施設でした。そして社員の方々は皆流暢な英語を話し、多くの女性技術者の方がご活躍されていました。そこでは、今の日本にはない勢いと活力を感じました。また、最先端の情報技術に関する座学や実験をポーランドとパキスタンの学生と共にさせて頂きました。他国の学生は皆積極的に発言をし、夜遅くまで復習をしていました。特にパキスタンの学生は常に国旗を持ち歩くほど愛国心が強く、自分たちが国をより良くしたいという情熱を持っていることが、とても印象的でした。何かを学びとって帰ろうとする姿勢は他国の学生の方が強く、グローバル化が進む将来に危機感を感じた一週間でした。

このような様々な経験をさせて頂くことにより、私は学部時代に比べ、より広い世界を知り、成長することができました。最後になりましたが、多くの貴重な機会を頂きました嶋本先生に心から感謝致します。今後は、この3年間で学んだことを活かし、通信業界に貢献できるよう、より一層邁進していきたいと思えます。

電子物理システム学専攻 嶋田 裕介
(宇高研究室)



通信の発展に伴って、携帯電話や、パソコンを用いたインターネットの利用により、世の中が便利になっていくのを小学生という幼い時から感じていました。そのため、この分野を更に発展させるような研究が行いたいと考え、私は宇高先生の元で学部時代より、3年間研究に従事させていただきました。

経済産業省系のプロジェクトに携わっているグループに所属させていただき、学部時代より、強い責任感を持って、研究に取り組むことは決して楽しいことではありませんでした。しかし、先生や先輩の熱心な指導、また、私の元につけてくれた後輩達の疑問点に対して突き詰めていく姿勢により、研究の段階が目に見えて変わっているのを感じ、集団で一つの目標に向かって突き進むことができる、非常にやりがいを持った研究生活を送ることができました。

そして、自ら設計し、作製した素子の評価を行った結果にて、修士2年生の9月にイタリアの国際会議にて、口頭発表を行わせていただきました。国内外問わず、最前線にて研究を行っている方々に対し、自分達が行っている研究をアピールすることは忘れられない経験です。英語で話すことの緊張感は非常に大きいものでしたが、毎月発表の担当を行っている研究報告のゼミにて、普段より研究をわかりやすく人に伝えることの訓練を行っていたため、言語が違えど、発表の大事な部分を意識して、臨むことができたのは非常に大きな自信に繋がりました。

最後に、修士課程修了にあたり、研究指導に熱心にあたっていただいた宇高先生に感謝を申し上げます。研究に対する姿勢や、今までの研究室のノウハウからどのように今後研究を進めていくかの方針など、非常に多くのことをこの研究室で学ばせていただきました。更に、苦しい局面でも支えていただいた研究室の皆様、友人の皆様に深く感謝致します。この3年間は、皆様の支えがあってこそのものだと強く感じています。これからもこの研究室での経験を活かし、更に成長すべく、邁進していきたいと思っております。

地方本部だより

九州地方本部だより



九州地方本部では、平成27年3月20日（金）に平和楼天神本店（福岡市内）において、平成26年度の総会を開催しました。ご来賓として、EWE本部より竹田会長、木村副会長のお二人をお招きし、地方本部会員からは23名にご出席いただきました。今回の総会では、役員改選を行い、九州地方本部の本部長を片山先輩（S42電気）から辛島先輩（S53電気）へと引継ぎ、片山先輩には顧問についていただくことを満場の拍手で承認いただきました。辛島新本部長からは、新体制で今後の九州地方本部を盛り上げていくとのお言葉をいただき、総会は滞りなく終了しました。

総会及び懇親会で、竹田会長および木村副会長から、EWEや早稲田大学の近況について、お話をいただいた際は、参加いただいた皆さまが驚きながら大変興味深く聞き入っていました。

懇親会では、早稲田大学に関連のある品を景品としてくじ引きを行い、竹田会長が番号を引かれる度に会場は大盛り上がりとなりました。親睦が深まった後は、全員で円陣になり肩を組みながら、恒例の「都の西北」を斉唱しました。校歌を歌う皆さまはいつも増して笑顔で生き生きとしていました。最後は、轟木くん（H20電）の音頭によるエールで、懇親会は盛況のうちにお開きになりました。

当日、多忙な中、ご出席いただきました竹田会長、木村副会長、ご協力いただきましたEWE事務局の皆さまに厚くお礼申し上げます。

九州地方本部では今後も総会を定期的で開催し、より多くの会員の方と親睦を深め、「都の西北」を大斉唱したいと思っています。近年、総会におきまして特に若年層の会員の参加が少ないことから、総会の今後の更なる活性化のためにも九州地方EWE会員の把握や総会出席の呼びかけに取り組んでおります。九州に新たに來られた方、また在住でありながら総会案内等の連絡がない方、もしくはお知り合いでEWE会員をご存知の方は、お手数をお掛けしますが、事務局までご一報をいただければ幸いです。

橋口 伸也 記

北海道地方本部だより

北海道地方本部では、去る9月5日に札幌市内におきまして北海道地方本部総会及び懇親会を開催しました。残念ながら、昨年度に引き続き今年度も新入会員に恵まれませんでした。S30卒業の大先輩からH24卒業生までの幅広い世代の10名の会員が集いました。

総会においては、本部長の脇千春（S51）からの挨拶の後、役員改選により、藤井明雄（S57）が本部長に就任となりました。藤井新本部長からは、北海道地方本部の益々の発展に力を注ぐとの挨拶があり、滞りなく総会を終えました。

総会に続く懇親会では、近況報告や思い出話に花が咲き、世代を超えて楽しく親睦を深めることができ、盛況のうちに閉会となりました。

北海道地方本部では、今後も総会、懇親会を定期的に開催し、多くの会員のみなさまと親睦を深めていきたいと思っておりますので、会員のみなさまのご参加を心よりお待ちしております。

最後になりますが、北海道在住の方で地方本部総会のご案内が送付されていない方は事務局までご連絡願います。

前田 知哉 記



東海地方本部だより

東海地方本部では、去る6月9日（火）に名古屋市市内において、平成27年度の総会を開催いたしました。EWE本部より松本隆会長をお招きし、地方本部からは13名の会員にお集まりいただきました。

総会は竹尾聡本部長（S49電）の開会挨拶に始まり、歓談へと移りました。

歓談の中で、松本会長から母校の近況報告として、本部と理工キャンパスの状況や平成20年に開業した副都心線西早稲田駅の様子を収めた動画をご紹介いただきましたが、久しぶりに見るキャンパスと周辺の変貌ぶりに、参加者は皆、映し出された映像に釘づけになっておりました。

最後は、恒例の「紺碧の空」「都の西北」の斉唱とエールを行った後、板倉弘計幹事（S56電）の音頭のもと、万歳三唱を行い、盛況のうちに閉会となりました。

改めて、ご出席賜りました松本会長ならびにご協力いただきましたEWE本部の皆様には厚く御礼申し上げます。

東海地方本部では、今後も定期的に総会を開催し、企業や世代の枠を超えて交流を深めていきたいと考えております。東海地方にお住まいの方や転勤で来られた方は、是非一度総会にご参加ください。ご連絡をお待ちしております。



中国地方本部だより

中国地方本部では平成27年度の総会を6月19日（金）にメルパーク広島で開催いたしました。ご来賓として、EWE本部より松本会長をお招きし、地方本部会員からは21名にご出席をいただきました。

総会では、松本会長からEWEおよび早稲田大学の近況について、映像を交えてご紹介をいただき、参加いただいた皆様からは大学の最新設備等に驚きの声があがりました。また回路網結合の法則「帆足-Millmanの定理」を発見された帆足竹治氏、外交官として戦争難民救助に尽力された杉原千畝氏といった偉大な先輩のご紹介もあり、大変興味深く聞き入っておりました。

総会に続く親睦会は、本部顧問の神出さまの乾杯により始まり旧交を温め合いました。今回、初めてご参加いただいた益尾さま（S58年卒）をはじめ、多方面で活躍されている諸先輩方からお話をいただき、幅広い年代の会員が、来賓を囲んで楽しく親睦を深めることができました。



会は恒例により校歌「都の西北」を斉唱し、さらには出席者の飛躍を誓い、応援歌「紺碧の空」を出席者全員で肩を組んで歌いました。最後は、進藤さま（H21年卒）の音頭によるエールで親睦会は盛況のうちにお開きになりました。

改めてご多忙の中ご出席をいただきました松本会長、ならびにご協力いただいたEWE本部の皆さまに厚く御礼を申し上げます。また、今後も微力ながら母校の発展のため、当地方本部の活動を盛り上げていきたいと考えております。

最後になりますが、中国地方の親睦の輪を広げていくためにも、転勤などで中国地方に来られた方、案内が送付されていない方、またその他ご意見・ご要望がございましたら、事務局までご一報ください。

関西地方本部だより

関西地方本部の主な活動は、年1回の総会・懇親会（WESKのつどい）と数回の幹事会です。2015年度の総会は11月25日（水）に、大阪梅田阪急グランドビル19階「関西文化サロン」で開催致しました。EWEより松本隆会長をお招きし、関西地方本部からは40名の会員に出席頂き、活気ある会となりました。

総会は、岡秀幸会長（S60通信修、パナソニック）の挨拶に始まり、その後松本会長からは現在のキャンパスの様子を動画で分かり易くご説明頂き、出席者一同聞き入っておりました。

総会後の懇親会では、鈴江啓宏氏（S41電気）のご発声で開会し、岡会長より「これから起こる技術進化について—4K・8Kの世界—」というタイトルでご講演を頂きました。その後恒例の早稲田グッズの景品も用意したビンゴゲームで盛り上がり、紙中伸征氏（S44通信修）のご発声による万歳三唱で、盛況のうちに閉会しました。

当日ご多忙な中ご臨席頂きました松本会長、ご協力頂きましたEWE事務局の皆様には厚くお礼申し上げます。

さて近年、関西地区の各企業ともEWE卒業生の新入社員が減少していることから会員の把握と総会出席の呼びかけに取り組んでおります。転勤で関西に来られた方、また会員をご存知の方は、関西地方本部までご一報よろしく申し上げます。



地方本部連絡窓口一覧

北海道地方本部	個人情報の為、HP上には掲載しておりません。
東北地方本部	個人情報の為、HP上には掲載しておりません。
北陸地方本部	個人情報の為、HP上には掲載しておりません。
東海地方本部	個人情報の為、HP上には掲載しておりません。
関西地方本部	個人情報の為、HP上には掲載しておりません。
中国地方本部	個人情報の為、HP上には掲載しておりません。
九州地方本部	個人情報の為、HP上には掲載しておりません。

クラス会だより

電気通信学科 1947 (昭22) 年卒クラス会

今年も5月9日正午に、リーガロイヤルホテル東京・レストラン「なにわ」に集まりました。今回は、昨年と同じ東京近郊在住の全員5名の出席予定でしたが、小黒さんが急用で欠席となり4名となりました。

全員90歳を越え、健康情報交換と戦中戦後の経験が主な話題でしたが、今回は赤松がたまたま保存していた、第一学院入学直後の「理科生名簿」と大学卒業前年の「電気科・通信科名簿」によって、当時の先生方や仲間学生達の思い出話に花が咲きました。

この会を続けるかどうかについて今回も協議しましたが、1998年（平成10年）から欠かさず行ってきたこともあり、できる限り続けようという結論となりました。

つつじが花盛りの大隈庭園へ出て、記念写真を撮影して散会しました。

（赤松正也 記）

出席者（写真順左から） 栗島 茂、伊藤允喜、赤松正也、和田 新



電気通信学科 1948 (昭23) 年卒クラス会

2015年5月13日新宿駅近くの「大志満」でクラス会、多忙な清水も新宿なら出てこれそう、との電話だったが又も清水夫人から具合悪く欠席との報せ、岩永、永渕両氏は電話で他の様子を聞き会いたがっていたが、共に足が不自由なのでと欠、又昨年迄の出席者の染谷は直前になって体調優れぬと言ってきた。結局今までに最低の4人の会となった。

戦後の高度成長期の活躍話を語り合い、又定年後から今日に至る暮らしや互いの家庭環境などにも話が及び、2時間が瞬く間に過ぎ「また来年」と言って散会した。(高橋記)

写真は左から小川、高橋、新井、大沢の出席者4人。



電気通信学科 1951 (昭26) 年卒クラス会

昨年のクラス会は級友の小林兄が入居している、豊洲のシニアレジデンスで開催され東京湾岸地区の発展の現状や住宅型高級老人ホームについての知識を勉強した。

今年の参加者は昨年と同じく、斎伯、堀家、谷池、小林、橋本、南、八幡の7名で南と八幡が幹事を担当した。会場場所は一昨年迄と同じく新宿が交通の利便性から選ばれ、今回は高島屋百貨店14階にある、京懐石店「福ろく寿」で開催された。

冒頭に南幹事から3月に平山先生のお見舞いに伺った際の報告があり、今回も幹事から記念写真と実施報告を先生にお伝えする事を決めた。

今年は参加7名の中、3名が米寿を迎え、大正生まれが2名の構成から話題は健康維持に話が弾んだが、全員が年齢よりも若く見られるとの発言が相次ぎ、今後も努力を続ける話になった。来年も4月26日に今年と同じ店で、幹事が斎伯、堀家の二人と決定。最後にグリークラブの録音に合わせて校歌を合唱し、店前で記念写真を撮って、来年の再会を誓って散会した。

2015/4/26 (文責、幹事 南、八幡)



電気工学科 1953 (昭28) 年卒クラス会だより

卒業以来毎年欠かさずクラス会を開催、今年は62周年に当たる。今年はずめ、案内予定者に幹事と会場の都合が合致した複数日取りを、電話問い合わせをした。昨年の3名を上回る16名出席との返信を戴けた。当日に1名欠席者が出たのは残念だったが、一方奥さんの内助の送迎で出席出来た人がいたことも特記したい。会場は、3年前と同じ日本情緒豊かな、妻籠の御膳の「木曾路」新橋店だ。何時もは漫然と各自のお話を順に伺ったが、今年は各人の学生時代の印象に深かった思い出話に絞って順に話して貰った。今だから話せる、戦後間もない時代の学生生活の面白い事件で抱腹絶倒する話などもあり大いに座が盛り上がった。仕事の都合でいつも欠席の“テニスの宮城君”が出席し、昔話を聞いたのも良かった。

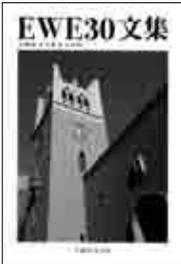
出席者の生活も健康的で、テニス・ゴルフなどの運動などに歳を感じさせない人が多かった。場所がら校歌斉唱は抜きで、また来年を約して散会した。

尚出席者は最近になく増えて15名、大塚・岡部・金子・菊池・澤田・清水・田野倉・富田・中村・野島・宮城・山田(益)・〔以下幹事〕松井・中田・島田であった。
(投稿者：島田 好恵)



電気工学科 1955 (昭30) 年卒クラス会 卒業60周年記念 (EWE30文集)

卒業以来ほぼ毎年同期会を開催しておりますが、昨年は11月16日に高田牧舎で行いました。前回の同期会で次回は卒業60年になるので、これを記念に皆で思い思いのことを書いてみようではないか、との提案が芝君からあり皆賛同しました。



文集編集の経験のある長尾君、その年の担当幹事の伊坂君、竹内君が加わり4人が発起人になり、全員に投稿をお願いしました。昨年3月末までに21名から、23の原稿が集まりました。「EWE30文集」として、10月までに編集、印刷、発行を行い同期会前に希望者に送付することができました。同期会に来られなかった人達からは文集を読んでの感想をいただきました。

私達は戦後6年に入学しました。経済白書で「もはや戦後ではない」との言葉が使われ、景気がよくなったのは卒業後です。私たちのその後の60年は公私ともに、変化に富んだ貴重な体験をしています。学生時代に身に着けたこと、学んだことが底力になっているようです。

今回の同期会は18人でしたが、文集のおかげで欠席できなかった30人の人達も一緒に卒業後60年を振り返ることができました。

出席者

伊坂 太田 熊田 酒井 芝 鈴木(賢) 竹内 瀧田 千野 長尾 永松 七井
野津 野村 林 福富 吉田 和田

「EWE30文集」は竹内明太郎記念室の書庫にありますので、どうぞご覧ください。

(記 竹内誠一郎)



電気科 1959 (昭34) 年卒 WE34クラス会報告

今年は早大入学後60年の節目の年に当たるところから6年振りにクラス会を開くことになり、案内を送った約半数32名の参加を得て10月16日に開催した。卒業後に開設された西早稲田キャンパスを全く知らない級友も多く母校の現在を知るために理工キャンパス内の「竹内記念ラウンジ」を会場に懇親会を行った。



第一部は、大学のご厚意で電気実験室の一部を見学させていただき、つかの間の学生気分とリポート締め切りの苦痛を思い出させてもらった。

第二部は、竹内ラウンジでのクラス会をにぎやかに行之時の経つのを忘れて懇談した。

出席者の大半は年金生活者であるが、中には趣味を生かしたボランティア活動に励んでいるものや今なお現役で活躍している者もあり、仲間の現状は多彩で有る。

見事なマジックショーを披露してくれたS君の写真を添付します。S君はこのマジックで日頃ボランティア活動をしているとのこと。

T君の孫自慢は面白かった。最近T君は60年ぶりに神宮球場に足を運んでいると言う。孫の出場する東京六大学野球の応援のためである。その孫が今春チームを94連敗でストップする決勝打を打ち話題になったと報告した(出席者全員拍手)。次は勝ち点を挙げてほしいとさらに応援に熱が入っているとのことであった。

今年を最後のクラス会にするつもりであったが、継続しようと言う声が多く来年も「竹内ラウンジ」を会場に再会を期して散会した。

今回は「早稲田大学湯呑」をお土産にプレゼントして大変喜ばれた。

(記 中村仁士)



電気工学科 1962 (昭37) 年卒クラス会

一年振りの再会でありました。この一年間は死亡者もなく全員健康であったことは本当にめずらしいことです。参加者23名、前年に比べ2名増えています。

我々が電気工学科に入学したのは昭和33年4月でした。大学内は理工学部創設50周年のポスターが多数みられ、早稲田の理工学部は随分古い歴史があるものだと思います。建築科では内藤多伸教授が設計した「東京タワー 333m」が完成間近で沸き立っていました。

講義内容は旧制大学の制度が受け継がれていました。そして講義、実験は朝8時から夕方4時までの連続でした。各々の講義の中で「このような理想的な技術や製品があれば良いのだが」と当時思っていたものが現在ではほとんどすべてが完成し、実用化されています。努力、研究開発すれば達成することを身を持って感じています。

当時のクラス担任は、木保守彦助教授（昭和22卒、名誉教授）でした。平成20年1月にお亡くなりになりました。同級会にはほとんど毎回来ていただきました。懐かしく思い出されます。

我々の年次は昭和56年から毎年同級会を続け実施しています。結束力の強い年次だと多くの方々から言われています。その一つは同級生であった尾崎肇氏（名誉教授）が電気工学科に残られたことで、心の支えになっているからです。私は在職中に尾崎先生の研究室や恩師の石塚喜雄先生をよく訪ねました。そして色々とお話をいただいたことを思い出します。平成20年は、理工学部創設100周年でした。50年、100年目の節目を祝うことができたのは、本当に幸いでした。

今回の集まりでも全員が学生時代の若者にもどり、日本の将来の技術や今後の安保法制について賑やかに語り合いました。クラス担任の木保守彦先生をはじめ我々仲間が既に24名亡くなっています。冥福を祈っています。締めくくりとして、グリークラブ所属であった田村修次氏の指揮のもと、校歌「都の西北」を合唱し、健康と来年の参集を誓いました。

平成27年10月25日 大隈会館にて（小倉功 記）

出席者：五十嵐眞、伊原征治郎、大沢國男、大須賀章浩、小倉功、尾崎肇、加藤亮一、木村昇一、小西陽夫、白石吉三郎、鈴木勝、十川忠男、多田隈進、田村修次、中島政行、中川津彰、中村眞和、福居助憲、前原慎一郎、松本勇、三田村真治、山口静男、湯浅忠雄、23名（幹事：小西、鈴木、中島、湯浅、小倉）



電気通信学科 1971 (昭46) 年卒クラス会

2015年10月18日稲門祭のホームカミングデー（HCD）の招待年次となっていたことから、文学部前のレストランにてクラス会を開催しました。10年前、20年前のHCDの時には数人が集まるのみでしたが、今回は年初から神田君が粘り強く調査をしてくれた結果、19名参加の盛況な会となりました。声掛けの範囲は、4年間を一緒に過ごした仲間という事で、67年入学を最優先条件としました。仕事の都合や体調で残念ながら不参加となった者もありました。

同期で亡くなられた方に黙とうを捧げた後、上野谷君の音頭で乾杯し歓談開始。電気通信、計測を初めとするさまざまな分野で活躍した後、いまだ現役の者、趣味の世界やNPO活動を通して社会に貢献している者、各自1分間スピーチで現況を紹介してくれました。顔と名前が一致しないなど最初は少々戸惑いもありましたが、電磁気演習や実験報告に苦勞した話、ボート大会などの課外活動等の話をするうちに学生時代に戻りました。

話が尽きない2時間でした。最後に「都の西北」を斉唱し、再会（2年後を予定）を約束して散会しました。

参加者（順不同）：犬丸文雄、上野谷拓也、大井進、大賀英二、金子義孝、川口正晴、小島敏郎、関紀男、武市博明、豊田信行、前田武志、松田聖、三奈木輝良、武藤正雄、藪光雄、山本康博、吉田初夫　幹事：神田泰夫、町山晃（文責）



大盛況だった同窓会 電気工学科 1971 (昭46) 年卒クラス会

2015年10月18日早稲田大学理工カフェテリアで同窓会を開催した。会の準備をしていると、遠くから「やぁー」と力強い声が届いた。白井前総長だ。唯一の招待先生がお忙しい中、時間通りに来校されたのは感激だった。2時から10分程遅れたが、開会の辞、物故者の合掌と白井先生のご祝辞でスムーズに始まった。初参加の中川君が加賀の名酒を持参してくれたので、乾杯の酒とし、あちらこちらからうまいとの声が上がった。

同窓会は会員240名中、住所判明者150名、その内、先生を含め、今日は参加予定者30名全員が顔を揃え、嬉しい限りであった。その学友達の歓談と学生時代の写真の紹介などで盛り上がり、何人かのスピーチも披露された。会も進み、主賓の白井先生が帰られるということで全員で記念撮影し、恒例の校歌斉唱を合田隆君指揮の下、皆で威勢よく歌った。そこで中川昭一君が前に進み出て早稲田第2校歌人生劇場のセリフ入りを声高に独唱し始めた。皆もこれには大喝采で、学生時代を懐かしく思った。そして、青木君の5年後もやろうという力強い閉会の辞で一次会はお開きになった。

続いて居酒屋「わっしょい」で二次会を開いた。同窓会出席者30名中何と24名の参加があり、大盛況だった。あちらこちらで祝杯をあげ、楽しそうに同窓会の余韻を皆で楽しんだ。最後に校歌斉唱万歳三唱で各自家路についた。

(記 草間 晴夫)



学生支援基金報告

ものづくりサークルWITSの活動内報告

創造理工学部 総合機械工学科 3年

徐 燦振

私たちWITSは、早稲田の理工に拠点を置く、ものづくりサークルです。数あるものづくりサークルの中でWITSは、『つくりたいを、形に』という理念をもとに設立当初から活動しています。特に、昨年度はユニラブやサイエンスリンクといった、子ども向け実験教室への参加を始め、ドイツのものづくりコンテスト「Xplore2015」の本選出場と精力的に活動してきました。こういった幅広い活動の背景には、モノをつくるコミュニティの形成が念頭にあります。

他のものづくりサークルでは、コンテスト・大会のためにメンバー丸となって活動するのに対して、WITSでは、メンバー各々のつくっていくものが全く異なります。様々な考えを持つ仲間同士が互いに刺激し合って初めて、「つくりたいモノ」が形になっていくと私は思うからです。例えば、「デザインがうまいがプログラムは書けない人」と「プログラムは書けるがデザインはできない人」とが一緒にチームを組んで、彼ら独自の「つくりたいモノ」を創り上げる可能性を秘めています。現に、子ども向け実験教室やXplore出場は各々にしかできないことをお互いが補いあった結果、サークルとしては大きく飛躍でき、さらに、メンバー一人一人が成長できたと確信しています。これこそが、まさに、WITSが形成しようとしている「ものづくりコミュニティ」の像なのです。

今年度は多くの新入部員の入部を受けて、ものづくりコミュニティとしてこれからどう展開していくか問われている時期だと私は思います。それにはお互いのアイデアを共有し合うための場をサークル内におき、まず自分がしたいこと、興味あることを形にしていくための前段階として、今年度からアイデア報告会を設け、自分のしたいことをメンバーに発表し、それに伴い何が必要で、どのように形にしていくかをプレゼンしています。会を開いてまだ数か月も経っていないので、効果のほどはまだはっきりとしませんが、他の人のしたいことに触発されて、自分も何か作ってみたいという流れは確かに生じつつあると思います。この流れをせき止めないように、今一度「つくりたいを、形」するために、メンバー一同、躍進していく所存です。



ユニラブの風景



Xploreの風景



サイエンスリンクの風景

ETロボットコンテスト デベロッパー部門

東京地区大会 報告書

基幹理工学研究科 情報理工・情報通信専攻 鷺崎研究室 修士2年
伊藤 佳衣

ETロボットコンテストのデベロッパー部門では、規定された走行体を使用し、そのソフトウェア面を変更することで規定されたコースを走行させ、ソフトウェアの変更の概要を記したモデル図審査の結果、及び競技成績を競う部門です。

規定されたコース上には、板に乗り上げ一回転し板から降りる（フィギアL）やゲートをくぐる（ルックアップゲート）などの難所が存在します。どのように難所を通過するのか、私たちは様々な方式を検討し、何度も試走を繰り返しながらソフトウェアの開発を行い、大会前には、この2つの難所を走行体が通過することができるようになりました。

今回は残念ながら地方大会敗退となり、目標としていたチャンピオンシップ大会への出場はかないませんでした。しかし、チームでソフトウェア開発を進めていくことの難しさや面白さなどを体験し、今後の研究活動などに活かしていくことのできるとても良い経験となりました。

最後に実際に開発した走行体の写真を掲載いたします。



図1 ルックアップゲート通過の様子



図2 フィギアL通過の様子

セキュリティコンテストSECCON2015に出場して

基幹理工学研究科 情報理工・情報通信専攻 修士2年

笹生 憲

私たち mlz0r3 は、セキュリティコンテストに取り組む学生主体のチームです。基幹理工学研究科 情報理工・情報通信専攻の森研究室と後藤研究室のメンバーが中心となって活動しています。

セキュリティコンテストは国内外で開催されており、ネットワーク上でサーバの攻防戦を行うものや様々な分野のセキュリティに関する問題に取り組み得点を競うものなどがあります。これらのコンテストの参加者は年々増加しており、メディアなどでもよく取り上げられるようになってきています。

私たちのチームは2012年12月に結成し、現在は学部3年生から修士2年生まで30名程度が所属しています。活動内容は、毎週行われる勉強会やオンラインで開催されるコンテストに出場することです。

・これまでの活動

開催日時	コンテスト名	結果	
2013年1月23日～24日	SECCON 2013 オンライン予選	13位	本戦出場権獲得
2013年3月1日～2日	SECCON 2013 CTF 全国大会		
2014年7月19日	SECCON 2014 オンライン予選	6位	本戦出場権獲得
2015年2月7日～8日	SECCON CTF 2014 決勝戦・全国大会		Medical x Security Hackathon 賞
2015年5月21日～23日	第10回危機管理コンテスト	1位	経済産業大臣賞 個人MVP
2015年11月8日	SECCON 2015 大阪大会(CSIRT演習)		
2015年12月5日～6日	SECCON 2015 オンライン予選	4位	国内1位

・SECCON

SECCONは、日々悪質化するサイバー攻撃から企業・組織を防御するために、優秀な情報セキュリティ技術者の育成とスキルの向上を目指す国内最大の団体であり、情報システムに対するハッキング技術や解析能力を競うコンテストを多数開催しています。毎年、決勝大会の出場権をかけた予選が全国各地で開催されています。

年々規模が拡大しており、2015年の予選には1,251チーム2,969名からの参加エントリーがあり、日本から1,697名の他、アメリカ、韓国、ロシアなど計65カ国からエントリーがありました。

・危機管理コンテスト

危機管理コンテストは、サイバー犯罪に関する白浜シンポジウムに併催された学生向

けのセキュリティコンテストで、SECCONと連携する大会となっています。このコンテストでは、参加チームは仮想の顧客企業のサーバの管理者となり、次々に発生するインシデントを迅速且つ的確に処理します。

私たちのチームは、「大会開催以来初の全てのインシデントの解決」、「電話対応のタイミング及び粒度の適切さ」、「報告書が短い制作時間でありながら図表を用いることで分かりやすさ」という点で大きく評価され大会優勝、経済産業大臣賞及び個人MVPを受賞しました。

・SECCON大阪大会（CSIRT演習）

SECCON 大阪大会（CSIRT演習）は、2015年11月に大阪で開催された大会です。EWE学生支援のおかげで、私たちの中から大阪大会には2名が出場することができました。貴重な経験をさせて頂けてとても感謝しております。

この大会は、インシデントハンドリングの机上演習によって競い合う大会でした。参加者は1つの会社組織を模した4名毎のチームとなり、自社から被害が出たインシデント、重大脆弱性発覚時や自社に影響する可能性がある未知の事象などに遭遇した場合に、組織として意思決定を行う過程の適切さを競いました。

・SECCONオンライン予選

SECCON オンライン予選と決勝戦では攻撃技術や解析技術を用いて問題に取り組み得点を競い合うCTFという競技です。これらの大会は2012年から開催されており、国内のみならず国外からの参加チームも年々増加しています。私たちは65カ国1,251チームの中で、全体4位・国内1位の成績を取ることができました。これにより、2013年から3年連続の決勝戦出場を果たしました。

今後も所属学生が互いに刺激となることで各人の技術力を向上させ、国内だけに止まらず海外の大会でも良い成績を取っていただけるように頑張りたいと思います！



左上:SECCON
 大阪会場
 左下:危機管理
 コンテスト
 表彰式
 右上:mj3073
 集合写真
 右下:
 競技の模様

先輩訪問

NHK放送技術研究所訪問



2015年10月2日に電子物理システム学科川原田研究室、谷井研究室、情報理工・情報通信学科小林研究室でNHK放送技術研究所に訪問させて頂き、今井様を始めとする早稲田大学の先輩方に貴重なお話を伺ってきました。本訪問は「NHK紹介」、「研究所見学」、「懇談会」の流れで行われ、大変有意義かつ貴重な経験となりました。ここに、訪問内容を紹介させていただきます。

まず「NHK紹介」では、NHKの歴史と、NHKで開発された技術を紹介した映像を拝見し、世界の最前線を走り続けるNHKの放送技術について学ぶ事ができました。

続いて、「研究所見学」では、「8Kシアターと22.2chサラウンド体験」、「VOD技術」、「ハイブリッドキャスト技術」、「音響技術」、「表示技術」、「音声認識を利用した生字幕制作技術」、「伝送技術」の見学をさせて頂きました。「8Kシアターと22.2chサラウンド体験」では、最先端映像技術の8Kと最先端音響技術22.2chサラウンドで製作されたFIFA女子ワールドカップなどのコンテンツを拝見し、想像を超えた臨場感を味わいました。「VOD技術」見学では、観たい時に観たいものを観たい角度で楽しめる技術を、「ハイブリッドキャスト技術」見学では、webとテレビの融合により、番組コンテンツの楽しみ方をより一層高める技術を拝見しました。ハイブリッドキャスト技術とVOD技術の見学を通して、テレビは皆が同じものを観て楽しむだけでなく、自分だけの楽しみ方も味わえる時代に変化しつつあるように感じました。「音響技術」見学では、3次元音響を体感し、その仕組みに関するお話を伺うとともに、日本最大級の吸音楔を設置して

いる音響無響室を見学させて頂きました。22.2chサラウンド技術をディスプレイ一体型スピーカーやヘッドホンに応用する実用化研究も進んでいるとのこともあり、今回体感した技術が身近になる世界がそう遠くない事に純粋に心を踊らされました。「表示技術」見学では、フレキシブル有機ELディスプレイを拝見し、開発の現状に関するお話を頂きました。8Kを生かすために、70インチ以上の大きさで薄くて軽いシート型ディスプレイを開発しているとのことで、先端技術を生かす実用化技術も重要な研究であることを改めて実感しました。「音声認識を利用した生字幕制作技術」見学では、音声認識において避けては通れない認識誤りを防ぐ為に、原稿を利用した発話内容推測で、正確かつ迅速に字幕を表示する技術を拝見しました。テレビを観る全ての人にリアルタイムでニュースを提供する為の、放送に特化した技術的アプローチに非常に魅力を感じました。「伝送技術」見学では、伝送容量拡大に向けて偏波MIMOや超多値OFDMを組み合わせた伝送技術の仕組みに関するお話を伺いました。日本全国あまねく伝える使命を果たしつつ、先端技術を支える重要な研究であるように感じました。

最後に「懇談会」では、質疑応答の時間を通して貴重なお話を伺いました。具体的には、まず先輩方がNHKで働くことを志望したきっかけについて伺いました。学生時代の趣味や研究などNHKで働くきっかけとなるエピソードを含めた様々なお話の中で、先輩方の共通点は「テレビが好き」ということでした。常に放送技術の最先端を走り続けるNHKの原動力として、学生時代の経験や学びを生かしつつも、純粋に「好き」を仕事にした方々が多いことがひとつあるように感じました。次に、4Kではなく8Kを目指す理由について伺い、日本の産業振興や国内メーカーへの期待の視点も含めて御説明を頂きました。社会のニーズやメディア環境の変化も踏まえた上で、先端技術の開発、研究を進めることの重要性について学びました。また、「8Kの技術は手術などの医療分野においても注目されている」というお話を頂き、NHKの放送技術が分野の枠を超え、私達の生活を担う重要な基盤技術になりつつあるように感じました。この他にも、「開発、研究と放送現場が連携しているからこそ知ることができるニーズや生まれるアイデアが、新たな放送技術の創出に直結している」というお話や「東京オリンピックを視野にいたれた技術開発、研究」のお話など、非常に貴重なお話を頂きました。

この訪問記を閉じるにあたり、EWE事務局中村様に御礼の言葉を述べるとともに、本訪問会の為に貴重な時間を割いてくださった今井様を始めとする先輩方に心より感謝申し上げます。

富士通を訪ねて



2015年11月10日に富士通を訪問させていただき、同社で活躍されている早稲田大学の先輩の齊藤常務、加藤所長（ネットワークシステム研究所）、山本所長（システム技術研究所）から貴重なお話を伺ってきました。本訪問会では、テクノロジーホールの見学および先輩方との意見交換という、大変有意義な経験をさせて頂きました。その内容について報告させていただきます。

はじめに、テクノロジーホールの見学についてです。テクノロジーホールは Presentation Zone、History Zone、Now & Future Zoneの大きく3つに分かれており、時代を代表する製品から世界で活躍する最新のICT（情報通信技術）まで、富士通の技術と情熱に触れることができるショールームです。History Zoneでは、通信機器メーカーとして誕生した富士通の技術革新の追及とともに歩んできた歴史が展示により紹介されており、現役で稼動する世界最古級のコンピュータであるリレー式計算機を実際に稼動させ、計算を行う様子も見ることができました。Now & Future Zoneでは、医療や環境、交通、教育などさまざまな分野におけるICTを活用した最新技術を知ることができました。世界初の実在する路線のハイビジョン映像を活用した鉄道運行シミュレーションや、スマートデバイスのカメラでテレビ映像などを写すことで情報を得ることのできる映像透かし技術を応用したユーザーインターフェース、タッチパネル表面を超音波振動させることで凸凹やザラザラ感、ツルツル感というリアルな触覚を表現する技術などを



実際に体験することができ、大変興味深く、刺激を受けました。

続いて、先輩方との意見交換会についてです。お忙しい中、斉藤常務、加藤所長、山本所長の3名の先輩方から貴重なお話を伺うことができました。

斉藤常務からは、富士通が技術を大事にしている会社であること、人を中心に考える会社であることというお話を頂きました。ICTにおいては、その技術やシステムが人を幸せにできるのか、人の役に立つのか、IoTにおいては、お客様の「困った」を解決できるかが一番の焦点であり、最後には人に届ける・人を幸せにするという思いが大事である。と、人を中心に考えることの大切さを強調されていました。加藤所長からも、「研究が誰にどう価値を提供するか」を常に考えるというお話を頂きました。山本所長からは、女性の立場から、家庭を持ちながら仕事をするのに向いている環境であるというお話や、誰かの役に立つ価値を生み出す現場に立ち会えることが仕事の醍醐味であるというお話を頂きました。3名の先輩方皆さんが、「人に価値を提供すること」そして「その価値をもって人の役に立つこと」を大きな軸としておられることがとても印象的でした。

また、斉藤常務からは「情熱とこだわりをもって、やり遂げる・新しいことへのチャレンジ・明るく元気」というメッセージも頂きました。「失敗は1回までは経験。同じことを2回やったら失敗」ともおっしゃっていました。

最後になりますが、本訪問会においていろいろと御世話をして頂きましたEWEの小川様、石原様に感謝致します。また、貴重な時間を割いてくださった斉藤常務、加藤所長、山本所長にも感謝致します。まことに有難うございました。

EWE活性化委員会2015年度活動報告

9年目を迎えた活性化委員会の活動を報告します。

会員アドレスの収集

2016年1月末現在の登録アドレス数は約5900件です。

- ・EWEウェブニュースの配信2015年1月～12月の1年間で27件のニュースを配信しました。内容は、シンポジウム等の案内4件、EWE活動関連3件、大学関連2件、ヘッドラインニュース10件、随筆7件、その他1件でした。

活性化委員会企画主催 EWE先輩との交流会

昨年と同時期の3月下旬に開催を予定しています。

- ・開催日：2016年3月23日（水）
- ・講演会場：西早稲田キャンパス63号館2階第3、4、5教室、参加企業31社、2省庁
- ・電気系の学生を中心に学部、修士、博士の学生が参加予定です。
- ・懇親会：63号館1階カフェテリアで先輩との交流のための有意義な時間を設けました
- ・配布資料：参加企業で活躍中の若手先輩から学生宛のメッセージを入れ、小冊子を作成し教官及び参加者に配布する予定です

企業見学会

- ・NTT横須賀研究開発センター 未来ネット研究所を中心に先輩の案内で見学しました
- ・日程及び参加者：2015年10月8日、参加者：20名（定員）

海外大学院留学説明会の支援

12月22日西早稲田キャンパスで開催された、海外留学を目指す理工の学生の為に、米国大学院学生会と協力し、早稲田大学の米国留学生による説明会及び懇談会の支援を理工学術院及び留学センターの協力のもとに行いました。講師6名、参加者約100名、留学経験を基にした講演・活発なパネルディスカッションが行われ盛会でした

講演会

スケジュールの調整が困難であったため2015年度の開催を見送り、2016年4月以降に開催することとしました。

活性化委員会メンバー

下村尚久	1960通	高橋 弘	1960電	根岸 哲	1962通	*三木博之	1962通
尾崎 肇	1962電	大附辰夫	1963通	中村耕造	1963通	矢幡明樹	1964電
本多正己	1965電	吉野武彦	1966通	穴澤健明	1967通	小野沢純一	1971電
鳥居司郎	1980通						

*委員長

(卒業年次順)

活性化委員会設立と活動に貢献された委員

種市 健	1959電	田中良一	1963通	太田健一郎	1963通	石川 宏	1965通
小泉金之助	1965電	原口昂夫	1967電	小菅康晴	1970通	杉原鉄夫	1966通

見学会報告

NTT横須賀研究開発センタ



2015年10月8日にNTT横須賀研究開発センタを訪問させていただき、情報通信に関する最先端の技術についてNTT未来ねっと研究所首席特別研究員の宮本裕様より貴重なお話を伺って参りました。高度な技術について知ることができたことは、非常に有意義な経験となりました。ここでは、3つの主な研究内容について紹介させていただきます。

まず、高効率MU-MIMOは、次世代無線LANに適用されるMU-MIMOをさらに高速化させる技術で、伝搬路の可逆性という物理的性質を活用することにより、通信のオーバーヘッドを削減します。

次に、MPEG Media Transport (MMT) は、新しく策定された映像をリアルタイムに伝送する技術標準であり、高速なハードウェアを用いて伝送速度を向上できる技術を導入することにより、近年急速に開発が進む4K/8K映像を放送や通信を介して配信することができるようになります。

さらに、光デジタルコヒーレント検波は、高速光ファイバー通信において受信信号に膨大な量の計算を施すことで、無線通信と同様に高度なデジタル信号処理技術を適用可能とし、光ファイバー通信固有の様々な波形歪を容易に補償することが可能です。近年の半導体プロセッサの進化により、ワンチップにこのシステムを収めることが可能となり、実用化が始まっているとのことです。

最後に、この見学会報告を閉じるにあたって、本見学会のために貴重な時間を割いてくださいました宮本様をはじめとするNTT横須賀研究開発センタの皆さまに感謝申し上げますとともに、いろいろ御世話くださった牧本先生、前原先生、企画くださった皆様に御礼の言葉を申し上げます。誠にありがとうございました。

情報理工学科 宇田川 海斗 (前原研究室)

EWE三月会2015年度活動報告

1950年に発足した当会は昨年で65年目を迎えました。基本的に毎月第三月曜日に開催している当会ですが、2015年度は下記のように10回の講演会を開催しました。毎回、熱心な方々が参加して活発な質疑応答がありました。やはり健康に関することには会員の関心が強いようで、最も参加者が多かったのは、7月例会の加藤信世先生による東洋医学的治療法でした。

- 1月例会：早稲田大学 基幹理工学部 情報通信学科 教授 亀山 渉先生
～生体情報を用いたメタデータ生成とその利活用に関する研究事例～
- 2月例会：早稲田大学 基幹理工学部 電子物理システム学科 教授 川原田 洋先生
～パワー半導体とエレクトロニクス再教育～
- 3月例会：早稲田大学 基幹理工学部 情報理工学科 教授 木村 啓二先生
～低消費電力マルチコアAPIを通じた産学連携プロジェクト～
- 4月例会：早稲田大学 基幹理工学部 電子物理システム学科 教授 山中 由也先生
～極低温冷却原子系と量子論～
- 5月例会：スイス連邦大学研究アドバイザー、中国3大学客員教授 後藤 敏先生
～企業の研究と大学の研究～
- 6月例会：早稲田大学 創造理工学部 環境資源工学科 教授 大和田 秀二先生
～環境調和型資源循環と分離技術～
- 7月例会：あかり医院院長 加藤 信世先生
～全身の観点からみた健康法と東洋医学的治療法～
- 9月例会：早稲田大学 国際情報通信研究センター 客員教授 津田 俊隆先生
～ネットワークを巡る最近の動向と早稲田の取り組み～
- 10月例会：早稲田大学 基幹理工学部 情報通信学科 教授 嶋本 薫先生
～ワイヤレスアクセス技術とその応用～
- 11月例会：技術コンサルタント 卜部 周二先生
～携帯電話今昔物語～

まだ当会をご存知ない方も多いようなので、以下にEWE三月会の概要をご紹介します。
 会員資格：早稲田電気工学会会員、及び会員の紹介で入会を希望され幹事会で承認された方
 開催場所：日比谷市政会館（日比谷公会堂裏側、入口は国会通り側）、5階第1会議室
 定例開催日：毎月第三月曜日（祭日の場合は翌日）、18～20時
 費用：年会費2,000円、参加費（その都度）2,000円（茶菓子付）
 （勉強会後には講師の先生を囲んで懇親会を近くの居酒屋にて会費3,000円程度で開催）

2016年度も各分野で活躍されている第一線の先生方をお招きしてお話を伺う予定です。

毎回15～20名程度の少人数ですから、先生との質疑応答も和やかな雰囲気の中で自由闊達な議論が展開されます。こうした機会は退職してしまうと、なかなか無く、非常に貴重だと思いますので、まだ参加されたことがないEWE会員の方も大歓迎です。

一回目は無料でご招待致しますので、下記メール宛てのご連絡をお待ちしております。

学生部会報告

研究室対抗ソフトボール大会に寄せて

2015年11月5日、EWE主催のソフトボール大会が、江戸川の河川敷にて今年も行われました。40チーム、約590名が参加し、野球場12面すべてを貸し切った大規模な大会となりました。日ごろ研究に没頭している学生たちにとって、この大会は体を動かす数少ない機会であると同時に、研究室の仲間同士や他研究室との親睦を深めることのできる良い機会でもあります。

午前9時試合開始に向けて、ベースを置いたり、石灰で線を引いたりして試合会場を準備する必要がありましたが、EWE学生委員の指示のもと皆で協力して作業を行ったため、スムーズに準備が終わりました。出場する学生たちは、空いている面でキャッチボールをして肩を慣らしたり、バッティング練習をしたりして十分にウォーミングアップを行ってから試合に臨んでいました。



優勝した若尾研究室のみなさん

研究室ごとに気合の入れ方が異なり、優勝を目指してずいぶん前から練習に励んできたチームもあれば、とにかく楽しく運動したいというチームもありました。しかし、どのチームもソフトボールを楽しんでいることには変わりありませんでした。午前中の試合が終了すると、皆で青空の下昼食をとりました。ビニールシートを持参し、研究室ごとにまとまって食事をしている様子は、まるでピクニックのようで皆楽しそうでした。

午前中の試合を勝ち抜いたチームが、午後の決勝トーナメントへと駒を進めます。決勝トーナメントでは、強豪同士の白熱した試合を見ることができました。声援にも熱がこもり、優勝への意気込みがどのチームからも感じられました。残念ながら午前中で敗退してしまったチームも、空いている面で練習試合を行い、親睦を深めていました。激戦を制し、今年度の優勝を果たしたのは、電気・情報生命工学科 若尾研究室の『若オッパビーズ』でした。おめでとうございます。

この大会を通して、忙しい研究生活の気分転換ができただけでなく、それぞれの研究室で仲間同士の絆が深まったことと思います。気持ちの良い汗を流せ、充実した1日となりました。EWE学生委員として、この大会の運営に関われたことを嬉しく思います。来年もまた良い大会となることを期待します。ご協力ありがとうございました。

EWE学生委員 電気・情報生命工学科4年 水上 優夏（胡桃坂研究室）

2015年度修士論文一覧

<電気・情報生命専攻>

- 石山 敦士 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/ishiyama/>
 池田 愛花 無絶縁REBCOパンケーキコイルの局所常電導転移に関する研究
 今市 洋平 超電導サイクロトロンにおける遮蔽電流磁場に関する研究
 大木 隆広 無絶縁REBCOパンケーキコイルのコイル保護に関する研究
 菊池 龍 作業記憶時における課題成功時の皮質間ネットワークの解明
 辻 義明 超電導コイル高機械強度化実現のための補強構造に関する研究
 松見 絢子 MRI用高温超電導コイルにおける遮蔽電流磁場が磁場均一度に与える影響
 評価
 持田 歩 REBCOマルチ超電導コイルにおける遮蔽電流による不整磁場に関する研究
- 井上 宏子 研究室 http://www.eb.waseda.ac.jp/h_inoue/
 西川 淳 大腸癌細胞におけるフルクトオリゴ糖によるアポトーシスの誘導
 吉村 侑樹 脂肪細胞から分泌された因子によるミクログリアの活性化
- 井上 真郷 研究室 <http://www.inoue.eb.waseda.ac.jp/>
 大迫 翔 スイス式大会の組み合わせ最適化—MCMCによる集合分割問題の近似的解法—
 simpathを応用した複数巡回セールスマン問題の解の全列挙と最適解探索
 鎌田 庸裕 混合正規分布推定問題に対する変分Bayes法の推定量の研究
 蒲原由里加 説明変数の測定精度を考慮した線形回帰による概日リズムに影響を与える
 生薬の推定
 菅野 郁子 マルチエージェントモデルを用いた貨幣の成立過程の研究—安富モデルの拡張—
 小梅 祐多 エル字星座ゲームの最適解探索アルゴリズムの研究
 中村絵梨香 RVMを用いた生体腎移植における術後7日目の血清Cr値の予測
 和田 洋輔 Twitterを用いたイベントシーンに対する代表的ツイートの抽出
- 岩崎 秀雄 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/iwasaki/>
 砂川 大輔 シアノバクテリアで暗期特異的遺伝子発現を制御する因子の探索
 馬橋 博大 運動性シアノバクテリアGeitlerinema sp. ILC 546とその変異株ILC 547のコ
 ロニーパターン形成とゲノムDNAの解析
- 岩本 伸一 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/iwamoto/>
 伊藤 孝将 太陽光発電大量導入時のファジィ計画法を用いた系統電圧・無効電力制御
 に関する研究
 大谷 崇人 ニューラルネットワークを用いた発電機・蓄電池協調負荷周波数制御
 小林淳之介 機械学習を用いたパターン認識とクラスタリングによるN波脱調を考慮した
 過渡安定度高速スクリーニング手法
 森 優太 最適ポートフォリオ選択手法を用いた再生可能エネルギー導入時における
 変圧器増強・更新手法に関する研究
- 内田 健康 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/uchida/>
 鵜殿 和暉 UAVの空撮画像に基づくUGVの未知環境移動システム

- 押切 律之 都市交通におけるエコドライブのための信号・先行車両情報を用いた車速のモデル予測制御
- 夏 園 複数台のカメラを用いたCamShiftとカルマンフィルタによる移動する人物の認識と追跡
- 小泉 智宏 エネルギーネットワークにおける需要者の戦略的行動パターンに関する考察
- 高松 克明 製鉄所スラブヤードにおけるクレーン物流システムの高速スケジューリング
- 細田 康介 シアノバクテリアの概日リズムに対する2つの分子モデルを用いた温度補償性・同調性の解析
- 松井 駿 選好を考慮したLQG電力需給ネットワークに対する動的出力統合メカニズムの設計
- 綿屋 翔平 交通流の円滑化を目的とする車線変更意思決定手法

大木 義路 研究室

<http://www.eb.waseda.ac.jp/ohki/>

- 黒田 千愛 ポータブル血液検査装置のための血漿測定システムの開発
- 井筒 智之 テラヘルツ分光測定による高分子絶縁材料組成物の定量および不純物の検出
- 北村 文乃 テラヘルツ分光によるDNAの構成塩基の吸収測定とチミン塩基数の推定
- 佐藤 光太郎 導波モードセンサを用いた硫酸銅めっき液中添加剤量の監視
- 滝花 純也 遠赤外分光測定によるシラン架橋ポリエチレンのゲル分率の推定
- 陳 東京 溶液法で作製したアモルファスIGZO薄膜半導体の伝達特性に与えるイオン注入とアニールの効果
- 西川 聖也 高分子絶縁材料よりの発光および吸光の実測と量子化学計算による検証
- 針間 正幸 高誘電率絶縁材料LaAlO₃に与えるイオン照射と熱処理の影響

岡野 俊行 研究室

<http://www.okano.sci.waseda.ac.jp>

- 阿部 大輝 脊椎動物における磁気受容メカニズムの行動学的探索
- 近藤 慎吾 ニワトリクリプトクロム4の光応答メカニズムの解析
- 佐藤 駿 快適な睡眠を実現する光環境制御プロトコルの開発
- 品川 敬哉 抗ネットイツメガエルCRY6抗体の作製および出芽酵母によるCRY6の発現精製
- 玉澤 歩実 ゼブラフィッシュクリプトクロムの発現量変動解析
- 蓮沼 佑太 モノクローナル抗体を用いたゼブラフィッシュクリプトクロム4の機能解析

胡桃坂 仁志 研究室

<http://www.eb.waseda.ac.jp/kurumizaka/>

- 足立風水也 メチル化DNAを含むヌクレオソームの生化学的、物理化学的解析
- 下向 真代 DNA複製ストレス応答に働くFANCD1-FANCD2複合体の生化学的機能解析
- 鈴木 佑弥 クロトニル化ヒストンH3を含むヌクレオソームの生化学的および構造生物学的解析
- 西山 友貴 モノユビキチン化ヒストンを含むヌクレオソームの生化学的解析および構造生物学的解析
- 平山恵美子 新規DNA修復因子RFWD3の生化学的機能解析
- 藤田 理紗 セントロメア特異的なCENP-Aヌクレオソームとセントロメアタンパク質CENP-Bの相互作用メカニズム解析
- 村越 大夢 HP1とメチル化ヒストンを含むクロマチンとの結合解析

小林 正和 研究室

<http://www.eb.waseda.ac.jp/kobayashi/>

- 安居 雅人 マグネトロンスパッタリング法によるZnO:Al膜の作製と電気・光学特性の評価
- 井上 朋大 Mo膜上AgGaTe2のピーリング法
- 梅嶋 悠人 Se蒸気圧制御によるCu₂ZnSnS₄ナノ粒子塗布膜のSe化と太陽電池特性の評価

- 風見 露乃 平滑界面を有するリッジ型低伝搬損失ZnMgTe/ZnTe光導波路の作製
上村 一生 ラマン分光法を用いた Cu₂ZnSnS₄ナノ粒子塗布膜の Se化による結晶構造の変化の検討
- 木津 健 サファイア基板のファセット構造制御によるZnTe薄膜成長過程の制御
竹田 裕二 スパッタ法における発光スペクトルの探索と高密度電極の作製
服部 翔太 MBE法によるサファイア基板上へのZnTeの選択成長

柴田 重信 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-shibatasa/>

- 石川 亮佑 ウズラの肝臓における脂質代謝の概日リズムと絶食性脂肪肝の関係
菊池 耀介 潰瘍性大腸炎モデルマウスにおける炎症反応の日内変動とニコチンの時間薬理学的作用機構の解明
- 北川 絵理 プレオマイシン誘発性間質性肺炎モデルマウスにおける体内時計の役割解明
佐々木裕之 運動の時間帯とタイミングがマウスの体重増加やエネルギー代謝に与える影響
- 白石 卓也 ストレスに依る概日時計同調と作用機序の解明
坪坂 美来 EGCG、緑茶の投与時間の違いが糖負荷後の血糖値変動に及ぼす影響

宗田 孝之 研究室

- 石澤 直弘 フェムト秒レーザーによる二光子励起時間分散蛍光寿命法による潜在指紋顕在化
- 梅村 定典 熱処理による残留指紋成分の変性機序-理論的考察-
大野 亮一 成人爪甲色素線条悪性良性鑑別システム;継時変化
奥山功太郎 爪甲色素線条の鑑別システムを用いた小児症例の時間変化
片桐 孝太 掌蹠の色素性病変に対する機械診断
木島 智紀 ZnOバルクマイクロキャビティにおける励起子ポラリトンの寿命
齋藤 雅輝 脈絡膜悪性黒色腫における非侵襲鑑別支援システム
西澤 学 ZnOバルクマイクロキャビティにおける励起子ポラリトンの相互作用
北條 佑樹 ハイパースペクトラルイメージャー (HSI)を用いた重畳指掌紋の分離

高松 敦子 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/takamatsu/Welcome.html>

- 関根 渉 血管形成におけるネットワーク解析
小野 恭吾 粘菌アルゴリズムにおける環境の時間変化を考慮したネットワーク設計
木村 拓 Pseudanabaena sp. の粘液が細胞増殖に与える影響についての解析
齋藤 拓 運動性シアノバクテリアにおける個体間相互作用の解析
辻 喬 真正粘菌変形体ネットワークの分岐・中心性における培地環境依存性解析
豊田 悟史 光刺激状況下における真正粘菌変形体のネットワーク形成

林 泰弘 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/hayashi/>

- 榎本 恭平 配電系統電圧制御におけるセンサ開閉器情報を活用したLDC整定手法に関する研究
加藤 瑠奈 需要予測の不確実性を考慮した電力融通供給型集合住宅におけるSOFC群ロバスト運用計画決定手法に関する研究
小林 信平 太陽光発電出力抑制回避のためのコージェネレーションシステム群の運用・制御に関する研究
高橋 諒 リアルタイム最適化による集中型電圧制御手法に関する研究
古屋 成悟 短周期変動対策用蓄電池の運用評価のための擬似風力発電プロファイル生成に関する研究

丸山 弘貴 太陽光発電と蓄電池の協調運用による業務用需要家の事業継続性の評価に関する研究

牧本 俊樹 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/makimoto/>
 浦部 宏之 AlGaAs/GaAs太陽電池における表面再結合制御の研究
 倉本 真 AlGaAs/GaAs超格子太陽電池に関する研究
 中野 朋洋 AlGaAs/GaAs超格子pin接合における発光特性の研究
 前田 理也 r面サファイア基板上へのa面InN成長におけるbuffer層依存性

村田 昇 研究室 <http://www.murata.eb.waseda.ac.jp/>
 辺 楊 深度センサーを用いた異常行動モニタリングシステム
 金田 有紀 複数粒子フィルタとモデル選択を用いた脳内電流源推定手法の提案
 高野 健 Non-parametric e-mixture Estimation
 千葉 智暁 時間推移する定常分布の潜在構造推定
 増田 晋吾 BCI開発に向けた各々の電極を考慮したSSVEPの判別

若尾 真治 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/wakao/>
 賀 駿 住宅用太陽光発電システムの経済性向上を目指した蓄電池運用に関する一考察
 黒岩 浩人 エネルギーマネジメントのための住宅群負荷予測手法の開発
 小林 亘 磁界の強さを変数とした境界積分法の高精度化に関する検討
 塚本 恵実 センサレス制御に適したIPMSM設計のための3D磁界解析
 細淵雄一朗 局所展開要素を用いた磁界解析に関する基礎的検討
 山崎 朋秀 太陽光発電大量導入時のEMSに向けた日射量・負荷量の予測信頼区間推定手法の開発
 笠 健悟 二重層法を用いた電磁界解析の高精度化に関する研究

渡邊 亮 研究室 <http://www.watanabe.eb.waseda.ac.jp/>
 青木 敬太 フロントガラス表面上に発生する結露のFTIR原理に基づく検出
 五十嵐 守 先行車・後続車双方との衝突リスクを考慮した車間距離制御システムの設計
 河邊 裕大 駅ホーム端事故防止のための深度カメラによる危険度判定
 川和田達也 急速充電時の冷却によるEV用リチウムイオンバッテリーの劣化抑制
 高橋 大樹 複数のクアドロータを用いた協調的物体運搬システムの設計
 堤 昌寛 筋電義肢のための筋骨格系を基にした力学モデルおよび聴覚性動作情報フィードバックシステムの構築
 宝珠山和博 熱間圧延Run Out Tableに対する空間分割温度モデルの構築と2自由度制御系の設計

<情報理工・情報通信専攻、情報理工学専攻*>

石川 博 研究室 <http://hi.cs.waseda.ac.jp/index.php/ja/>
 石井 智大 Convolutional Neural Network による衛星画像上の地物認識
 岩野 俊介 Minnaert則を考慮した小惑星の3次元復元
 神田 庸平 同一人物に見える範囲で最大限に顔画像の美形化
 森田 皆人 臓器の位置関係を考慮した3D医用画像の多臓器同時セグメンテーション

- 上田 和紀 研究室** <http://www.ueda.info.waseda.ac.jp/index-j.html>
 鈴木 祥之* Partial MaxSAT 問題における局所解の求解に対する並列 SAT ソルバの有
 用性の評価
- 伊藤 剛史 ハイブリッド制約言語HydLa処理系の並列化による高速化
 奈良 耕太 再帰的な文脈パターンマッチング機能を持つグラフ書換え言語の設計と効
 率的な実装手法
- 若槻 祐彰 ハイブリッド制約処理系HyLaGIへのLTLモデル検査の導入
 和田 努 ハイブリッド制約言語HydLa処理系における数式処理と区間演算を組み合
 わせたシミュレーション実行
- 筧 捷彦 研究室** <http://www.kake.info.waseda.ac.jp/>
 岡野 和徳 Twitterを活用した鉄道運行情報判定手法の改善—運転再開判定の精度向上
 と重複通知の防止—
 鳥野 浩史 アイテムの属性につけられた評点を利用した推薦
 趙 克偉 プログラムコンパイル時のワーニングメッセージの簡易化による教育支援
 の提案
- 笠原 博徳 研究室** <http://www.kasahara.cs.waseda.ac.jp>
 奥村万里子 OSCARコンパイラを用いた医用画像フィルタリングのマルチグレイン並列
 処理
 柴崎 大侑 OSCARコンパイラを用いた医用画像3Dノイズリダクションの自動マルチ
 グレイン並列処理
 鈴木 貴広 車載マルチコア環境におけるSimulinkアプリケーションの自動並列化
 田中 優利 ソフトウェア無線基地局及び渋滞予測シミュレーションを対象とした社会
 インフラ情報システムの並列
 矢吹 潤 コンパイラ制御による低消費電力化に向けた電力プロファイルの自動測定
 手法の研究
- 甲藤 二郎 研究室** <http://www.katto.comm.waseda.ac.jp/>
 青木 大樹 省電力動画配信に向けたICNネットワーク消費電力量評価
 石津 裕也 NDN上のビデオ配信における再生バッファ制御に基づく電力モデル提案と
 省電力化への検討
 大石皓太郎 機械学習を利用した打楽器の音源同定
 折橋 翔太 8K映像における画像局所特徴量を用いたH.265/HEVCの符号化画質改善
- 亀山 渉 研究室** <http://www.km.comm.waseda.ac.jp/>
 三木 亮祐 基礎律動を用いた印象の類似性に基づく音楽分類に関する研究
- 木村 啓二 研究室** <http://www.apal.cs.waseda.ac.jp>
 菅原 裕太* OpenCV for Androidの並列処理方式による性能評価
 飯塚 修平 マルチコア上でのコンパイラ制御によるアプリケーションの低消費電力化
 に関する研究
 影浦 直人 OSCAR 自動並列化コンパイラにおけるメモリ自動配置決定機能及び構造解
 析機能の実装
 ギ へ OSCAR C++自動並列化コンパイラの開発

- 小松 裕樹 LTE無線通信基地局におけるレイヤ2信号処理の自動並列化及びOSCAR自動並列化コンパイラを用いた構造体配列・多重ポインタの解析
- 出浦 佑樹 不正侵入検知システムのレイテンシ削減手法及びネットワーク上での性能評価
- 福意 大智 「Linux ftraceによる並列化されたプログラムのトレース手法」及び「計算機システムエミュレータによるプログラムの実行再現手法」
- 和気 珠実 OSCAR 自動並列化コンパイラにおけるマルチコアプロセッサ上でのWebMデコーダの自動並列化および画像処理並列性解析機能の拡張
- 後藤 滋樹 研究室 <http://www.goto.info.waseda.ac.jp/index-j.html>
- 青木 一樹 階層成長型自己組織化マップによるマルウェアのクラスタリング
- 池西 大起 スロースキャンの偵察行為の特徴分析
- 小崎 頌太 HTTP遷移の特徴解析によるWeb感染型マルウェアの早期検出
- 志村 正樹 スпамトラップを用いたマルウェアスパムメールの特徴分析
- 高橋 一基 User-Agent毎のDNSキャッシュの効果分析
- 武部 嵩礼 動的解析のDeep Learningによる亜種マルウェア推定法
- 小林 哲則 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>
- 小本 勇貴 Enhanced Web Speech API:ブラウザ非依存なエンジン選択・拡張が可能なHTML5用音声ウェブアプリケーション開発用プラットフォームの実現に関する研究
- 高津 弘明 意図性の異なる多様な情報行動を可能とする音声対話システム
- 竹田 圭吾 チャンネル指向インタフェースを用いた高齢者と家族の交流のためのインタラクション設計と評価
- ZHANG, Xuefeng* Temporal Convolutional Neural Networks for Semantic Video Indexing
- 佐藤 拓朗 研究室 <http://www.sato.comm.waseda.ac.jp/>
- 宮本 貴弘 グリーンICNアーキテクチャ およびその評価
- SHINMOTO ALVAREZ, Assessment of Named Node Networking Support for Producer Mobility
- Rafael alejandro The study of Information-Centric Network Disaster System
- ZHANG, Chengcheng 国際標準化と携帯電話事業戦略分析
- 春田かすみ
- 嶋本 薫 研究室 <http://www.sl.comm.waseda.ac.jp/?lang=ja>
- 稲垣沙津紀 Body Area Healthcare Network Employing Ultrasonic Signal
- 川端 萌美 Study On Public Safety LTE Network for Large-Area Emergency
- CHEN, Guang jie UAV Automatic Navigation and Landing System
- 菅原 俊治 研究室 <http://www.isl.cs.waseda.ac.jp/lab/>
- 大舘 敬寛 交通量を考慮した自律信号機制御手法の提案
- 齋藤 健吾 希望順位を反映させたリソース割当て問題
- 芝 夢乃 信頼ネットワーク形成によるグループワークの公平な相互評価法の提案
- 渋澤 亮介 複雑ネットワークにおけるエージェント間の調整と協調の促進について
- 杉山 歩未 マルチエージェント巡回清掃における未知環境下での自律的な戦略学習と協調手法の提案
- 宮下 裕貴 互惠エージェントを用いた組織形成によるマルチエージェントシステムのチーム編成ゲーム効率化

- MA, Xinyue Multiple Goal Achievement for Plan-Based Story Generation in Multi-agent Planning
- SEA, Vourchteang* Area Partitioning Method with Learning of Dirty Areas and Obstacles in Environments for Cooperative Sweeping Robots
- 高畑 文雄 研究室** <http://www.takahata.comm.waseda.ac.jp/>
 今村 和樹 MU-MIMO下りリンクNLPにおける格子基底縮小と象限検出を適用したVPの最適化に関する研究
 白戸 諒 ブロッキングを考慮した移動体衛星通信用TCP プロトコルに関する研究
 玉田 裕子 符号化MIMO-OFDM におけるFEC 復号に有効な尤度に関する研究
 横山 拓郎 フェージング変動に追従するスキャッタードパイロットの適応的配置法に関する研究
- 戸川 望 研究室** <http://www.togawa.cs.waseda.ac.jp/>
 五十嵐啓太 セレクタ論理を適用した3次元画像処理のFPGA実装に関する研究
 大屋 優 設計段階における耐ハードウェアトロイ技術に関する研究
 蔣 慧倩 Scan-based Attacks on the Block Cryptography LSIs using Scan Signatures
 竹田 健吾 可視角ランドマークに基づく屋外歩行者案内
 藤原 晃一 レジスタ分散型アーキテクチャを対象とした低レイテンシー指向FPGA高位合成に関する研究
 吉田慎之介 低面積コストなタイミングエラー対策と暗号システムへの応用に関する研究
 古城 辰朗 書き込みビット数削減と誤り訂正を実現する不揮発メモリ向け符号構成手法
- 中島 達夫 研究室**
 磯嶋 光春 関数型言語を用いたゲームライブラリの制作
 浦川 翔馬 仮想空間への没入感を高めるための研究調査
 齋藤 択光 Searching effects in learning: How to improve the motivation in the internet
 二宗 素紀 ゲーミフィケーションを用いたタグ付きコーパスの作成
 三浦 大幸 VR-HMD-NUI型アプリケーションのためのアフォーダンスデザイン
 AL-SADA,
 Mohammed*
- 深澤 良彰 研究室** <http://www.fuka.info.waseda.ac.jp/>
 相澤 和也 実行時要求緩和のためのゲーム理論を応用した環境モデル分析手法に関する研究
 須藤 一輝 モデル変換によるドメイン固有性質の形式検証に関する研究
 松澤 岬 操作履歴を基にしたAndroidアプリケーションのユーザビリティ評価支援手法
 芳澤 正敏 テストテンプレートをを用いたセキュリティ設計パターンの実装支援に関する研究
- AMELIA, Rizki* Investigating Relationship Between Requirement Traceability Links and Bugs for Maintenance
- 前原 文明 研究室** <http://www.waseda.jp/sem-maehara/>
 天堤 拓郎 次世代移動通信システムに向けた多元接続法に関する研究
 氏原 圭亮 MU-MIMO伝送への端末アンテナ選択の適用に関する研究
 丸小 倫己 セルラーシステムへのMU-MIMO THPの適用に関する研究
 三原 寛高 非線形増幅を伴うシングルキャリア信号の伝送特性解析法に関する研究

- 松山 泰男 研究室** <http://www.wiz.cs.waseda.ac.jp/>
- 今井 哲 フラクタル次元解析による脳作業負荷の自動定量評価
 岩瀬 弘道 脳波を用いた二要素認証システムの提案
 鹿野 晶滉 直線輪郭検出器の導入による省メモリ高速一般物体検出システムの提案
 杉原 啓太 運動想起型BCIの制御性能向上に向けたニューロフィードバックヒト訓練システム
- 藤本 裕介 タグ数推定とトピックモデルを用いた自動タグ付け手法の研究
 植本 貴翔* 品詞情報を考慮した単語への重み付けによる有用レビュー文の抽出
 岸田 翔太* 視聴時の眼球運動より推定された感情を用いた動画分類
 王 皓* Binary Descriptors for Image Classification and Color Extensions for AKAZE Descriptors
 李 丹* KLSHとブースティング手法を用いた局所特徴量の提案
- 森 達哉 研究室** <http://nsl.cs.waseda.ac.jp/>
- 江畑 樹 登録情報に基づく悪性ドメインの実態調査
 笹生 憲 マルウェアの多クラス分類に有用な静的情報の特徴抽出
 竹越 健斗 Twitterにおけるフォロワーマーケットの実態調査とフェイクアカウントの抽出手法
 藤野 朗稚 エキスパートによるマルウェア解析レポートと動的解析ログの相関分析
 渡邊 卓弥 RouteDetector:9軸センサ情報を用いた位置情報追跡攻撃
- 山名 早人 研究室** <http://www.yama.info.waseda.ac.jp/>
- 上里 和也 Personalized PageRankを利用した網羅的Twitterユーザ属性推定
 王 琛 視線情報を用いた視聴者の非侵襲型可読言語推定
 畠山 恭明 キーワードに基づく一般的な回答を行う相談システムの提案
 林 佑磨 発話間関係の構造化による会議録からの議論マップ自動生成システム
 吉岡 重紀 生成型一文要約のためのマルチアテンションモデル
 WANG, Lan Improving Chinese native language identification by cleaning noisy data and adopting bm25
- 鷺崎 弘宜 研究室** http://www.washi.cs.waseda.ac.jp
- 音森 一輝 初学者用プログラミング学習ツールにおけるキャラクタが与える学習動機づけの分析
 小林 純一 Element Extraction Method for Developing Source Code Analysis Tools Supporting Multiple Programming Languages
 小堀 貴信 Efficient and exhaustive identification of rationales using GQM+Strategies with stakeholder relationship analysis
 津村 耕司 Pairwise Coverage-based Testing with Selected Elements in a Query for Database Applications
 中井 秀矩 Initial Framework for Software Quality Evaluation based on ISO/IEC 25022 and ISO/IEC 25023
 須永 佑輔 The Impact of Combinations of Personal Characteristic Types in Different Controlled Project-Based Learning Courses
 楊 林超* ComplexRefactor:Scripting and Automating Complex Refactoring
 HAO, Yiyang* A Third-Party Extension Support Framework Using Patterns
 NAKSTAD, Frederik Haaseth* Finding and Emulating Keyboard, Mouse, and Touch Interactions and Gestures while Crawling RIAs

渡辺 裕 研究室
柳澤 秀彰

<http://www.ams.giti.waseda.ac.jp/>
マンガキャラクターを対象とした多視点顔検出の研究

＜電子物理システム学専攻＞

宇高 勝之 研究室
黒田 康彰

<http://faculty.web.waseda.ac.jp/utaka/>
二重反射醸造によるポリマー導波路型クレッチマン配置表面プラズモン共鳴センサの高性能化の研究

嶋田 裕介
武井 勇樹

光インターコネクション用交差導波路型シリコン光スイッチの研究
全光論理素子に向けた多重積層量子ドットの組成混晶とその集積デバイス応用の研究

永井 秀樹
山田佐代子
横井 裕人

シリコンプラットフォーム上へのハイブリッド集積化の検討
シリコンスロット導波路によるCNTの可飽和吸収特性に関する研究
リング共振器光フィルタの狭帯域化と曲線型方向性結合器による偏光無依存化の検討

木村 晋二 研究室
後藤 智哉

<http://www.waseda.jp/sem-vlsi/>
回路の時間展開とSAT判定を用いた順序的クロックゲーティングの自動挿入手法に関する研究

櫻井 貴文
高柳 尚士

Six-Step FFTアルゴリズムに基づく高効率並列FFTプロセッサに関する研究
単一命令セットを利用したプログラムの動作環境保存手法に関する研究

小山 泰正 研究室
井下 匠

<http://www.koyamalab.sci.waseda.ac.jp/>
マルチフェロイクス物質 $\text{Bi}_{1-x}\text{Sm}_x\text{FeO}_3$ におけるモルフォトロピック相境界付近での誘電状態

栗原 大知
後藤 崇将

Mn-Si-V合金における v およびH相の結晶学的特徴
強相関電子系酸化物 $\text{Ca}_{1-x}\text{La}_x\text{MnO}_3$ における $0.10 \leq x \leq 0.20$ 組成域での結晶学的特徴

小松崎 巧
白谷あゆみ
星野 伸明

Mn-Si-V合金における近似結晶H相および $(\sigma \rightarrow \text{H})$ 構造変化の特徴
強相関電子系酸化物 $\text{Sr}_{1-x}\text{Nd}_x\text{MnO}_3$ における軌道整列状態の特徴
混晶系強誘電体 $\text{Ba}(\text{Ti}_{1-x}\text{Zr}_x)\text{O}_3$ における強誘電分域

谷井 孝至 研究室
石原 広識
櫛田 昂歳

<http://www.tanii.nano.waseda.ac.jp/>
神経細胞を用いたモジュール型神経回路の構築
ナノ構造を用いた1分子蛍光イメージング法に関する研究—DNAの構造変化の1分子観察—

小池 悟大

ナノホールレジストマスクを用いたイオン注入によるダイヤモンドNVセンタの配列の作製

小室 雅春

光位置検出素子を用いた層間変位と回転角の同時計測に関する研究—建物の耐震性評価に向けて—

坂本 留実
関根 浩平
千葉 悠貴

酸化チタンの光触媒作用を用いた細胞接着および遊走評価系構築
液中細胞パターンニングへの酸化チタンの光触媒能の活用に関する研究
エルビウムを注入したシリコンの発光特性及び電気伝導特性の実験的評価

柳澤 政生 研究室
加藤 亮太

<http://www.yanagi.cs.waseda.ac.jp/>
自律移動ロボットの障害物回避手法に関する研究

川村 唯樹	可視光LANにおけるスループット向上のための全二重MACプロトコルに関する研究
小山 遼太	圧電素子に伴う自電源駆動型電力変換回路およびスタートアップ機構の設計に関する研究
鈴木 大渡	動的電圧・周波数制御におけるタイミングエラーへの耐性を持つ集積回路設計に関する研究
平野 大輔	故障解析に耐性を持つ暗号回路設計に関する研究
福留 祐治	サブスレッショルド電圧動作時におけるDTMOSとDTMOSをFinFETへ適用した回路設計に関する研究
安田 直矢	水中における可視光通信の特性評価と品質向上に関する研究
劉 明磊	イメージセンサにおける水中通信の評価

山中 由也 研究室	http://www.yamanakalab.sci.waseda.ac.jp/
川口 拓磨	グレーソリトンの中心におけるゼロモードの量子ゆらぎ
永井 康裕	原子核 a クラスタ状態に対するBose-Einstein凝縮描像による励起エネルギーの a 粒子数依存性
横山 大	General Purpose computing on GPUによる拡張Lagrange法の高速度化
吉岡 良	12C a クラスタ状態に対するBose-Einstein凝縮描像による解析と遷移確率の計算

山本 知之 研究室	http://www.cms.sci.waseda.ac.jp/index_j.htm
池田 悠馬	ニューラルネットワークを用いた材料特性予測
糸川 卓志	3d遷移金属を添加したSrTiO ₃ の電子状態解析
岩田 亮	Er添加Sr ₂ SnO ₄ のフォトクロミック特性評価
内田 潤一	Fe添加BaZrO ₃ におけるFeの局所環境解析
加瀬 絢也	無機フォトクロミック物質BaMgSiO ₄ :FeにおけるFeの局所環境解析
兼本 章義	Er,Yb共添加CaZrO ₃ の蛍光特性
樽井 健司	希薄磁性体Co添加CeO ₂ における強磁性発現機構
西山 洋子	ZnO:GaへのF添加が及ぼす電気伝導性と透明性への影響
別所凛太郎	フェーズフィールド法によるBaTiO ₃ のドメイン組織形成シミュレーション
前木 和	プロトンを含む地球下部マントル物質MgSiO ₃ の第一原理計算
松本 恭平	SnO ₂ 系透明導電酸化物に及ぼすF,Sb添加の影響
森谷 真帆	熱酸化SiO ₂ 極薄膜の誘電率と原子配列のSi 基板面方位依存性

<ナノ理工学専攻>

川原田 洋 研究室	http://www.kawarada-lab.com/index.html
藤浦 泰資	超伝導ボロンドープダイヤモンドの高転移温度を目指した合成条件の検討と電磁気特性・格子歪み評価とその超伝導デバイス応用
許トクシン	二次元正孔ガスを用いた単結晶及び多結晶ダイヤモンドMOSFETの動作特性
小林 幹典	二次元正孔ガスを用いた縦型MOSFETの開発
鈴木 和真	カーボンナノチューブフォレストを用いたSiCパワーデバイス用オーミック電極の開発
瀬下 裕志	ダイヤモンド表面修飾の検討と評価
山田 哲也	二次元正孔ガスを用いたダイヤモンドMOSFETの耐压特性およびノーマリアオフ化

- 庄子 習一 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-shoji/index.html>
 井口 彩香 生体分子分析を目的とした光駆動二重構造液滴ソーティングデバイスの開発
 大山 真輝 高密度三次元実装に向けたマイクロバンプと封止用樹脂によるシングルミ
 クロンピッチハイブリッド接合
 金子 祐史 神経及び脳機能解析を目的としたマイクロ流体デバイスの試作
 桑江 博之 Nano-OLEDsを用いた電流励起有機半導体レーザーの基礎研究
 須藤 健成 橋架け構造により高い擦り耐性を実現するガラスナノピラーの作製
 山田 晋也 塗布型有機電界発光素子作製に向けた金属配線・有機発光層の一括接合
 仁村 将次 積層型機能性デバイスに向けたハイブリッド接合技術に関する研究
- 渡邊 孝信 研究室 <http://www.watanabe.nano.waseda.ac.jp/>
 秋山 隼哉 拡張現実技術を応用した分子構造の表示システムに関する研究
 今津 研太 Niイオン照射により誘起されたSi表面再構成のSTM観察
 志村 昂亮 分子動力学計算によるhigh-k/SiO₂界面の電気的ダイポール層形成機構に関
 する研究
 ソン セイ SiナノワイヤにおけるNiシリサイド反応の制御に関する研究
 武井 康平 ナノワイヤ型ショットキー接合Siトランジスタに関する研究

＜数学応用数理専攻＞

- 大石 進一 研究室 <http://www.oishi.info.waseda.ac.jp/>
 吉井平八郎 H行列の性質を用いた連立一次方程式の精度保証付き数値計算法
 中村 紀翔 代数方程式の解の精度保証法
 野田 ふみ QR分解を用いた連立一次方程式の数値解に対する精度保証付き数値計算法
 米本茉莉恵 半無限区間の振動積分に対する精度保証付き数値計算法
 上條 寛司 ある特異性を持った常微分方程式系の解の精度保証付き数値計算法の構築
 野澤 優介 GPGPUによる行列積の包含
 模 友佳里 変形Bessel関数の精度保証つき数値計算法
- 柏木 雅英 研究室 <http://www.kashi.info.waseda.ac.jp/>
 小松 勇斗 affine arithmeticにおけるダミー変数削減について
 山口 俊樹 区間演算における数学関数の数値計算
 山口 弘晃 線形計画法を用いた精度保証付き区間演算

＜表現工学専攻＞

- 及川 靖広 研究室 <http://www.acoust.ias.sci.waseda.ac.jp>
 石川 憲治 可聴音場における音響光学
 久世 大 1bit量子化信号を用いた多チャンネル再生システム
 今井 亮太 演算クロックの高速化による1bit信号の処理
 田村 有希 点音源と球面調和関数展開による音源放射特性の推定
 保田 速人 分散配置したスマートフォンを用いた複数音源の記録と再生

卒業おめでとうございます <学部>

<電気・情報生命工学科>

石山 敦士 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/ishiyama/				
石川 歩実	岩田 祐樹	小曾根裕一	香村 祐美	瀧川 美加	
竹田 夏子	矢代 聡佳	横尾 祐輔			
井上 宏子 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/h_inoue/				
相澤 萌	岸 裕子	藤川 大希	藤倉 晋		
井上 真郷 研究室	http://www.inoue.eb.waseda.ac.jp/				
塩月 駿介	関根 竜太	大石 晴子	小俣幸之助	清水 麻由	
菅 智徳	武川 莉奈	松尾 篤樹	吉村 祐紀		
岩崎 秀雄 研究室	http://www.f.waseda.jp/hideo-iwasaki/				
荻野 航大	明石 梨沙	戸井田一磨	中嶋 嵐	平林 賢人	
岩本 伸一 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/iwamoto/				
小林 良	相原 祐太	小柳 唯	佐藤 吾子	杉山 瑛美	
田邊 龍	永川 恭州				
内田 健康 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/uchida/				
清水 翔太	洪 元	汐見 優子	杉田 一真	辻 仁望	
藤本 佑真	堀尾 怜椰	水野 佑磨			
大木 義路 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/ohki/				
畔柳 知里	落合 祐輔	香西 拓哉	小谷 浩理	白水 秀幸	
鈴木 まみ	築嶋 稜祐				
岡野 俊行 研究室	http://www.okano.sci.waseda.ac.jp				
廣田 大輔	安部 広大	伊藤 正晴	織井 彩乃	更谷 有哉	
坪田 喜治	平栗 祐介	三浦 宏太			
胡桃坂 仁志 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/kurumizaka/				
王 楽恒	石丸 雅一	太田 充	鈴木 翠	水上 優夏	
矢島 成人					
小林 正和 研究室	http://www.eb.waseda.ac.jp/kobayashi/				
島村 雅郎	海老原朋斉	小高 圭佑	桜川 陽平	瀧 駿也	
玉川 陽菜	西村 論則	山本 洋輔			
柴田 重信 研究室	http://www.waseda.jp/sem-shibatasa/				
岩見 志保	小島 修一	酒井 智子	西村裕太郎	福澤 雅	
本橋 弘章	安田晋之介				
宗田 孝之 研究室					
大嶋 洋平	江尻 悠真	鎌形 將太	小磯 里美	露木 雅弓	
野口 遼介	丸山 裕恒	横岡 嵐			

- 高松 敦子 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/takamatsu/Welcome.html>
 岡村 真海 佐藤 滉大 佐藤千香子 染谷 洋輔 平 裕介
 芳賀未和子 本田 雅之
- 武田 京三郎 研究室 <http://www.qms.cache.waseda.ac.jp>
 佐野 耕平 大井 亮 根岸 颯人 松本 直也
- 浜田 道昭 研究室 <https://sites.google.com/site/hamabioinflab/>
 岡田 航 有蘭 優太 武田 芽衣 武田 悠希 千島 崇史
 三品 気吹
- 林 泰弘 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/hayashi/>
 金子 曜久 黒羽 亮一 小林 将矢 成瀬 裕矢 宮澤 歩夢
 村上 晃平
- 牧本 俊樹 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/makimoto/>
 椿 康平 尾高 拓弥 黒澤 拓也 佐藤 公亮 鶴谷 直樹
 西野 沙瑛 萩原 碩 山出 陽介
- 村田 昇 研究室 <http://www.murata.eb.waseda.ac.jp>
 高井伸太郎 井上 雄介 井村 惇平 岩崎 泰士 岩淵 陸
 關 翼人 松原 拓央
- 若尾 真治 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/wakao/>
 太田 駿 石井 重督 内山 卓也 小倉 湧 梶ヶ谷尚之
 神谷 剛志 角谷 昌恭 若山 裕綺
- 渡邊 亮 研究室 <http://www.watanabe.eb.waseda.ac.jp/>
 熊澤 遼 篠田 圭介 高原 章央 刀根 諒 曲山 竜一
 山迫 光起 山本 貴輝

< 情報理工学科 >

- 石川 博 研究室 <http://hi.cs.waseda.ac.jp/index.php/ja/>
 福田 健吾 北川竜太郎 佐々木一真 高岡 俊哉 長濱 祐也
 渡辺 渚
- 入江 克 研究室 http://www.f.waseda.jp/fbx3/index_ja.htm
 田島 太一 宮村 捷也 山口 修平
- 上田 和紀 研究室 <http://www.ueda.info.waseda.ac.jp/index-j.html>
 小山 峻平 坂爪 裕也 恒川雄太郎 別納 健市 松澤 望
- 筧 捷彦 研究室 <http://www.kake.info.waseda.ac.jp/>
 生方 史郎 小和田 諒
- 笠原 博徳 研究室 <http://www.kasahara.cs.waseda.ac.jp>
 安藤 和将 池 謙一郎 狩野 哲史 田中 浩貴 藤野 里奈
 湯浅 怜

- 甲藤 二郎 研究室 <http://www.katto.comm.waseda.ac.jp>
 浦邊麻依子 青山 矩大 周ウエン陵 今金健太郎 遠藤佑羽子
 雜賀新太郎 坂牛 和里 高橋 沙季 野辺 誠
 亀山 渉 研究室 <http://www.km.comm.waseda.ac.jp/>
 河内 瞭彦 永井 良佳 西田 千絵 橋本 稜平 傳 櫻
 吉田 真嵩
 木村 啓二 研究室 <http://www.apal.cs.waseda.ac.jp>
 玉川翔太郎 高橋 諒 白川 智也 園田 拓也 花田 裕貴
 林 綾音 宮田 仁
 後藤 滋樹 研究室 <http://www.goto.info.waseda.ac.jp/index-j.html>
 阿部 航太 伊藤 淳史 岡根 彩 喜入 亮 野口 大貴
 榘富 祐樹
 小林 哲則 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>
 木村 直登 一宮 健介 赤川 優斗 浅野 秀平 金田健太郎
 川崎 真未 菊池康太郎
 酒井 哲也 研究室 <http://sakailab.com/>
 河東 宗祐 秋山 司 井関 大和 佐野 公章 玉置 賢太
 樋口 慎 水田奈緒子
 佐藤 拓朗 研究室 <http://www.sato.comm.waseda.ac.jp/>
 王 妍 水野 達貴 小菅 英祐 田邊 亮太 トウ 凱驕
 成川 晴彦 波賀満里奈
 嶋本 薫 研究室 <http://www.sl.comm.waseda.ac.jp/?lang=ja>
 衛藤 玲奈 秦 雅生 大河内志彦 金澤清二郎 坂本 祐基
 中田 直樹
 菅原 俊治 研究室 <http://www.isl.cs.waseda.ac.jp/lab/>
 大塚 知亮 鈴木 啓史 吉村 祐 飯嶋 直輝 井手 理菜
 湯徳 尊久
 高畑 文雄 研究室 <http://www.takahata.comm.waseda.ac.jp/>
 伊藤 雅秋 海鋒 智希 久米沙也加 佐藤 蓮 馬場健太郎
 福田 太
 田中 良明 研究室 <http://www.tanaka.giti.waseda.ac.jp>
 西脇 悠祐 能勢 俊樹 林 珊テイ 井上 美穂 亀田 峻太
 施 承佑 谷口 文隆 古殿 洋平
 戸川 望 研究室 <http://www.togawa.cs.waseda.ac.jp/>
 於久 太祐 鮑 思雅 岩名地良太 柿沼 宏幸 河野 圭亮
 長谷川健人 真鍋 知樹 矢野 椋也
 中里 秀則 研究室
 阿部倉 圭 伊勢 文貴 小畑知奈美 海堀 弘太 木村 梨沙
 渡邊 大貴 ゴインビン 福井 準也 横山 尊人

中島 達夫 研究室

石川 瑛理 新美 雄太 于 佳寧 赤崎 日菜 入江 啓介
 具島 航太 鈴木 笙子 高橋萌奈美 山田 雄希

朴 容震 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-parklab/>

福家 健斗 前田 泰彰

深澤 良彰 研究室 <http://www.fuka.info.waseda.ac.jp/>

杉藤 菖子 兼原 佑汰 小池 遼平 惣津 美穂 中村 史門
 西田 和馬 福本 創太

前原 文明 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-maehara/>

塩沼 健司 宇田川海斗 栗原 直己 齋藤 周平 菅沼 碩文
 蛭間 信博

松山 泰男 研究室 <http://www.wiz.cs.waseda.ac.jp/>

小林 怜司 親泊 久美 金澤 優 西野 拓充 松崎 史晃
 松下 峻 松田 直也

森 達哉 研究室 <http://nsl.cs.waseda.ac.jp/>

太田 裕也 伊佐 美咲 志賀 遼太 十亀志桜里 張 曙光
 飯田 雄太 星野 遼 水野 翔

山名 早人 研究室 <http://www.yama.info.waseda.ac.jp/>

陳 葛 小林 弘樹 何 奕萱 馬屋原 昂 高橋 卓巳
 滝川 真弘 田中 博己 中西 勇 森山優姫菜

鷺崎 弘宜 研究室 <http://www.washi.cs.waseda.ac.jp/>

夏 天 ケントラノステーション 内田ちひろ 志村千万輝 首藤 優志
 角田 武人 山本 美聡 横井 泰佑

渡辺 裕 研究室 <http://www.ams.giti.waseda.ac.jp/>

野口 多紀 藤岡 恭平 加藤 君丸 高木 政徳 長尾 一輝
 渡部 宏樹

＜電子物理システム学科＞

宇高 勝之 研究室 <http://faculty.web.waseda.ac.jp/utaka/>

石川 敦 江間 絢生 丹所 祐貴 デン ボ 松井 信衛
 末廣 大輔 森内 達也

川西 哲也 研究室

赤間 裕次 中川 雅有

川原田 洋 研究室 <http://www.kawarada-lab.com/index.html>

五十嵐圭為 加藤かなみ 工藤 拓也 野口 恒展 日出幸昌邦
 水野 翔 牟田 翼 山野 颯

木村 晋二 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-vlsi/>

堀 翔真 森田 朋暁 又吉 康雅

- 小山 泰正 研究室 <http://www.koyamalab.sci.waseda.ac.jp/>
 岩崎 類 遠藤 智貴 大川 裕也 熊田 隆信 嶋崎 里奈
 樋口 響 吉田 春香 林 和欣
 庄子 習一 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-shoji/index.html>
 有吉 理紗 川久保 渉 高 振涛 徐 秉陽 須崎 遥
 登 惇輝 箕城 森幸 香川 駿
 谷井 孝至 研究室 <http://www.tanii.nano.waseda.ac.jp/>
 浅田 舜介 アブデルガファ 愛満 ターレック 岡田 拓真 加賀美理沙
 加藤 佑拓 野田 和希 服部 晃平 若林 洸
 柳澤 政生 研究室 <http://www.yanagi.cs.waseda.ac.jp/>
 大滝 昌弥 川合 洋平 佐藤 淳紀 中垣 直道 早水 謙
 芳井 柁貴 西本 桃子
 山中 由也 研究室 <http://www.yamanakalab.sci.waseda.ac.jp/>
 足立 亮太 池田 祐樹 桂樹 玲 ケイ 亮太 田中 淳也
 馬島 嶺太 宮本 光亮 風間 勇輝
 山本 知之 研究室 <http://www.cms.sci.waseda.ac.jp/index-i.htm>
 相田 浩嗣 伊勢 岳起 中村 徹宏 張江 貴大 福井 啓太
 山木麻友美 山口 記功 中川 祐樹 勝田 啓一
 吉増 敏彦 研究室
 佐藤 宏哉 山口 諒
 渡邊 孝信 研究室 <http://www.watanabe.nano.waseda.ac.jp/>
 安部 拓也 遠藤 清 大場 俊輔 小笠原成崇 中根 滉稀
 古林せなみ 依田 大輝 中川 宣拓 若水 昂

<応用数理学科>

- 大石 進一 研究室 <http://www.oishi.info.waseda.ac.jp/>
 木村 翔矢 冷 暁
 柏木 雅英 研究室 <http://www.kashi.info.waseda.ac.jp/>
 浅見 和哉 齊藤優里香 佐々木文碩 高橋 侑希 張 之羽
 橋本 崇希

<表現工学科>

- 及川 靖広 研究室 <http://www.acoust.ias.sci.waseda.ac.jp>
 井上 敦登 齊藤 良二 立川 智哉 二宮昂士郎

2015年度博士号取得者

() 内は指導教員

《2015年度 電気・情報生命専攻》

- | | |
|------------------|--|
| サティアバマ | MEE法を用いたI-III-VI族カルコパイライト化合物半導体の成長と |
| ティティルガナ (牧本 俊樹) | 特性評価に関する研究 |
| 石原 潤一 (岩崎 秀雄) | 多細胞性シアノバクテリアにみられる自己組織的なパターン形成の解析 |
| ゲンザーミンタオ (内田 健康) | 太陽光発電システムのためのファジー論理に基づくハイブリッド制御設計に関する研究 |
| 宮本 裕介 (林 泰弘) | 太陽光発電設置住宅群の出力抑制回避手法に関する研究 |
| 芳澤 信哉 (林 泰弘) | 太陽光発電連系配電系統における健全時と事故復旧時の電圧管理手法の研究 |
| 三井 広大 (岡野 俊行) | ニワトリクリプトクロム4の光反応サイクルの解析 |
| 岡島 佑介 (内田 健康) | 不確かな情報環境におけるエネルギー需要ネットワークのメカニズムデザインを用いた設計法に関する研究 |
| 小林 航 (胡桃坂仁志) | 相同組換え酵素RAD51の減数分裂期特異的な機能に関する生化学的研究 |
| 高橋 大介 (胡桃坂仁志) | FAN1ヌクレアーゼによるDNA鎖間架橋塩基の切り出し機構に関する研究 |
| 藤原 悠紀 (柴田 重信) | リソソームによる新規核酸分解機構における核酸認識メカニズムおよびその生理的役割に関する研究 |
| 清水 駿 (渡邊 亮) | ドライバ操作とアシストシステム間の相互作用を考慮したステアリング操作モデルの構築とアシストシステムの設計 |
| 江草 早紀 (宗田 孝之) | マウス大脳皮質における細胞接着因子カドヘリンの発現制御機構と機能領野特異的組織構築への寄与に関する研究 |

《2015年度 情報理工専攻、情報理工・情報通信専攻*》

- | | |
|---------------|--|
| 村上 友規 (前原 文明) | 無線LANシステムにおける高効率マルチユーザMIMOに関する研究 |
| 福元 徳広 (後藤 滋樹) | QoS/QoE保証のための効率的なネットワーク品質管理手法 |
| 浅井 洋樹 (山名 早人) | デジタル手書き環境におけるユーザインタフェースとデータ解析手法に関する研究 |
| 吉井 章人 (中島 達夫) | 仮想エージェントを利用した長期にわたる説得のためのデザイン方針 |
| 北村 嘉郎 (石川 博) | 高階エネルギー最適化手法に基づく医用画像セグメンテーション技術の開発 |
| 川村 一志 (戸川 望) | レジスタ分散型集積回路アーキテクチャを対象とした信頼性指向の高位合成に関する研究 |
| 梅田 弾 (笠原 博徳) | マルチコアプロセッサ上でのモデルベース開発ソフトウェアの自動並列化に関する研究 |

- KALKATTAWI, Mohammed (中島 達夫) ユビキタス在宅医療：ユビキタス技術を用いた糖尿病治療法の改善
 Mosa, Ahmed Ebrahim Mohamed (寛 捷彦) eラーニングでのアラビア語習得に対する反転欧字発音表記の効用
 植村あい子 (甲藤 二郎) 音響特徴量の分析と和音認識応用に関する研究
 藤代 美佳* (戸川 望) クロマベクトルを用いた音楽特徴解析とその応用に関する研究

《2015年度 電子光システム学専攻》

- 高橋 淳一 (山中 由也) 非一様Bose-Einstein凝縮系の場の量子論とゼロモードの量子揺らぎ
 塚崎 裕文 (小山 泰正) 混晶系強誘電体における巨大応答とヘテロ構造ゆらぎに関する研究
 山下 大輔 (山本 知之) 改良型大気中光電子収量分光装置を用いた表面分析に関する研究

《2015年度 ナノ理工学専攻》

- 大橋 俊之 (川原田 洋) 垂直配向型カーボンナノチューブの選択・制御合成に関する研究
 AKHTAR, Naeem (川原田 洋) Nanoelectrochemical Sensors for Selective Molecular Recognition
 仁村 将次 (庄子 晋一) 積層型機能性デバイスに向けたハイブリッド接合技術に関する研究

<受賞・褒章>

お知らせのあったものを掲載しています。(受賞時の学年を表記)

順不同

電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士2年 栗田 悠	電気学会 電力技術・電力系統技術合同研究会 優秀論文発表賞
電気・情報生命専攻 林研究室 修士2年 大久保直樹 修士1年 加藤瑠奈 学部4年 松本眞子	電気学会 電力・エネルギー部門大会B YPC 優秀賞
情報理工・情報通信専攻 深澤研究室 修士2年 山崎頌平	Australian Computing Education Conference Best Student Paper
情報理工・情報通信専攻 深澤研究室 修士2年 大原圭木	International Conference on Information Computer Application Excellent Paper
情報理工・情報通信専攻 甲藤研究室 修士2年 高田涼生	IEEE Consumer Electronics Society East Joint Japan Chapter IEEE CE ICCE Young Scientist Paper Award
電気・情報生命専攻 若尾研究室 修士1年 山壽朋秀	電気学会電力技術委員会 電力技術委員会奨励賞
国際情報通信研究科 教授 田中良明 修士2年 白井達也 田中研究室	CANDAR/ASON 2014 組織委員会 CANDAR/ASONワークショップ 最優秀論文賞
国際情報通信研究科 渡辺研究室 助手 石井大祐	電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ HCG2014 HCG オーガナイズドセッション 優秀賞
情報理工・情報通信専攻 山名研究室 修士2年 高杉亮介、鬼沢和也、大野亮仁 学部4年 ゾル	電子情報通信学会 第7回データ工学と情報マネジメントに関する フォーラム 学生プレゼンテーション賞
情報理工・情報通信専攻 田中研究室 博士1年 山崎 託	電子情報通信学会 学術奨励賞
電気・情報生命専攻 岡野研究室 修士1年 阿部大輝	動物学会関東支部会 ポスター発表最優秀賞

電気・情報生命専攻 小林研究室 修士1年 梅嶋悠人、服部翔太	電気学会 英語プレゼンコンテスト奨励賞
電気・情報生命工学科 小林研究室 学部4年 橋本勇輝、森 皓平	電気学会 東京支部 電気学術奨励賞
電気・情報生命工学科 岩本研究室 学部4年 市原美樹	電気学会 電気学術女性活動奨励賞
情報理工・情報通信専攻 鷺崎研究室 博士2年 本田 澄	The Computing Research and Education Association of Australasia, CORE BEST STUDENT PAPER
情報理工・情報通信専攻 鷺崎研究室 修士2年 高澤 亮平	情報処理学会 第77回情報処理学会 全国大会 学生奨励賞
電気・情報生命専攻 大木研究室 博士2年 小松麻理奈	2014 IEEE DEIS Japan Chapter Student Best Paper Presentation Award (in International Conferences)
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士2年 増崎裕季	2014 IEEE DEIS Japan Chapter Best Paper Presentation Award (in Domestic Conferences)
情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授 松山泰男	情報処理学会 2014年度優秀教材賞
情報理工・情報通信専攻 菅原研究室 修士2年 杉山歩未	ACM SAC 2015 (30th ACM Symposium on Applied Computing) Best Paper Award
情報理工・情報通信専攻 修士2年 笹生 憲 森研究室 修士2年 高橋一基 後藤研究室 情報通信学科 森研究室 学部4年 志賀遼太、飯田雄太	サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会 第10回情報危機管理コンテスト 経済産業大臣賞
情報理工・情報通信専攻 森研究室 修士2年 笹生 憲	サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会 第10回情報危機管理コンテスト 個人MVP
情報理工・情報通信専攻 前原研究室 修士2年 三原寛高	IEEE VTS Japan 2015 Young Researcher's Encouragement Award
情報理工学科 甲藤研究室 学部4年 村岡眞伍	情報処理学会 第77回全国大会 全国大会学生奨励賞
電子物理システム学専攻 谷井研究室 博士1年 河野 翔	応用物理学会 有機分子・バイオエレクトロニクス分科会 Outstanding Student Poster Award
情報通信学科/情報理工・情報通信専攻 准教授 森 達哉 情報理工・情報通信専攻 森研究室 修士2年 渡邊卓弥 修士1年 石井悠太	電子情報通信学会 情報通信システムセキュリティ研究会 2014年度研究賞
情報理工・情報通信専攻 菅原研究室 修士2年 Sea, Vourchteang	IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics Best Student Paper Award
情報理工・情報通信専攻 森研究室 修士1年 芳賀夢久	電子情報通信学会 インターネットアーキテクチャ研究会 学生研究奨励賞
電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 教授 大木義路	マテリアルライフ学会 平成27年度論文賞

電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士1年 山ノ内翔	電気学会 電力・エネルギー部門 YPC優秀発表賞2015
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士1年 石川綾乃、市原美樹、柿阪博登、 五味知幸、貞川智美	電気学会 電力・エネルギー部門 YPC奨励賞2015
電子物理システム学科/電子物理システム学専攻 教授 庄子習一	一般社団法人電気学会 電気学会業績賞2015年度
電気・情報生命専攻 林研究室 修士1年 松本直也、池田欧世	電気学会 電力・エネルギー部門 YPC奨励賞
電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 助教 越阪部晃永 胡桃坂研究室	International Symposium on Chromatin Structure, Dynamics, and Function ベストポスター賞
情報通信学科/情報理工・情報通信専攻 准教授 森 達哉 修士2年 渡邊卓弥 森研究室	情報処理学会 コンピューターセキュリティシンポジウム プライベートワークショップ PWS2015 優秀論文賞
情報理工・情報通信専攻 森研究室 修士2年 渡邊卓弥 修士1年 石井悠太	情報処理学会 コンピューターセキュリティシンポジウム マルウェア対策研 究人材育成ワークショップ MWS2015 学生論文賞
電子物理システム学専攻 渡邊研究室 修士1年 功刀遼太	2015 International Workshop on DIELECTRIC THIN FILMS FOR FUTURE ELECTRON DEVICES - SCIENCE AND TECHNOLOGY Young Paper Award (Poster Presentation)
情報理工・情報通信専攻 松山研究室 博士2年 堀江輝樹 修士2年 鹿野晶凜、岩瀬弘道	アジア太平洋神経回路学会 (第22回神経情報処理国際会議) 最優秀学生論文賞
情報理工・情報通信専攻 木村研究室 修士2年 飯塚修平	情報処理学会 コンピュータサイエンス領域奨励賞
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士2年 森 優太	電気学会全国大会 優秀論文発表賞
電気・情報生命専攻 林研究室 修士1年 高橋由佳、高野彰久	電気学会 電力・エネルギー部門 YPC優秀発表賞
電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 教授 柴田重信	第20回安藤百福賞 (公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団) 優秀賞
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士2年 大谷崇人	IEEE Power & Energy Society Japan Chapter 学生優秀論文賞
電気・情報生命専攻 柴田研究室 修士2年 佐々木裕之	日本時間生物学会 第22回日本時間生物学会学術大会 優秀ポスター賞
情報通信学科 前原研究室 学部4年 宇田川海斗	The 12th IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchers Sponsor Award (Japan Radio Co. Award)
電気・情報生命専攻 胡桃坂研究室 博士3年 小林 航 修士2年 足立風水也	第38回分子生物学会 第88回生化学会 合同大会 (BMB2015) 若手優秀発表賞
情報理工・情報通信専攻 戸川研究室 修士2年 藤原晃一	電子情報通信学会 デザインガイア・ポスター賞
電気・情報生命専攻 宗田研究室 修士2年 北條佑樹	日本法科学技術学会 日本法科学技術学会奨励賞

電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士2年 大谷崇人	電力系統技術委員会 奨励賞
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士2年 小林淳之介	電力系統技術委員会 奨励賞
表現工学科 及川研究室 学部3年 寺島 怜志	ヤマハエレクトーンコンクール (YEC2015) 第2位
表現工学科 及川研究室 学部4年 立川智哉	日本音響学会 学生優秀発表賞
表現工学専攻 及川研究室 修士1年 山中悠勢	日本音響学会 学生優秀発表賞
表現工学専攻 及川研究室 博士3年 Nachanant Chitanont	日本音響学会 学生優秀発表賞
表現工学専攻 及川研究室 博士2年 矢田部浩平	日本音響学会 第38回粟屋潔学術奨励賞
電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 教授 大木義路	平成27年度文部科学大臣表彰・科学技術賞受賞
電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 教授 大木義路 教授 林 泰弘	早稲田大学リサーチアワード (2015年度)
電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 教授 岩本伸一	早稲田大学ティーチングアワード (2015年度)
電気・情報生命専攻 大木研究室 博士3年 小松麻理奈	2015 IEEE 11th International Conference on the Properties and Applications of Dielectric Materials (ICPADM 2015) Student Travel Stipend Award
電気・情報生命専攻 大木研究室 助手 森本貴明	応用物理学会 講演奨励賞
電気・情報生命専攻 石山研究室 修士2年 今市洋平、池田愛花 修士1年 勝俣一輝	低温工学・超伝導学会 優良発表賞
電子物理システム学専攻 渡邊研究室 修士1年 麻田修平	応用物理学会 薄膜・表面物理分科会・シリコンテ クノロジー分科会共催特別研究会 「電子デバイス界面テクノロジー研究会—材料・プ ロセス・デバイス特性の物理—」 (第21回) 研究会 安田賞 (若手奨励賞 プロセス技術 部門)
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士2年 大谷崇人、小林淳之介	電気学会 電力系統技術委員会 電力系統技術委員会 奨励賞
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士1年 山ノ内翔	電気学会 電力・エネルギー部門大会 電気学会優秀論文発表A賞
情報理工・情報通信専攻 後藤研究室 修士1年 佐藤拓未、篠宮一真	Best Student Paper Award. Network Research Workshop 2015. 40th Asia Pacific Advanced Network Meeting in Kuala Lumpur, Malaysia.

2015年度就職状況

今年度の就職活動を振り返って

電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 牧本 俊樹



電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻におきましては、例年と同様に、就職担当教員3名が2015年度の実就職活動を支援しました。本学科／専攻では、毎年、就職担当教員3名中の1名の教員だけが入れ替わる方式を採用していましたが、本年度は諸般の理由により2名の教員が入れ替わりました。

まず、本年度の実就職活動に関する特徴は、経団連の指針により、就職活動の時期が変更になったことです。会社説明会の開始時期が前年の12月から3月へ3カ月遅くなり、採用選考の開始が4月から8月へと4カ月遅くなりました。この結果、就職に関する活動期間が長くなり、学生にとって負担になった模様です。さらに、修士の学生にとっては、夏から秋にかけて開催される国際学会で発表することに対しても負担が増えた印象を受けました。

次に、2016年4月に就職および大学院へ進学する学部生の状況について紹介致します。2015年度の卒業を目指して卒業研究に取り組んだ学生は154名でした。このうち、学部生として就職する学生は30名、大学院修士課程に進学して引き続き研究を行う学生が101名でした。



図1 学部卒業生の就職先

大学院進学者の大部分は、卒業研究で所属した研究室へ進学します。図1は、30名の学部卒業生に対する就職先の内訳を示しています。就職先はメーカーからメディアまで幅広く分布しているのがわかります。これは、本学科における研究分野が、多岐にわたっていることにも関連していると考えられます。本年度から就職活動の時期が変更になりましたが、学生の進路に関する傾向は、ここ数年の傾向と同様でした。

続きまして、大学院修士課程を卒業した学生の進路について紹介致します。今年度に修士課程を卒業して就職する学生数は105名であり、昨年と同様な人数となりました。図2に今年度に修士課程を卒業する全学生（115名）の進路を示します。学部卒業生の就職先と同様に、幅広い業種の企業に就職している傾向がわかります。ただし、学部卒業生に比べて、電気機器・情報機器、電力・エネルギーの割合が高くなっており、これも昨年度と同様な傾向を示しています。

さて、EWEに所属される多くの方々のお陰を持ちまして、本学科／本専攻には、毎年数多くの企業から学校推薦のご依頼を頂いております。本年度も250社を超える企業から、延べ500名以上の推薦枠を頂きました。また、EWEの活性化委員の方々には、EWEの先輩と学生の交流会を毎年のように開催して頂いており、学生の就職活動にとって貴重な機会を提供して頂いております。これらの活動に対しまして、この場をお借りしまして、御礼を申し上げます。

このような皆様のご支援のお陰を持ちまして、本年度も多くの学生が本学科／専攻から社会へ巣立つことができました。彼らには、今後の社会での活躍だけでなく、EWEの会員として後輩への支援も期待しております。最後になりますが、本学科／専攻では、引き続き若い人財を社会に送り出す所存でございますので、今後とも皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

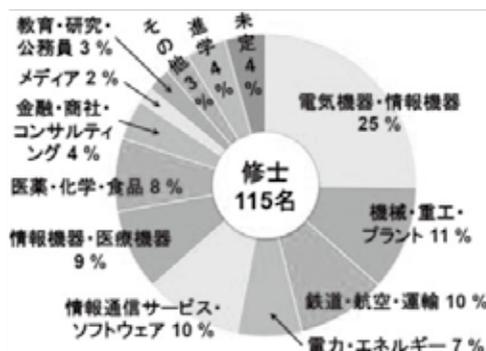


図2 修士課程を卒業した学生の進路

2015年度における情報理工・情報通信専攻と情報理工学科に 所属する学生の就職活動状況に関する報告

情報理工学科／情報理工・情報通信専攻 就職指導担当 教授
中島 達夫、石川 博、田中 良明



情報理工学科／情報理工・情報通信専攻では3名の就職担当教員が対応する企業を分担して、学生と企業の橋渡しをおこないました。毎年、所属学生のみがアクセス可能な就職Webサイトを立ち上げています。学科就職Webサイトでは、就職関連の各種手続き、最新情報などに加えて、就職担当教員が面談した企業に関する詳細な情報、求人票などを掲載しております。また、学科／専攻にコンタクトがあった企業に対しては、学生が必要とする情報に関してアンケートをおこない、その情報も学科就職Webサイトに掲示をおこないました。また、2015年の1月に就職説明会をおこない、就職活動を進めていく上での注意点の説明と学科就職Webサイトの登録と利用法に関して説明しました。学生は、学科就職Webサイトに各自が希望する企業を登録し、就職活動の状況に応じて適時登録情報を変更するようにしています。就職担当教員は、その情報を元に、学生と企業との橋渡しをおこないました。また、今年度は、8月の採用選考の開始時期に合わせて2度目の進路希望調査をおこない、学校推薦の発行が大学の夏季休業期間により遅れないように、迅速に対応するようにしました。

2016年1月末時点で就職担当教員が把握している学科／専攻に所属する進路情報は以下になります。

修士課程修了見込みの学生103名中、44名の学生が学校推薦により就職先が決まりました。現状では3名以上の学生の就職先となる予定の企業はKDDI、NEC、NTTコミュニケーションズ、三菱電機、日立製作所、野村総合研究所で

す。また、2名の学生の就職先となる予定の企業は、NTTドコモ、NTT研究所、キヤノン、デンソー、パナソニック、モルガン・スタンレーグループ、新日鉄住金ソリューションズ、東芝、日本IBM、富士通となります。今年も例年と同じく、数名の学生が博士課程への進学を希望しています。

また、学部卒業見込みの学生177名のうち、94名の学生が本専攻への進学予定です。就職予定の学生のうち学校推薦により就職予定の学生が17名となります。また、3名以上の学生の就職先となる予定の企業は、NTTデータ、NTT東日本であり、2名の学生の就職先となる予定の企業は、NEC、KDDI、日本IBM、野村総合研究所となります。修士課程の学生の就職先となる企業より、より幅広い分野の企業での採用が決まっています。これは、より多様な企業が情報技術を学んだ学生を必要としていることを反映していると思います。また、修士課程と学部の両方でWeb系企業への採用が決まった学生数も増大しています。

本年度は、採用選考開始が8月からとなり、昨年度の採用スケジュールと大幅に変更になりました。そのため、就職担当教員は企業の担当者とも密接にコミュニケーションをとることで柔軟に対応をおこなってきました。実際には、企業ごとに採用開始時期が大きく異なり、学生の就職活動期間は昨年度までよりも長期にわたることになってしまったと思います。特に、8月は大学の夏季休業期間もあるため、大学からの推薦状の発行にも気を遣う必要がありました。また、採用選考の時期が遅くなったため、採用の内定の決定も例年より遅くなりました。そのため、自由応募により採用選考をおこなう企業との採用の内定が決定する時期が大きく異なり、学生の学業の面からも必ずしも望ましいものではなかったと感じています。今後は、学科として、学生の学業と採用選考をどのように両立させるようにサポートしていくかを検討していく必要があると感じています。

EWEに所属される多くの方々のお陰を持ちまして、本学科／本専攻には、毎年数多くの企業から学校推薦のご依頼を頂いています。また、EWEの先輩と学生の交流会を毎年のように開催して頂いており、学生の就職活動にとって貴重な機会を提供して頂いています。これらの活動に対しまして、この場をお借りしまして、御礼を申し上げます。

2015年度電子物理システム学科・専攻、 ナノ理工学専攻(電子物理システム系)の就職活動を振り返って

電子物理システム学科／電子物理システム学専攻 教授 柳澤 政生



2007年4月に理工が再編され、電子光システム学科が誕生しました。今年度は2010年に入学した第4期生が修士2年となり、約15名の学部生とともに就職活動を行いました。当学科・専攻として4回目の本格的な就職活動になります。当学科・専攻も多くの企業の方々に知っていただいたようで、多くの求人票が送られて来るようになりました。求人票はExcel fileで概ね1社1行で管理されているのですが、2012年には237行、2013年には263行、2014年には283行、そして、2015年には312行と年々、行数が多くなり、学科新設当初の目標でありました300社を実現できました。4年間で就職活動を行った学生は約280名なのですが、約150社に入社することになりました。これは、ほとんどの企業に1名の学生が入社していることを表しています。今まで求人票が送られて来なかった会社からも、卒業生が入社すると求人票が送られて来るようになり、求人数は年々、増え、良い循環が生じていると思います。具体的な会社名、入社者数を次ページに示します。

今年度の就職活動は、スケジュールの後ろ倒しにともない、混乱していました。就職担当としては情報の共有に最も力を入れました。情報の共有は主に、当学科・専攻用の就職情報web(愛称、梅ちゃんシステム。梅崎君が後藤敏研究室の学生だったときにボランティアで開発してくれたシステムで、今回、クラウド化させました)を立ち上げ、就職情報を掲示したり、学生の希望調査、集計にも活用しました。

結果的には、混乱し、かつ、長期化した就職活動に負けずに、学生は頑張り、当学科・専攻の就職活動は非常に良好に実施されたと考えています。6月には8割がたの学生が就職活動を一段落させていました。学生の就職活動をご支援、ご協力いただいた連絡事務室の山崎さんに感謝します。

就職する学生諸君は4月から各職場で、大学生活で苦勞して習得した知識、経験、能力を十分に発揮して、活躍されることを期待しています。就職活動を通じて、卒業生のありがたさがわかったことと思います。卒業・修了後はEWEの正会員として、EWEの活動に協力し、後輩を導くことは必須なことと認識してほしいと思います。

企業の皆様には、学生へのご対応、ならびに、私との濃密な情報交換や相談にご対応いただき感謝申し上げますとともに、引き続き、来年度もお付き合いの程、よろしくお願ひ申し上げます。

就職活動において、本学のOB／OGのサポートは非常に有効に機能していると実感

しています。最後になりましたが、EWEの「企業見学会」、「EWE先輩と学生交流会」などの種々の活動に深く感謝申し上げます。

就職先	人数	就職先	人数	就職先	人数
キヤノン	14	新日鉄住金	5	富士フィルム	4
富士通	13	ソフトバンク	5	ローム	4
ソニー	8	富士重工業	5	NEC	3
トヨタ自動車	8	三菱電機	5	オリンパス	3
KDDI	7	リコー	5	東芝	3
パナソニック	7	JFEスチール	4	凸版印刷	3
日立製作所	7	東北電力	4	日立システムズ	3
NTT研究所	5	豊田自動織機	4	フジクラ	3
NTTデータ	5	野村総合研究所	4	日産自動車	3

以下は2名ずつ入社した会社：

JR東海、NTT東日本、カシオ計算機、関西電力、国家公務員、島津製作所、清水建設、シャープ、ソニー LSIデザイン、ダイキン工業、大日本印刷、地方公務員、デロイトトーマツコンサルティング、デンソー、東京ガス、日本IBM、マツダ、三菱重工、村田製作所、ルネサスエレクトロニクス、ワークスアプリケーションズ

以下は1名ずつ入社した会社：

Acroquest Technology、ANA、CTC、DSB情報システム、IHI、IIJ、J-Payment、JX日鉱日石エネルギー、NHK、NTTコミュニケーションズ、NTTドコモ、SMBC日興証券、TDK、アイデンティティ、アクセンチュア、旭化成、朝日新聞社、アルファシステムズ、出光興産、イビデン、イリソ電子工業、エスユーエス、沖電気工業、キーエンス、キヤノン電子、ケンウッド、コナミ、コニカミノルタ、サムスン電子ジャパン、三和工機、サンディスク、システムサポート、シスメックス、スズキ、住友金属工業、住友電気工業、セイコーエプソン、双日、ソリトンシステムズ、大日本スクリーン製造、帝人、ティーネットジャパン、電源開発、トーマツ、東レエンジニアリング、東京エレクトロン、東京ガス、東京メトロ、東芝エレベータ、東芝プラントシステム、東芝三菱電機産業システム、東芝ライテック、日揮、ニトリ、日本オクラロ、日本ガイシ、日本経済新聞、日本精工、日本総合研究所、日本電産、日本発条、日本ヒューレット・パッカード、日本無線、ノリタケ、パイオニア、はてな、パナソニックシステムネットワークス、日立オートモティブシステムズ、日立国際電気、日立マクセル、ヒューマンクレスト、ファーストヴィレッジ、フォーラムエンジニアリング、ブーズ・アンド・カンパニー、富士通ゼネラル、ブリヂストン、ベネッセ、ボルテージ、本田技研工業、マブチモータ、みずほ証券、三井海洋開発、三井住友銀行、三谷商事、三菱商事、三菱電機インフォメーションネットワーク、三菱電機ビルテクノサービス、三菱東京UFJ銀行、ヤフー、ユニプレス、ヨコオ、横河電機、ライゾマティクス、リクルートHRマーケティング、りそな銀行、リッチメディア、ローデアンドシュワルツジャパン、ワタベウエディング

2015年度 就職先一覧

企業名	人数	企業名	人数
【ア 行】		小田急電鉄	1
アイデンティティー	1	オリンパス	4
iPX	1		
アクセンチュア	1	【カ 行】	
Acroquest Technology	1	花王	2
揚羽	1	神奈川県警察	1
旭化成	1	カプコン	1
朝日新聞社	1	環境省	1
アサヒビール	1	関西電力	1
アズビル	1	キーエンス	1
アビームコンサルティング	1	キヤノン	7
アマゾンジャパン	1	キヤノンマーケティングジャパン	1
EYアドバイザリー	1	九州朝日放送	1
池上通信機	1	協和発酵キリン	1
出光興産	1	京王電鉄	1
IMAGICA	1	けいせい塾	1
医薬品医療機器総合機構	1	KDDI	10
永和システムマネジメント	1	健康体力研究所	1
AIREV	2	国際石油開発帝石	1
エキサイト	1	コベルコシステム	1
SMBC日興証券	1	小松製作所	1
SCSK	1	コルグ	1
NECソリューションイノベータ	1	コロプラ	1
エヌジェーケー	1	コンチネンタル・オートモーティブ	1
NTTコミュニケーションズ	9		
NTTデータ	5	【サ 行】	
NTTドコモ	4	Cygames	1
NTTファシリティーズ	1	GEヘルスケア・ジャパン	1
エヌデーデー	1	CAモバイル	1
エム・シー・ファシリティーズ	1	GMOインターネット	1
大阪ガス	1	GMOペイメントゲートウェイ	1
沖電気工業	2	ジーニー	1

企業名	人数	企業名	人数
JXエネルギー	1	大日本印刷	2
JFEスチール	2	千葉県庁	1
JTB情報システム	1	中外製薬	1
ジェイデバイス	1	TIS	1
島津製作所	1	ディー・エヌ・エー	2
清水建設	2	DMM.COM LABO	1
集英社	1	TDK	1
首都高速道路	1	TBSテレビ	1
新日鐵住金	4	テクノプロ	1
新日鐵住金ソリューションズ	2	テレビ朝日	2
シンプレクス	1	テレビ大分	1
スカパー JSAT	1	デロイトトーマツグループ	1
住友商事	1	デロイトトーマツコンサルティング	1
住友電気工業	1	デンソー	5
スリープログループ	1	東海旅客鉄道	4
セイコーエプソン	1	東京エレクトロン	2
セールスフォース・ドットコム	1	東京ガス	3
セガ・インタラクティブ	2	東京地下鉄	1
積水化学工業	1	東京電力	1
セコムトラストシステムズ	1	東京特別区	1
セブテーニ	1	東芝	8
全日本空輸	1	東芝エレベータ	1
双日	2	東芝三菱電機産業システム	4
ソニー	2	東芝メディカルシステムズ	1
ソニー LSIデザイン	1	東芝ライテック	1
ソニーモバイルコミュニケーションズ	1	TOTO	1
ソフトバンク	2	東北電力	1
ソリトンシステムズ	1	東洋エンジニアリング	1
損害保険料算出機構	1	トーア再保険	1
		トヨタ自動車	7
【タ 行】		【ナ 行】	
大気社	1	名古屋テレビ放送	1
ダイキン工業	2	ニコンシステム	1
大成建設	1		

企業名	人数	企業名	人数
日揮	2	日立製作所	15
日産自動車	2	日立ハイテクノロジーズ	1
日本アイ・ピー・エム	8	日立マクセル	1
日本アイ・ピーエム・ソリューション・サービス	1	ビッグカメラ	1
日本オラクル	1	ビッグツリーテクノロジー&コンサルティング	1
日本ガイシ	1	ヒューマンクレスト	1
日本航空	1	ビヨンド・パースペクティブ・ソリューションズ	1
日本光電工業	2	ファナック	1
日本ストライカー	1	Funplus	1
日本精工	1	フォービス	1
日本総合研究所	1	フォーラムエンジニアリング	1
日本たばこ産業	1	富士重工業	2
日本テレビ	1	富士ゼロックス	2
日本電気	6	富士通	8
日本電信電話	3	富士通ラーニングメディア	1
日本ヒューレット・パッカード	1	富士フイルム	1
日本放送協会	3	芙蓉総合リース	1
日本マイクロソフト	2	ブリヂストン	1
日本ユニシス	1	ボッシュ	1
農林中央金庫	1	本田技研工業	1
野村證券	1		
野村総合研究所	10	【マ 行】	
ノリタケカンパニーリミテド	1	まちこえ	1
		マブチモーター	1
【ハ 行】		丸紅情報システムズ	1
パイオニア	1	ミクシィ	1
博報堂DYメディアパートナーズ	1	みずほ情報総研	2
パソナテック	1	みずほフィナンシャルグループ	1
パナソニック	4	三井住友海上火災保険	1
バンダイナムコ	1	三井住友信託銀行	1
東日本電信電話	4	ミツカン	1
東日本旅客鉄道	4	三越伊勢丹システム・ソリューションズ	1
日立産業制御ソリューションズ	1	三菱重工業	1
日立システムズ	1	三菱商事	1

企業名	人数	企業名	人数
三菱スペース・ソフトウェア	1	横河電機	2
三菱電機	11	読売テレビ	1
三菱電機インフォメーションネットワーク	1		
三菱東京UFJ銀行	1	【ラ 行】	
三菱日立パワーシステムズ	1	ライゾマティクス	1
三菱マテリアル	1	楽天	1
三菱UFJインフォメーションテクノロジー	1	ラック	1
村田製作所	1	ラボテックグループ	1
メディカルシステムズ	1	リクルートホールディングス	2
メビックス	1	リコー	1
森ビル	1	リコージャパン	1
モルガン・スタンレー	2	リンガーハット	1
文部科学省	1	ルネサスエレクトロニクス	1
		ルネサスシステムデザイン	1
【ヤ 行】		レジェンド・アプリケーションズ	1
ヤクルト本社	1	レパレジーズ	1
ヤフー	3		
ヤマハ	1	【ワ 行】	
ゆうちょ銀行	1	ワールドインテック	1
雪印メグミルク	1		

2015年度評議員委嘱状況

卒年／学部・学科		氏名	卒年／学部・学科		氏名
1947	専門部 工科電気通信科	黒澤 龍平	1959	第2理工学部 電気工学科電気工学専修	中村 仁士
1947	理工学部 電気通信学科	赤松 正也	1960	第1理工学部 電気通信学科	下村 尚久
1949	専門部 工科電気科	桑野 繁夫	1961	第1理工学部 電気工学科	倉田 哲也
1949	専門部 工科電気通信科	進藤 純男	1961	第1理工学部 電気通信学科	長谷川豊明
1951	理工学部 電気工学科	野原 和夫	1962	第1理工学部 電気工学科	小倉 功
1951	理工学部 電気通信学科	南 敏	1962	第1理工学部 電気通信学科	竹村 裕夫
1949	第1理工学部 電気工学科	大村長太郎	1963	第1理工学部 電気工学科	小松雄一郎
1951	第1理工学部 電気通信学科	小原 啓義	1963	第1理工学部 電気通信学科	田中 良一
1952	第1理工学部 電気工学科	依田 文吉	1964	第1理工学部 電気工学科	田中博一郎
1952	第1理工学部 電気通信学科	中山 元泰	1964	第1理工学部 電気工学科	内藤 紀明
1953	第1理工学部 電気通信学科	加藤 利雄	1964	第1理工学部 電気通信学科	瀧本 幸男
1954	第1理工学部 電気工学科	榊原 精一	1964	第2理工学部 電気工学科電気工学専修	福井 常忠
1954	第1理工学部 電気通信学科	田尻 利重	1965	第1理工学部 電気工学科	小泉金之助
1954	第2理工学部 電気工学科	入江 宣夫	1965	第1理工学部 電気通信学科	本間 勝
1955	第1理工学部 電気工学科	龍田 幹雄	1966	第1理工学部 電気工学科	小林 昭夫
1955	第1理工学部 電気通信学科	高村 真司	1966	第1理工学部 電気通信学科	杉原 鉄夫
1955	第2理工学部 電気工学科	宮崎 滋水	1967	第1理工学部 電気工学科	井上 哲郎
1956	第1理工学部 電気工学科	根木 誠	1967	第1理工学部 電気通信学科	大島 英男
1956	第1理工学部 電気通信学科	桑原 守二	1968	理工学部 電気工学科	横山 隆一
1956	第2理工学部 電気工学科	中野 光倫	1968	第1理工学部 電気通信学科	高垣 孝
1957	第1理工学部 電気工学科	後藤 昭方	1969	理工学部 電気工学科	橋本 栄二
1957	第1理工学部 電気通信学科	幕田 健	1969	理工学部 電気通信学科	佐藤 祐介
1957	第2理工学部 電気工学科	土屋 篤	1970	理工学部 電気工学科	佐藤 増雄
1957	工業高等学校 電気科	堀内 恒憲	1970	理工学部 電気通信学科	
1958	第1理工学部 電気工学科	野口 尚宏	1971	理工学部 電気工学科	草間 晴夫
1958	第1理工学部 電気通信学科	厚東 健彦	1971	理工学部 電気通信学科	町山 晃
1958	第2理工学部 電気工学科	深澤 眞一	1972	理工学部 電気工学科	木村 裕恒
1958	工業高等学校 電気科	中川 正則	1972	理工学部 電気通信学科	小川 豊
1959	第1理工学部 電気工学科	浅村 皓	1973	理工学部 電気工学科	斎藤 涼夫
1959	第1理工学部 電気通信学科	駒田 和民	1973	理工学部 電気通信学科	武藤 信夫

卒年／学部・学科		氏名	卒年／学部・学科		氏名
1974	理工学部 電気工学科	小野 治	1987	理工学部 電子通信学科	阿野 茂浩
1974	理工学部 電気工学科	島田健夫三	1988	理工学部 電気工学科	工藤 真
1974	理工学部 電気通信学科	花澤 隆	1988	理工学部 電子通信学科	
1975	理工学部 電気工学科	佐藤 勝雄	1989	理工学部 電気工学科	林 泰弘
1975	理工学部 電気通信学科	酒井 富夫	1989	理工学部 電子通信学科	河野 志行
1976	理工学部 電気工学科	中谷 義昭	1990	理工学部 電気工学科	田中 貞嗣
1976	理工学部 電子通信学科	宇高 勝之	1990	理工学部 電子通信学科	
1977	理工学部 電気工学科	乾 昭文	1991	理工学部 電気工学科	西野 弘昭
1977	理工学部 電子通信学科		1991	理工学部 電子通信学科	
1978	理工学部 電気工学科	川勝 裕之	1992	理工学部 電気工学科	江口 弘
1978	理工学部 電子通信学科	北野 昌宏	1992	理工学部 電子通信学科	
1979	理工学部 電気工学科	森 啓之	1993	理工学部 電気工学科	太田 昌人
1979	理工学部 電子通信学科		1993	理工学部 電子通信学科	井上 雅広
1980	理工学部 電気工学科	笠原 博徳	1994	理工学部 電気工学科	佐藤 環
1980	理工学部 電子通信学科	宇田川重雄	1994	理工学部 電子通信学科	
1980	理工学部 電子通信学科	滝川好比郎	1995	理工学部 電気工学科	豊島 成彦
1981	理工学部 電気工学科	長沢 可也	1995	理工学部 電気工学科	春山 智
1981	理工学部 電子通信学科	森村 実	1995	理工学部 電子通信学科	山田 智紀
1982	理工学部 電気工学科	齋藤 則生	1995	理工学部 情報学科	西松 研
1982	理工学部 電子通信学科	清水 眞	1996	理工学部 電気工学科	吉澤 正克
1983	理工学部 電気工学科	小林 正和	1996	理工学部 電子通信学科	千脇 隆
1983	理工学部 電子通信学科		1996	理工学部 情報学科	村山 和宏
1984	理工学部 電気工学科	宮部 潤	1997	理工学部 電気電子情報工学科	佐藤 和幸
1984	理工学部 電子通信学科	小沼 和夫	1997	理工学部 電子通信学科	菊地 俊介
1985	理工学部 電気工学科	菅野 和男	1997	理工学部 情報学科	寛 一彦
1985	理工学部 電気工学科	寺本 哲	1998	理工学部 電気電子情報工学科	大井 祐子
1985	理工学部 電子通信学科	中村 寛	1998	理工学部 電子・情報通信学科	茂垣 武文
1986	理工学部 電気工学科	占部 博信	1998	理工学部 情報学科	園田 智也
1986	理工学部 電子通信学科		1999	理工学部 電気電子情報工学科	勝田 喬雄
1986	大学院電気工学専攻	原 洋	1999	理工学部 電子・情報通信学科	
1987	理工学部 電気工学科	丸山 和茂	1999	理工学部 情報学科	秋岡 明香

卒年／学部・学科			氏名	卒年／学部・学科			氏名
2000	理工学部 電気電子情報工学科		田中 毅	2010	大学院先進理工学研究科 電気・情報生命専攻		上條 秀一
2000	理工学部 電子・情報通信学科		宮澤 敏記	2010	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科		安川 要平
2000	理工学部 情報学科		宮島 崇浩	2011	先進理工学部 電気・情報生命工学科		難波 裕
2001	理工学部 電気電子情報工学科		伊藤 俊秀	2011	先進理工学部 電気・情報生命工学科		廣瀬 雄一
2001	理工学部 電子・情報通信学科			2011	基幹理工学部 情報理工学科		石塚 祥
2001	理工学部 情報学科			2011	基幹理工学部 電子光システム学科		藪 翔平
2002	理工学部 電気電子情報工学科		金子 大作	2012	先進理工学部 電気・情報生命工学科		高山 俊樹
2002	理工学部 電子・情報通信学科			2012	先進理工学部 電気・情報生命工学科		室伏 勇
2002	理工学部 情報学科		堀井 洋	2012	基幹理工学部 情報理工学科		赤坂 宏行
2003	理工学部 電気電子情報工学科		布施 則一	2012	基幹理工学部 電子光システム学科		松下明日香
2003	理工学部 電子・情報通信学科			2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科		相場 貴之
2003	理工学部 情報学科		蛭田 智則	2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科		薄井 綾香
2004	理工学部 電気電子情報工学科		深澤 知憲	2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科		古井三誉子
2004	理工学部 電子・情報通信学科			2013	基幹理工学部 情報理工学科		高橋 翔平
2004	理工学部 情報学科		平手 勇宇	2013	基幹理工学部 電子光システム学科		施 凱齡
2005	理工学部 電気電子情報工学科		田中 秀郷	2013	基幹理工学部 電子光システム学科		橋口 誠広
2005	理工学部 電気電子情報工学科		菊間 俊明	2014	先進理工学部 電気・情報生命工学科		川和田達也
2005	理工学部 電子・情報通信学科			2014	先進理工学部 電気・情報生命工学科		河へーみん
2005	理工学部 情報学科		木村 浩章	2014	先進理工学部 電気・情報生命工学科		高松 克明
2006	理工学部 電気電子情報工学科			2014	基幹理工学部 情報理工学科		丸小 倫己
2006	理工学部 電子・情報通信学科			2014	基幹理工学部 電子光システム学科		高野 正範
2006	理工学部 情報学科		鈴木 幹也	2014	基幹理工学部 電子光システム学科		秋山 隼哉
2007	理工学部 電気・情報生命工学科		立石 拓也	2015	先進理工学部 電気・情報生命工学科		高橋 康太
2007	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科		村松 裕介	2015	基幹理工学部 情報理工学科		無州 祐也
2008	理工学部 電気・情報生命工学科		夏井 正嗣	2015	基幹理工学部 電子光システム学科		和泉 聡志
2008	理工学部 電気・情報生命工学科		彦坂 早紀	2015	基幹理工学部 電子光システム学科		小出 隆太
2008	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科		藍田 尚吾	2016	先進理工学部 電気・情報生命工学科		永川 恭州
2009	理工学部 電気・情報生命工学科		白土 聡	2016	基幹理工学部 情報理工学科		飯島 直輝
2009	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科			2016	基幹理工学部 電子物理システム学科		遠藤 清
2010	理工学部 電気・情報生命工学科		佐藤 博亮	2016	基幹理工学部 電子物理システム学科		加藤かなみ
2010	理工学部 電気・情報生命工学科		蓬田 裕菜				

*空欄の評議員を募集しています。評議員を交替された場合は事務局までお知らせください。

2015年度終身会費納入者一覧

山本 隆一	1967 電気	手塚 一之	1957 電気	高橋 悠希	2004 情報
角尾 光宏	2007 電気	生嶋廣三郎	1951 電通	吉野 慎一	1977 電通
川口 浩一	1965 電気	前田 武志	1971 電通	樽井 良行	1960 専通
平石 了	1954 電気	青木 徹	2009 電生	寄木 享	1959 専電
豊島 政実	1962 電気	大堀 治善	1983 電気	田中 芳幸	1975 電気
村井 茂信	1978 電気	尾形 敏明	1973 電通	梅崎 裕利	2012 電子
高須 雄一	2012 情報	村田 博之	1957 電気	磯部 哲也	1966 電通
女部田周一	1977 電気	今泉 和浩	2007 C S	築嶋 健輔	1990 電通
中津川征士	1987 電通	石本 和之	2007 電生	川内 信行	1959 専電
古田 哲治	1961 電気	水野 裕識	1991 電通	嶋 英樹	2004 情報
田原 旬	2008 C S	成原寛太郎	2013 情報		

◇賛助会員

井上 真一	1958 電気	川瀬 義隆	1967 電気	手塚 典雄	1951 電気
-------	---------	-------	---------	-------	---------

◇ご寄付ありがとうございました

尾形 敏明	1973 電通	園田 忠一	1950 電気	藤井 英雄	1964 電気
白石吉三郎	1962 電気	片山 修造	1967 電気		

◇お悔やみ申し上げます。(2015年度にお知らせいただいた訃報を掲載しております)

お名前	卒年	学科	ご逝去日	お名前	卒年	学科	ご逝去日
中林 進	1943	高電	2010年1月16日	高橋勇二郎	1968	電通	2006年
青木 勝彦	1965	工高電	2012年頃	長倉 功	1964	電通	2015年3月15日
十代田洋勝	1961	電通	2013年6月8日	高橋 光弘	1958	電気	2014年7月26日
只木 信通	1953	電気	不明	和知 健佑	1958	電気	2014年6月
宮崎 清	1973	電気	2012年	小林 健一	1956	電子修	2014年9月26日
福島啓一郎	1973	電気	2015年2月10日	上田 両	1947	工電	2010年
細井 正義	1941	専工電	2007年	山本 眞巳	1956	電気	不明
太田 義夫	1947	電気	2007年9月23日	染野 昌之	1954	電気	2014年9月27日
藤井 秀夫	1954	電気	2015年4月9日	田伏 真之	2002	情報	不明
中村 晃彰	1969	電気	2001年12月	大久保健彦	1947	電通	2014年9月2日
林原 朗	1946	電通	2012年6月	伊藤 英雄	1945	電気	2015年3月13日
鶴 健二郎	1958	電気	2014年3月25日	池谷 晃	1947	専工電	2005年
篠崎 敬	1958	電通	2015年3月13日	平石 子郎	1937	電気	2006年1月10日
中村 久雄	1951	電気	2014年3月30日	小林 正紀	1944	専工電	2009年11月
篠塚 博徳	1968	電気	2011年10月3日	榎本 立巳	1950	電気	2013年10月3日
山本 健一	1928	工手	1988年	荻原 豊治	1964	電気	2014年7月29日
佐藤 智之	1962	電通	2014年7月23日	瀬尾 和男	1953	電気	2015年4月11日
上吉原敏夫	1949	専工通	不明	浜田 得男	1951	電気	不明
中島 正作	1954	電気	2011年9月	上野宗三郎	1953	電通	2014年4月
関 達	1961	電気	2014年10月5日	神崎 定夫	1949	専工通	2014年5月15日
石野 友也	1955	電気	2015年1月22日	福間 一男	1946	電気	2010年
阿部 三夫	1956	電気	不明	坂 光郷	1950	専工通	2014年10月31日
太田 淳	1955	電気	2015年1月	島山 武夫	1967	電通	不明
角田十三男	1961	電通	2013年7月5日	荻野 亮一	1947	専工電	1993年6月

お名前	卒年	学科	ご逝去日	お名前	卒年	学科	ご逝去日
詫間 高夫	1947	専工電	2015年3月24日	銭場 敬	1963	電気	2010年
石橋 浩司	1951	電気	2008年6月29日	桜井 貞明	1963	電気	2011年
川上 隆司	1944	電通	2007年1月	加藤 真一	1963	電気	2015年
日原 襄	1951	電気	2014年2月8日	藤澤 昭二	1951	電通	2013年12月26日
木下 康夫	1956	電気	2007年12月18日	平山 博	1944	電通	2015年6月29日
落合秀一郎	1955	電気	2013年5月25日	石原 智治	1959	電通修	2015年
丸山 隆男	1959	電通	2015年1月19日	松本 洋	1946	電通	2015年7月21日
益澤 功	1965	電気	2014年10月4日	馬場 勉	1967	電通	2015年5月18日
青池 博	1961	電通	2015年1月	井上 真一	1958	電気	2014年8月
農澤 靖夫	1943	電気	2007年7月	佐野 祐史	1954	電通	2015年10月17日
阿久津敏幸	1969	電通	2013年	岡田 鍾吾	1963	電通	2014年12月16日
鳥田 武	1954	電気	2015年1月	臼杵 伸	1943	専工電	2015年10月3日
竹内 彦二	1959	電気	2011年12月	村野 秀夫	1965	電気	2015年6月1日
大隅 聡	1958	電気	2006年11月24日	山中 直樹	1965	電気	2015年2月
小堀 雄司	1958	電気	2005年10月	阿部 汎雄	1964	電気	2014年11月23日
三井 宏光	1961	電通	2011年5月	荒畑 吉邦	1964	電気	2012年2月6日
田中 謙二	1959	電気	2010年12月	津村 文男	1964	電気	2012年2月
大川 雅彦	1955	電気	2014年9月8日	桑原 利通	1944	電気	2015年12月29日
江坂 一雄	1937	電気	2007年1月12日	藤野 克彦	1948	専工電	2009年2月
佐藤 雄司	1969	電気	2012年7月	塚田 啓一	1960	電通	2015年12月31日
桑原 忠良	1965	電通	2015年4月3日				
井出 鐵男	1953	電気	2015年4月3日				
有吉 昶	1957	電気	2014年9月23日				
鈴木 孝則	1965	電通	2015年2月27日				

表紙デザイン

表紙は昨年11月19日にご講演いただいた電気・情報生命工学科／専攻の柴田先生の「体内時計を中心とした機能の模式図」です。

編集後記

大学を卒業して以来、早15年余りが過ぎました。学生時代は学業もそこそこにサークル活動に明け暮れる毎日でした。

就職後は、大学主催の講演会に参加したり、リクルート活動をする際に時折学校を訪れたりしました。いつの間にか新設のキャンパスが出来、キャンパス直下に地下鉄の駅が出来る中で、西早稲田キャンパスに改称されて私の学生時代とは異なる大学の益々の発展を感じ続けておりました。

一方で、社内大学OB会幹事団の一員として活動し、社内会員分を取り纏めてEWE会費の一括納入をする程度で、会費の使用用途、EWEの活動について詳細を知らずに過ぎてまいりました。数年前から学会活動や共同研究を通じて先生方や、学生と交流する機会が多くなり、増々大学との関係を深め、今に至ります。ついに昨年、先輩から体育会系の断れない形でご指名をいただきましたが、これも何かのご縁と受け止め、EWE理事を拝命致しました。EWE理事になって活動の詳細を知ることとなり、松本会長を始め学生時代の恩師の方々と共にEWE活動に携わるとは講義を受けた学生時代には夢にも思わず、社会人の今でも驚くばかりです。

EWEは大学と企業を繋ぐ大きな橋渡し役となり、EWE先輩との交流会はもちろん、多くの会員の方々よりご支援を賜るおかげで、全国に支部を配置して活動がなされ、学生時代から生涯に至るまでの交流を実現する絶好の機会を提供してくれます。

編集委員としてEWE活動を情報発信する責務のあるため、微力ながら活動全般について網羅した会報の作成や、会員の皆様の期待に応えられるように精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。

(編集担当理事：田中 毅)

早稲田電気工学会会報

第 57 号

2016年 3月24日 発行

発行所 〒169-8555

東京都新宿区大久保 3 - 4 - 1

早稲田大学西早稲田キャンパス内

早稲田電気工学会 事務局

直通電話：03-3232-9768

(FAX兼用)

郵便振替口座 00140-4-23500

URL <http://www.ewe.or.jp/>

E-mail jimukyoku@ewe.or.jp

©早稲田電気工学会 2016